

平成21年度文部科学省委託調査報告書

学習指導と学習評価に対する意識調査 報告書

平成22年1月

財団法人 日本システム開発研究所

CONTENTS

序章 本調査の概要	1
第1章 学習指導と学習評価に対する意識調査（教員編）	3
教員向けアンケート調査の概要	3
- 1. 調査の目的	3
- 2. 調査の対象及び調査方法等	3
- 3. 回収状況	3
- 4. 回答者の属性	5
学習指導と学習評価に関する実態及び考え・意識等	11
- 1. 学習指導や学習評価の実態	11
- 2. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する考え・意識	18
- 3. 学習指導・学習評価や観点別学習状況の評価の実態	31
目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等に対する考えや保護者への説明に関する 過去調査との比較	40
- 1. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員意識の変化	40
- 2. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等の趣旨についての保護者への説明状況の変化	46
第2章 学習指導と学習評価に対する意識調査（保護者編）	47
保護者向けアンケート調査の概要	47
- 1. 調査の目的	47
- 2. 調査の対象及び調査方法等	47
- 3. 回収状況	48
- 4. 回答者の属性	48
学校での学習指導や学習評価に対する説明状況や保護者としての考え等	50
- 1. 学校での授業や学習指導に対する要望	50
- 2. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）についての周知・説明状況及び保護者としての考え	52
- 3. 子どもの授業の理解度や集団の中の相対的な位置付けに係る学校からの説明状況	56
目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する考えや学校からの説明状況に関する 過去調査との比較	58
- 1. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する保護者の考えの変化	58
- 2. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の趣旨等に関する学校からの説明状況の変化	61

第3章 学習指導と学習評価に関する教員と保護者の意識の比較	62
授業や学習指導に対する教員の意識と保護者の要望との比較.....	62
目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の趣旨等に関する 保護者への説明状況の比較.....	66
目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)等の学習評価についての 教員・保護者の考えの比較	71
第4章 小学校における外国語教育に関する調査	76
調査の概要.....	76
- 1. 調査の目的.....	76
- 2. 調査の対象及び調査方法等.....	76
- 3. 回収状況.....	76
調査の結果.....	77
- 1. 小学校における外国語教育の実施時期.....	77
- 2. 小学校における外国語教育に対する考え.....	79
参考資料	
小学校教員調査票(学習指導と学習評価).....	85
中学校教員調査票(学習指導と学習評価).....	92
高校教員調査票.....	99
保護者調査票.....	106
小学校教員調査票(小学校における外国語教育).....	109
中学校教員調査票(小学校における外国語教育).....	111

序章 本調査の概要

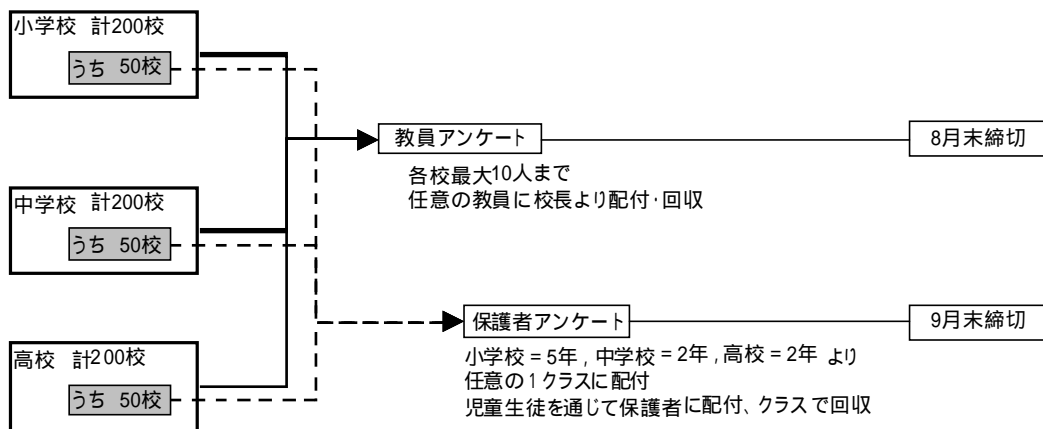
序 - 1 . 調査の趣旨及び目的

本調査は、全国の小・中・高校の教員及び保護者に対し児童生徒の学習指導と学習評価に関する意識調査を実施し、学校現場で生じている様々な課題を明らかにするとともに、今後の学習評価等のあり方に係る専門的な検討に資する資料を得ることを目的として実施したものである。

序 - 2 . 調査の流れ

本調査は、大きく 教員向けアンケートと 保護者向けアンケートに分かれており、各調査の実施方法は以下のとおりである。

図表-1 本調査の流れ



図表-2 各調査の対象等

	教員向けアンケート調査	保護者向けアンケート調査
調査対象	全国から無作為抽出された小・中・高校（各 200 校）の教員 各 2,000 人（計 6,000 人）	左記のうち4分の1の小・中・高校（各 50 校）に通う児童生徒の保護者
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全国から国立、公立及び私立の小・中・高校を各 200 校ずつ無作為抽出し、実施要領と調査票 10 票を配付 ・各サンプル校において、校長が、調査対象となる教員を、学年・教科をなるべくランダムになるよう 10 名選び、調査票を配付（但し教員が 10 名に満たない場合はそれ以下） ・調査対象教員は、各自回答の上、調査票を封筒に入れ校長に提出 ・校長は、各教員から調査票（封入されたもの）を回収し、学校単位でまとめて返送 	<ul style="list-style-type: none"> ・のサンプル校のうち4分の1（計 150 校）を選定し、保護者向けアンケート票を配付（文部科学省からの配付数 計 6,475 枚） ・各サンプル校において、小学校は5年生、中学校は2年生、高校は2年生の中で任意の1クラスを選び、児童生徒を通じて保護者にアンケートと封筒を配付 ・保護者は、各自家庭にて回答の上、調査票を封筒に入れ、児童生徒を通じて学校に提出 ・学校は、クラスで回収した保護者票（封入されたもの）をまとめて返送
調査時期	8月中旬 調査票配付 8月末日 調査票の回答期限	8月中旬 調査票配付 9月中旬 学校より調査票を回収

序 - 3 . 回答学校数及び回収サンプル数

回答学校数及び回収サンプル数は以下のとおりである。

図表-3 各アンケート調査の対象・回答学校数及び回収サンプル数

		小学校	中学校	高校	合計
教員調査	対象学校数 (校)	200	200	200	600
	回答学校数 (校)	179	172	172	523
	調査票発送数 (枚)	2,000	2,000	2,000	6,000
	教員回答数 (人)	1,659	1,628	1,691	4,978
	回収率 (%)	83.0%	81.4%	84.6%	83.0%
	1校平均回答数 (人)	9.3	9.5	9.8	9.5
保護者調査	対象学校数 (校)	50	50	50	150
	回答学校数 (校)	42	40	41	123
	調査票発送数 (枚)	1,795	2,180	2,500	6,475
	保護者回答数 (人)	1,117	1,222	1,474	3,813
	回収率 (%)	62.2%	56.1%	59.0%	58.9%
	1校平均回答者数 (人)	26.6	30.6	36.0	31.0

「回収率」は文部科学省からの発送数に対する回収数の比率を表している。教員及び保護者への配付は校長に依頼しており、また実際に調査対象となる保護者の人数は各校で調査対象とするクラスの児童生徒数等によるため、実際に対象者の手元に渡った数は不明である。

序 - 4 . 集計にあたって

集計結果グラフについての見方は、以下のとおりである。

「回答者数 (N)」とは、当該設問に回答すべき対象を表す。

各選択肢に対する回答割合 (%) は、当該設問に回答すべき対象のうち、当該選択肢を選んだ人数を回答者数 (N) で除したものである。

「無回答」とは、当該設問に回答すべき対象のうち、当該設問に回答のなかった人数を表す。回答割合 (%) は小数点第 2 位を四捨五入しているため、単一回答 (選択肢の中からあてはまるものを一つだけ選ぶ設問) であっても合計が 100 にならない場合がある。

クロス集計のグラフでは、各属性設問に対する無回答を除いている。

第1章 学習指導と学習評価に対する意識調査(教員編)

教員向けアンケート調査の概要

- 1. 調査の目的

本調査は、全国の小・中・高校の教員に対し児童生徒の学習指導と学習評価に関する意識調査を実施し、学校現場で生じている様々な課題を明らかにするとともに、今後の学習評価等の在り方に係る専門的な検討に資する資料を得ることを目的として実施したものである。

- 2. 調査の対象及び調査方法等

(1) 調査対象

全国から無作為抽出された小・中・高校の教員 各 2,000 人 (計 6,000 人)

(2) 対象方法

- ・ サンプル校となる学校を小・中・高校それぞれ 200 校ずつ無作為抽出(国立、公立及び私立を含む。)し、実施要領と調査票 10 票を配付
- ・ 各サンプル校において、校長が、調査対象となる教員を、学年・教科をなるべくランダムになるよう 10 名選び、調査票を配付(但し教員が 10 名に満たない場合はそれ以下)
- ・ 調査対象教員は、各自回答の上、調査票を封筒に入れ校長に提出
- ・ 校長は、各教員から調査票(封入されたもの)を回収し、学校単位でまとめて返送

(3) 調査時期

8月中旬 調査票配付
8月末日 調査票の回答期限

(4) 調査項目

回答者属性(性別・年齢・職名・担当学年等)及び勤務する学校の属性(設置形態等)
学習指導や学習評価の状況

なお、具体的な設問の流れ及び各設問の内容については、次頁の図表 1-2 のとおりである。

- 3. 回収状況

回収状況は以下のとおりである。

図表1-1 教員向けアンケート調査 回収状況

	小学校	中学校	高校	合計
対象学校数 (校)	200	200	200	600
回答学校数 (校)	179	172	172	523
調査票発送数 (枚)	2,000	2,000	2,000	6,000
教員回答数 (人)	1,659	1,628	1,691	4,978
回収率 (%)	83.0%	81.4%	84.6%	83.0%
1校平均回答数 (人)	9.3	9.5	9.8	9.5

「回収率」は文部科学省からの発送数に対する回収数の比率を表している。教員への配付は校長に依頼しており、教員が 10 人に満たない学校もあるため、実際に対象者の手元に渡った数は不明である。

図表1-2 教員向けアンケート調査 調査項目一覧

		設 問	タイプ ¹	小	中	高	
属 性	1	性別	SA				
	2	年齢	SA				
	3	職名等	SA				
	4	学級担任か（担任の場合受け持っている学年）	SA				
	5	担任をしている学級の児童数又はのべ指導生徒数	SA				
	6	指導教科等	MA				
	7	週当たりの担当授業時数	I				
	8	勤務先の学校設置形態	SA				
	9	勤務先学校の学級数	SA				
学 習 指 導 や 学 習 評 価 の 状 況	1	授業や学習指導において心掛けていること	MA3				
	2	学習内容の習得が不十分な(知識・理解などに課題がある)児童生徒の把握方法	MA3				
	3	児童生徒の思考力、判断力、表現力等の評価方法	MA3				
	4	児童生徒の関心・意欲・態度の評価方法	MA3				
	5	目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)や観点別学習状況の評価についての考え	各 SA				
	6	所属学校における観点別学習状況の評価の実施状況	MA	-	-		
	7	観点別学習状況の評価の実施状況	各 SA				
	8	観点別評価を踏まえた「評定」についての考え	各 SA				
	9	目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)や観点別学習状況の評価についての保護者への説明方法	MA				
	10	集団の中での児童生徒の相対的な位置付けに関する情報の扱い方	MA				
	11	「総合的な学習の時間」についての設定・評価方法	MA				
	12	「総合的な学習の時間」についての評価規準の設定状況	SA				
	13	指導要録における特別活動の記録方法に対する考え	SA			-	
	14	指導要録における「行動の記録」の記録方法に対する考え	SA			-	
	15	「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項	MA				
	16	学 習 指 導 と 学 習 評 価 の 実 態	学級全体の習得状況の確認、補充的又は発展的な指導の実施	SA			
			評価方法を検討する際に配慮する事柄	SA			
			実際の評価に当たっての評価の4観点の関係のとらえ方	SA			
観点別学習状況の評価の記録を行う頻度			SA				
「関心・意欲・態度」に関する評価			SA				
「評定」の決定の方法			SA				
17	各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況	各 SA					
18	学習指導、学習評価の在り方についての意見	FA					

1: 本表は小学校教員・中学校教員・高校教員それぞれに対するアンケート票から設問を統合整理したものであり、表中の設問番号は実際の調査票とは異なる。

2: 「タイプ」欄の各記号は、それぞれ以下のとおりである。

SA...単一回答(選択肢からあてはまるものをひとつ選んで回答)

MA...複数回答(選択肢からあてはまるものを全て選んで回答, MA3 はあてはまるものを3 つまで選んで回答)

FA...自由回答(設問についての考えなどを自由に記述)

I...数値回答(あてはまる数値を回答)

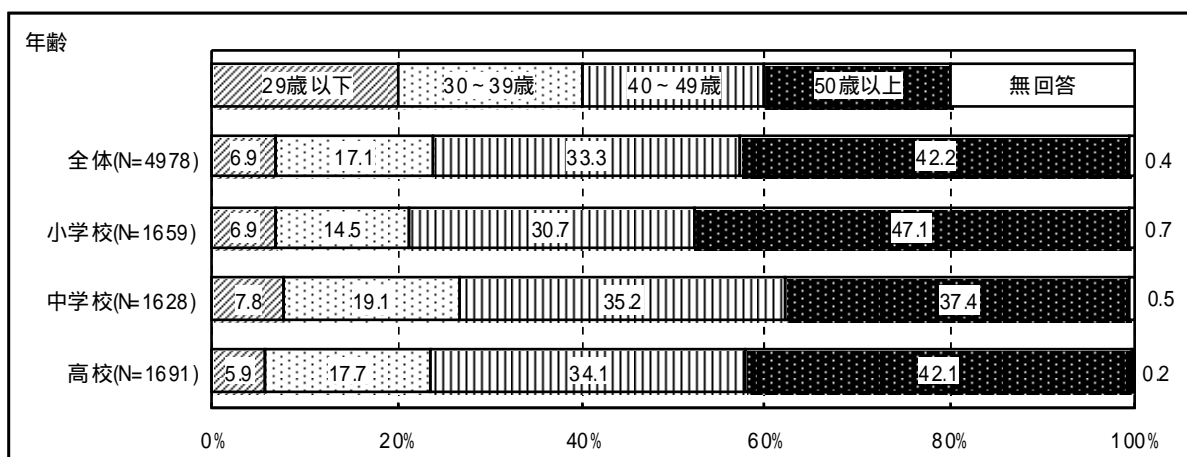
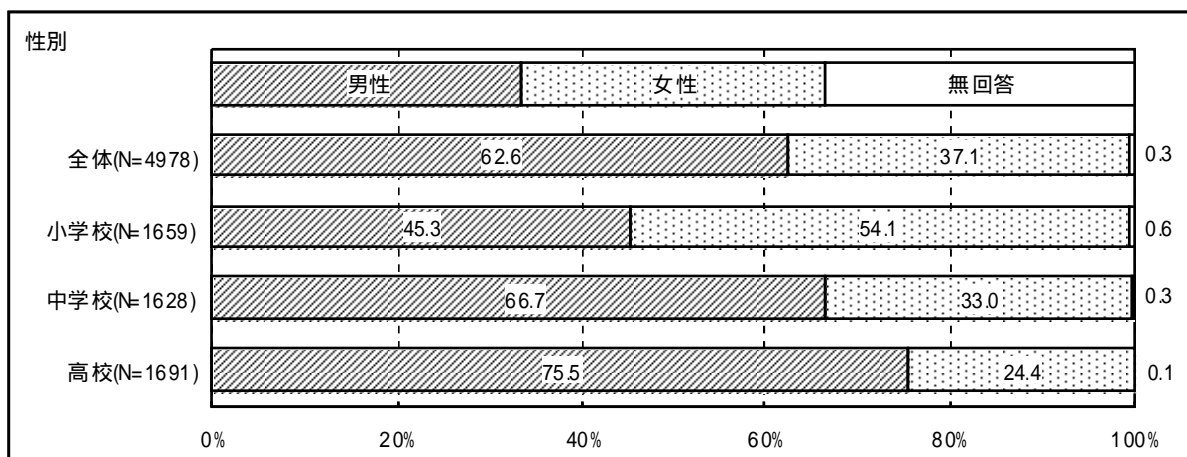
3: 小・中・高の各欄に「-」を付した項目は、それぞれの教員に対する調査票に含まれている調査項目である。

- 4 . 回答者の属性

(1) 性別・年齢

全体及び学校段階別

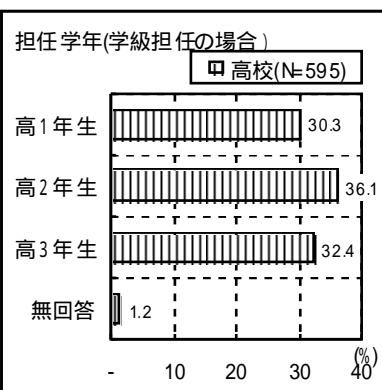
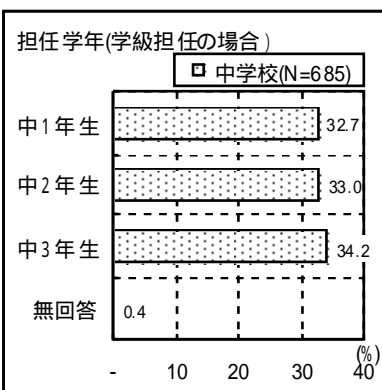
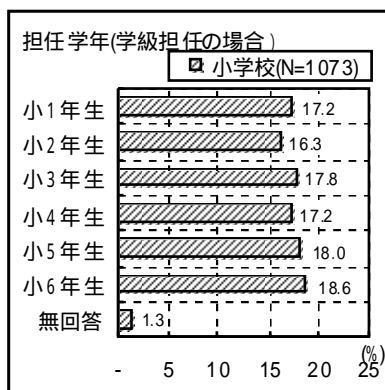
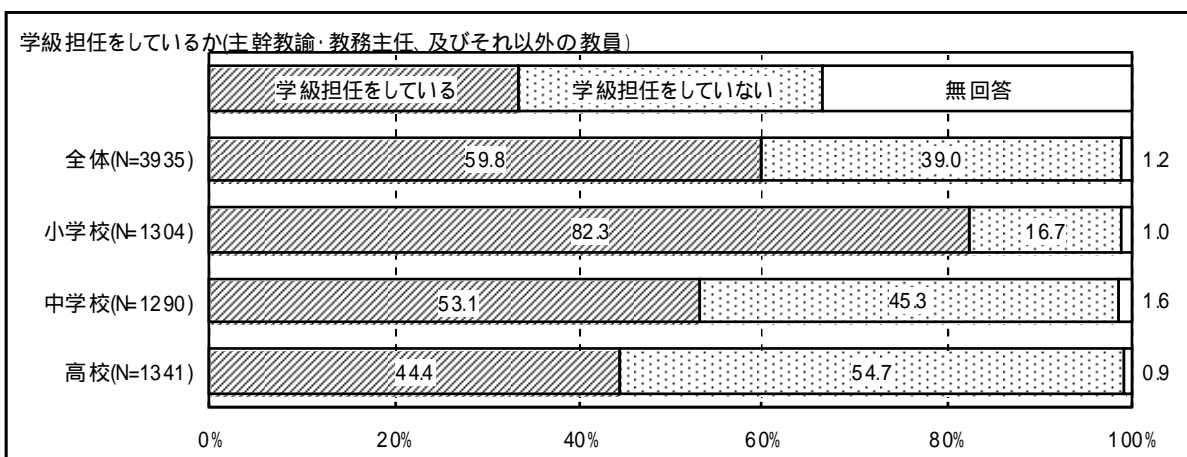
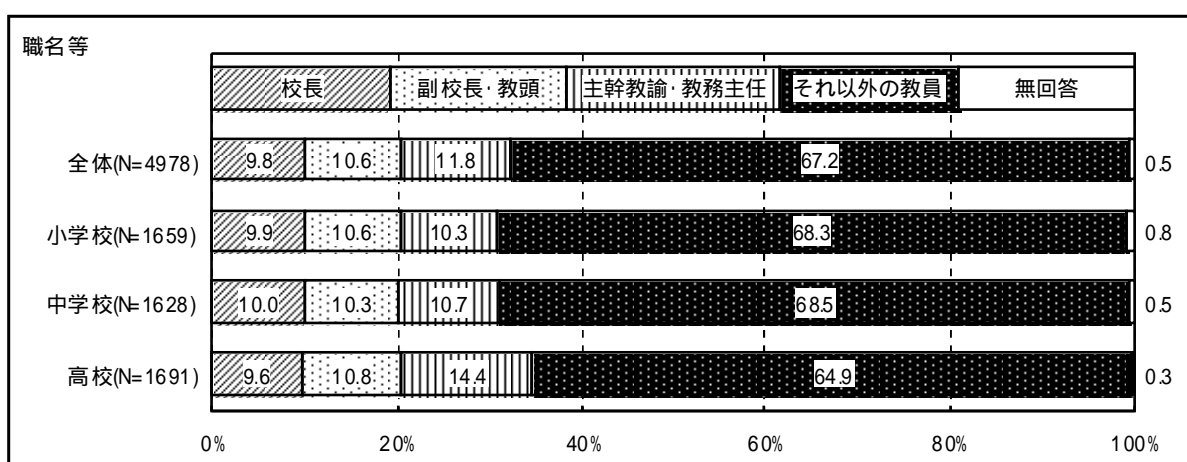
- ❖回答者の性別をみると、全体では「男性」が 62.6%、「女性」が 37.1%であり、学校段階別にみると、小学校では「男性」45.3%、「女性」54.1%、中学校では「男性」66.7%、「女性」33.0%、高校では「男性」75.5%、「女性」24.4%となっている。
- ❖なお、文部科学省の『平成 19 年度学校教員統計調査』における各学校段階別の男性教員比率（本務教員中の割合）をみると、小学校 38.3%、中学校 59.7%、高校 72.9%であり、本調査ではやや男性の割合が高かったことがわかる。
- ❖また、回答者の年齢をみると、「29 歳以下」が 6.9%、「30～39 歳」が 17.1%、「40～49 歳」までが 33.3%、「50 歳以上」が 42.2%である。
- ❖同じく『平成 19 年度学校教員統計調査』をみると、小中高全体では 20 代が 9.9%、30 代が 22.2%、40 代までが 34.8%、50 代以上が 33.1%であり、本調査では 20～30 代が少なく 50 代以上の割合が高かったことがわかる。



(2) 職名等・担当学年

全体及び学校段階別

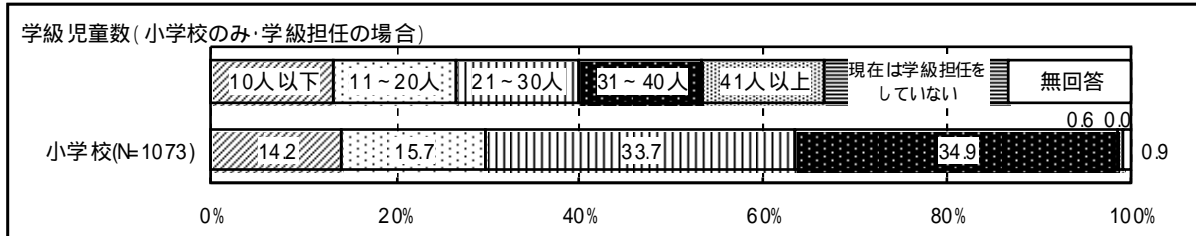
- ❖ 回答者のうち、「校長」は 9.8%、「副校長・教頭」は 10.6%、「主幹教諭・教務主任」は 11.8%、「それ以外の教員」は 67.2%である。本調査は、各校 10 票の調査票を校長宛に送付しており、1 校平均 9.5 人の回答が得られていることから、「校長」、「副校長・教頭」、及び「主幹教諭・教務主任」についてはほぼ各校 1 人ずつ回答されたことがわかる。
- ❖ さらに、「主幹教諭・教務主任」及び「それ以外の教員」(計 3,935 人)について、学級担任をしているかどうかをみると、全体では約 6 割が学級担任をしており、特に小学校では「学級担任をしている」が 82.3%と高くなっている。
- ❖ なお、担任をしている学年を詳しくみると、小学校・中学校・高校いずれも各学年の割合がほぼ均等であり、各校長が配票時になるべく学年をランダムにするよう配慮されたことがわかる。



(3) 担任をしている学級の児童数

全体(小学校のみ)

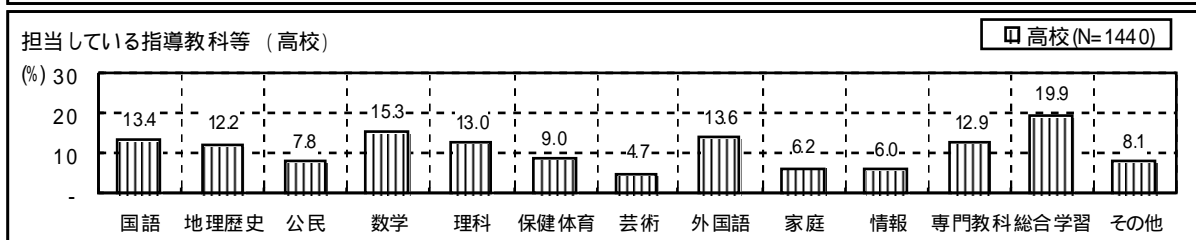
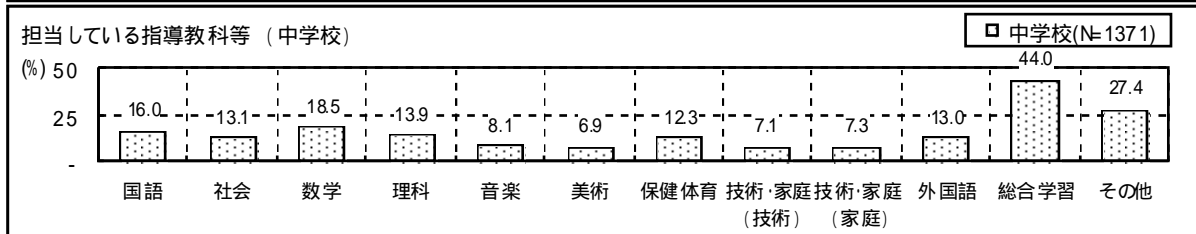
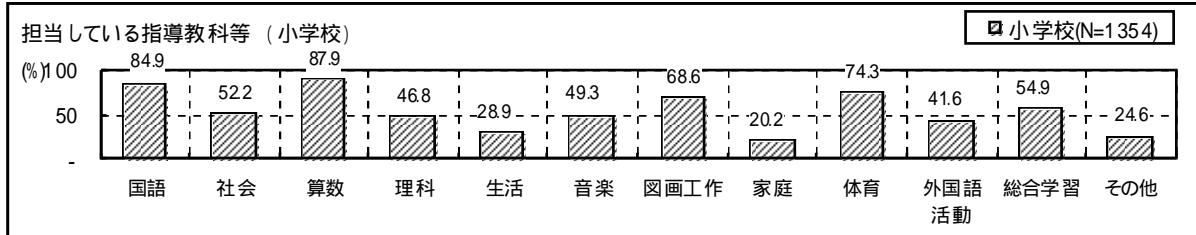
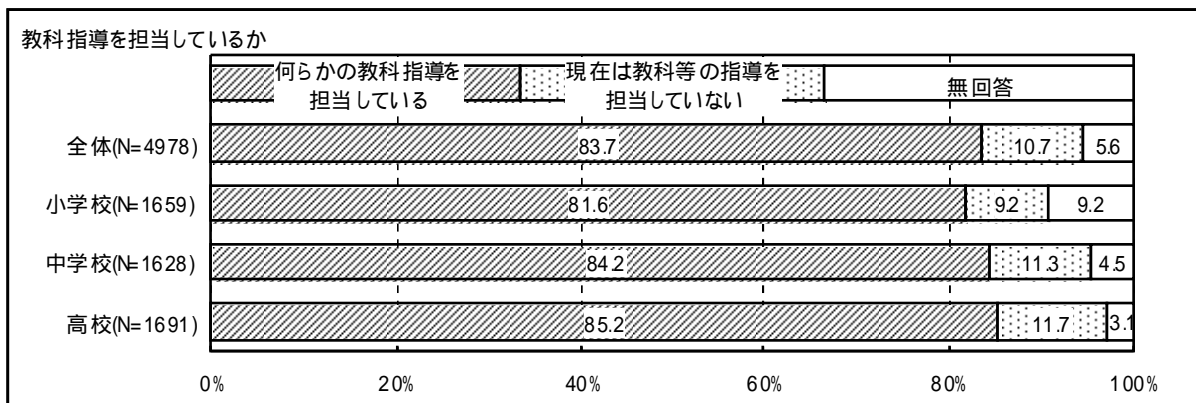
◆ 小学校において学級担任をしている教員(1,073人)について、担任をしている学級の児童数をみると、「21~30人」が33.7%、「31~40人」が34.9%とそれぞれ約3分の1を占めており、「10人以下」又は「11~20人」の学級はそれぞれ15%前後である。



(4) 教科等の指導状況と指導教科数

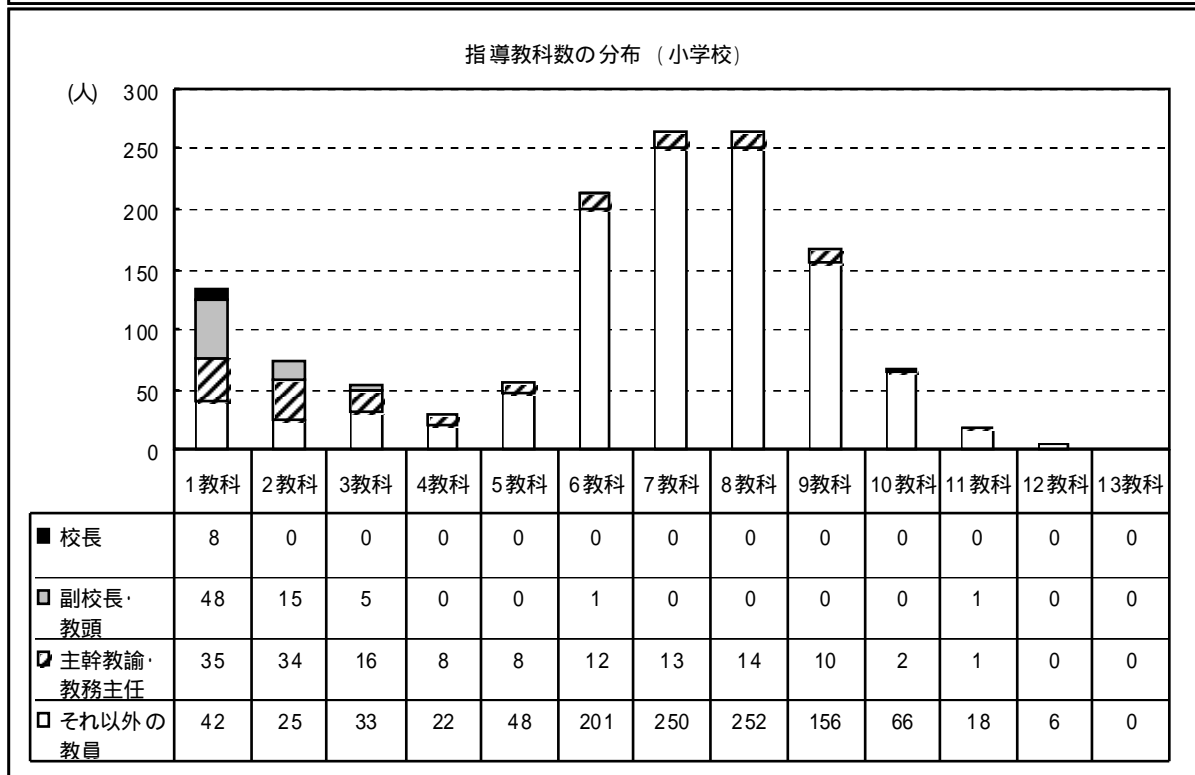
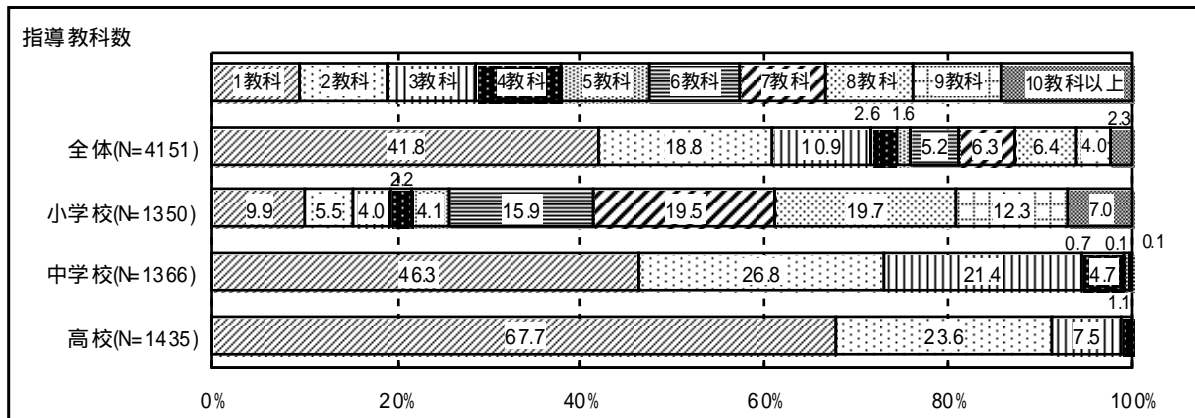
全体及び学校段階別

◆ 指導している教科等をみると、回答者のうち「現在は教科等の指導を担当していない」教員は10.7%であり、83.7%は何らかの教科等の指導を担当している。



指導教科数

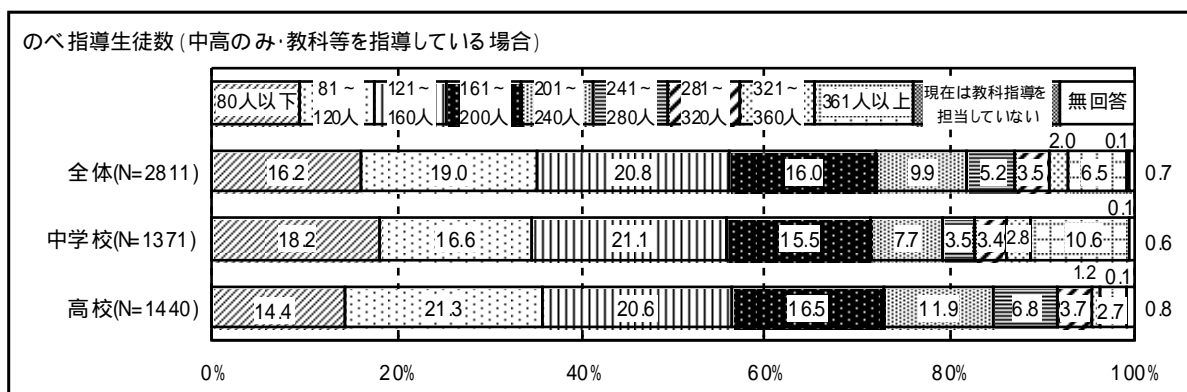
- ❖ 指導している教科数をみると、小学校では「6教科」以上担当している教員が多くなっている。
- ❖ これに対して、中学・高校をみると、「1教科」が中学校では46.3%、高校では67.7%と最も多く、4教科以上指導している教員はほとんどみられない。
- ❖ なお、小学校について、職名等別に指導教科数の分布をみると、「校長」や「副校長・教頭」の指導教科数は大部分が「1教科」であり、「主幹教諭・教務主任」も1・2教科程度が多くなっているが、「それ以外の教員」は大部分が6～9教科程度指導している。



(5) のべ指導生徒数(中学校・高校のみ)

全体及び学校段階別

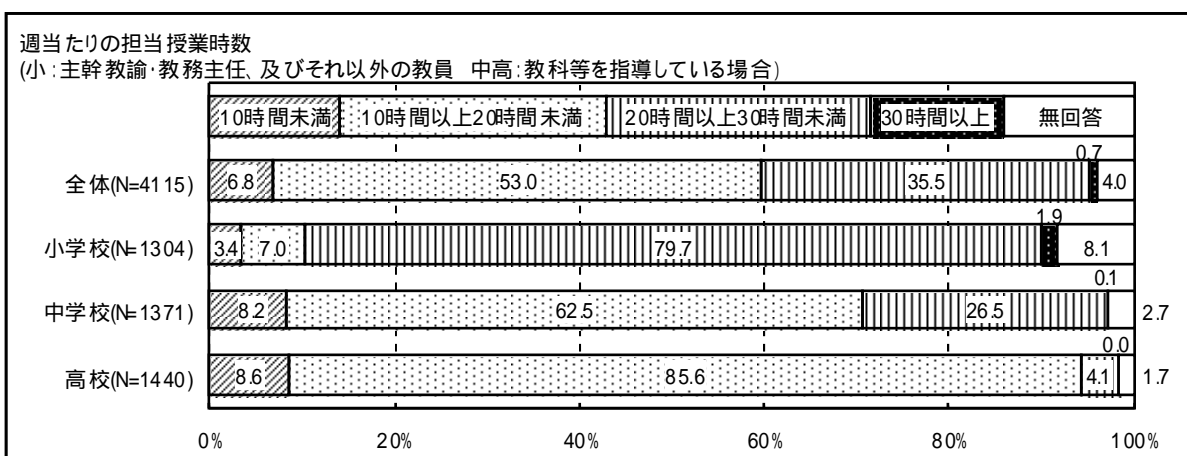
- ❖ 中学校又は高校において教科等を指導している教員(計 2,811 人)について、のべ指導生徒数をみると、「121~160人」が 20.8%と最も多く、次いで「81~120人」19.0%、「80人以下」16.2%、「161~200人」16.0%となっている。
- ❖ なお、学校段階別にみると、中学校では「361人以上」が 10.6%と比較的高い割合となっている。



(6) 週当たりの担当授業時数

全体及び学校段階別

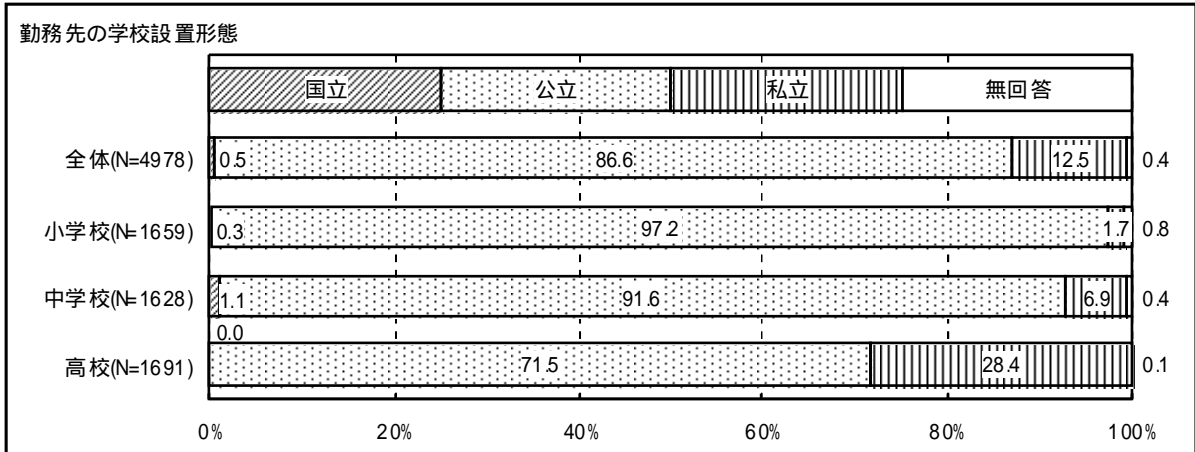
- ❖ 小学校の主幹教諭・教務主任及びその他の教員(校長・副校長等の役職者を除く)と中学校・高校で教科等の指導を行っている教員について、週当たりの担当授業時数を分類集計すると、小学校では「20時間以上30時間未満」が 79.7%と大部分を占めており、「10時間未満」は 3.4%、「10時間以上20時間未満」は 7.0%、「30時間以上」は 1.9%である。
- ❖ 一方、中学校及び高校では「10時間以上20時間未満」の割合が最も高く、それぞれ 62.5%、85.6%である。中学校では「20時間以上30時間未満」も 26.5%と比較的みられる。
- ❖ なお、これらの学校段階別の傾向は、『平成19年度学校教員統計調査』の結果と大きく異なるものではない。



(7) 勤務先の学校設置形態

全体及び学校段階別

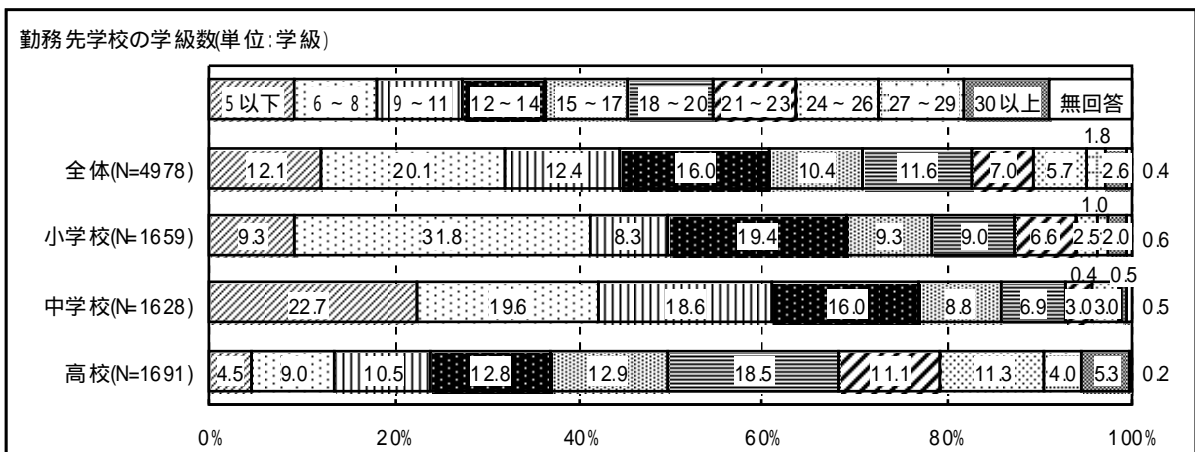
- ❖ 回答者が勤務する学校の設置形態をみると、大部分が「公立」であり、特に小学校・中学校では90%を超えている。
- ❖ 一方、高校では、「公立」は71.5%であり、「私立」が28.4%と比較的高い割合を占めている。



(8) 勤務先学校の学級数

全体及び学校段階別

- ❖ 回答者が勤務する学校の規模を学級数でみると、小学校では「6～8学級」が31.8%と最も多く、次いで「12～14学級」が19.4%、「5学級以下」及び「15～17学級」がそれぞれ9.3%となっている。
- ❖ 一方、中学校では、「5学級以下」が22.7%と最も多く、次いで「6～8学級」19.6%、「9～11学級」18.6%などと、学級数が多くなるにつれて割合が小さくなっている。
- ❖ 高校についてみると、最も多くを占めているのは「18～20学級」の18.5%であり、次いで「15～17学級」12.9%、「12～14学級」12.8%などとなっている。



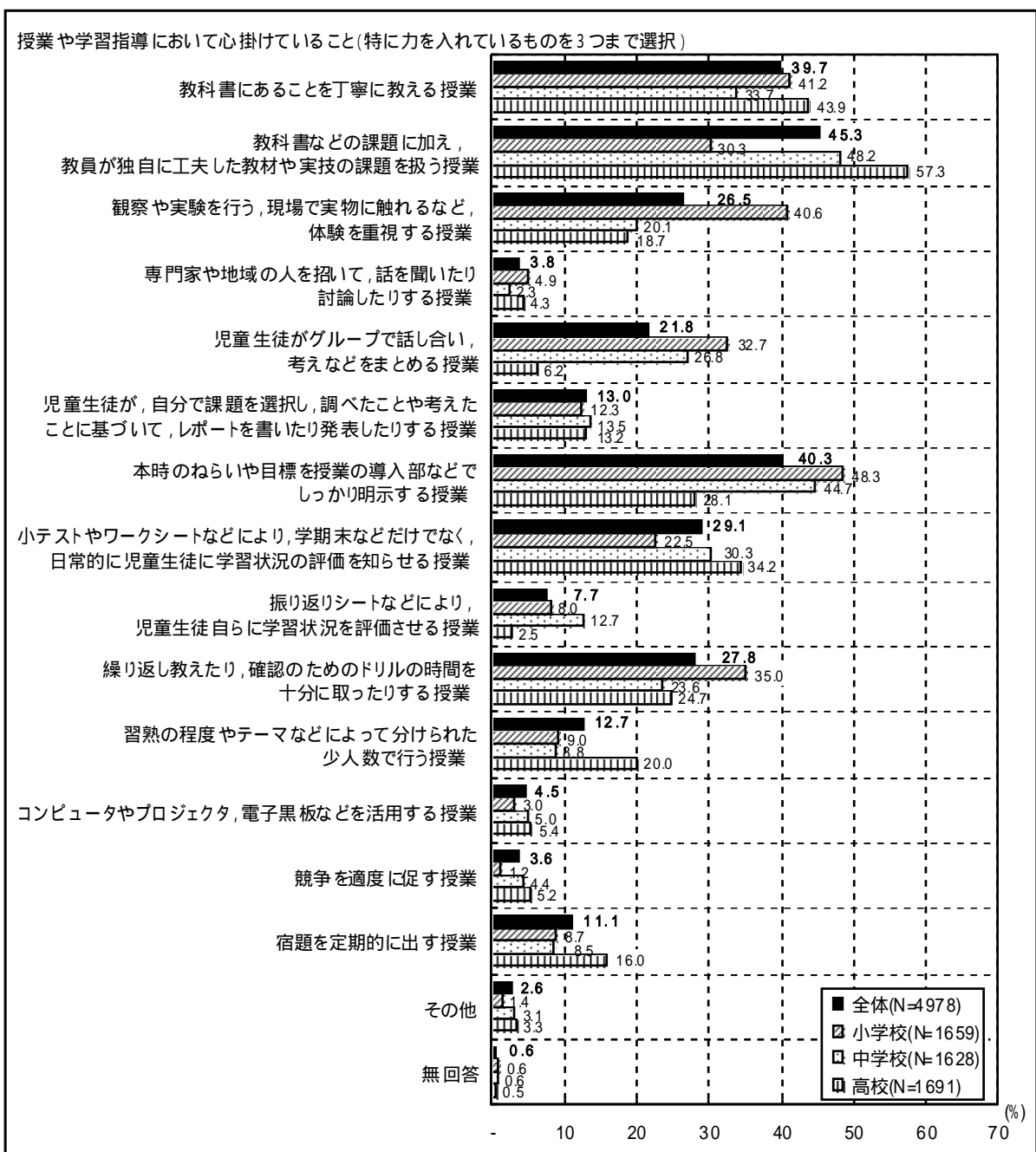
学習指導と学習評価に関する実態及び考え・意識等

- 1 . 学習指導や学習評価の実態

(1) 授業や学習指導において心掛けていること

全体及び学校段階別

- ◆各教員自身やあるいは勤務する学校が日ごろどのような授業や学習指導を心掛けているかをみると、全体では「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」が45.3%と最も高い割合となったほか、「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」(40.3%)や「教科書にあることを丁寧に教える授業」(39.7%)などが多くから挙げられている。
- ◆学校段階別にみると、小学校では「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」が48.3%と最も高いが、中学校及び高校では「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」が最も高くなっている。



担任学年別

- ❖ 学級担任をしている学年別に、どのような授業や学習指導を心掛けているかを比較すると、小学校では、「教科書にあることを丁寧に教える授業」、「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」などが各学年で上位に挙げられているが、低学年では「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」を心掛けているとする教員が多いことがわかる。
- ❖ これに対して、中学・高校をみると、各学年とも「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」が最も高い割合となっている。
- ❖ また、高校になると、「小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業」が40%近くと高くなっている。

授業や学習指導において心掛けていること	全体 (N) (2353)	小1 (185)	小2 (175)	小3 (191)	小4 (185)	小5 (193)	小6 (200)	中1 (224)	中2 (226)	中3 (234)	高1 (180)	高2 (215)	高3 (193)
教科書にあることを丁寧に教える授業	43.0	50.8	48.6	43.5	52.4	41.5	44.5	28.1	40.7	34.2	48.9	50.2	39.9
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	41.8	25.4	30.3	27.7	29.7	31.1	33.0	54.5	49.1	48.3	49.4	54.0	57.5
観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業	27.2	32.4	40.0	45.0	42.2	36.8	39.0	20.5	17.7	19.2	11.1	13.0	21.8
専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業	2.9	4.9	2.9	2.6	4.3	2.1	4.5	2.7	1.3	2.6	3.9	2.3	2.1
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	23.8	20.5	23.4	27.2	29.2	41.5	44.0	26.3	27.9	24.4	6.1	7.0	6.2
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	10.8	3.8	8.6	8.9	12.4	15.0	15.0	11.6	13.3	7.7	12.2	6.5	13.0
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	40.8	51.9	48.0	49.7	42.2	50.3	40.0	43.3	43.8	42.7	26.1	28.4	26.9
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	29.9	27.0	24.6	20.4	27.0	26.4	22.0	28.6	31.4	31.2	39.4	39.5	35.8
振り返りシートなどにより、児童生徒自らに学習状況の評価をさせる授業	7.5	7.0	5.1	6.8	7.0	4.7	8.5	12.1	11.5	12.8	3.9	2.8	2.6
繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業	31.5	56.2	42.9	41.4	35.7	29.5	28.5	22.8	25.7	23.1	35.0	24.7	28.5
習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	9.7	5.4	4.6	6.3	8.6	4.1	8.5	6.7	3.5	9.8	22.8	18.1	19.7
コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業	4.5	2.2	1.1	3.1	2.7	2.6	6.5	7.1	4.4	5.1	4.4	7.0	4.7
競争を過度に促す授業	3.4	1.6	0.6	1.6	1.1	2.1	2.0	5.4	5.8	4.3	3.3	7.0	4.7
宿題を定期的に出す授業	12.1	14.6	10.3	11.0	9.7	10.4	8.5	11.2	8.4	10.3	11.7	18.6	19.2
その他	2.5	1.6	2.9	2.6	0.5	0.0	1.0	2.7	2.2	3.4	3.9	4.2	5.2
無回答	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

塗りつぶしは、各学年の中で最も高い割合となっていた項目であり、太字は、30%以上の項目である。

中学校の指導教科別

- ◆中学校教員について、指導教科別に授業や学習指導において心掛けていることを比較すると、「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」や「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」が高い割合となっている。
- ◆また、理科では、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」が76.8%と高く、特に体験的な学習活動が重視されていることがわかる。
- ◆このほか、数学と外国語では、「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」が40%以上と比較的高い割合となっている。

授業や学習指導において心掛けていること (N)	全体 (1434)	中学校 指導教科別										
		国語 (220)	社会 (179)	数学 (254)	理科 (190)	音楽 (111)	美術 (95)	保健 体育 (169)	技術 (97)	家庭 (100)	外国語 (178)	その他 (375)
教科書にあることを丁寧に教える授業	33.8	35.9	43.0	44.1	33.2	24.3	15.8	23.7	27.8	21.0	36.0	35.2
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	50.3	44.1	56.4	46.1	39.5	71.2	63.2	51.5	52.6	59.0	57.9	50.9
観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業	19.9	2.7	6.1	9.1	76.8	15.3	12.6	12.4	48.5	39.0	5.1	17.3
専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業	2.1	1.8	1.1	1.6	1.6	3.6	3.2	2.4	4.1	3.0	2.2	1.3
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	25.9	34.1	31.3	23.2	21.6	27.9	17.9	32.0	23.7	22.0	11.2	24.0
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.8	17.7	17.9	3.5	14.7	9.9	12.6	11.2	17.5	18.0	6.2	11.5
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	45.0	49.5	41.9	40.2	37.9	46.8	62.1	52.7	39.2	43.0	44.4	48.3
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	29.2	48.2	35.2	33.1	24.2	15.3	15.8	11.8	13.4	22.0	41.0	30.9
振り返りシートなどにより、児童生徒自らに学習状況を評価させる授業	12.8	9.1	6.7	7.1	6.8	30.6	15.8	23.1	12.4	20.0	10.1	14.7
繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業	23.4	23.6	21.8	41.3	15.3	10.8	17.9	18.3	17.5	16.0	40.4	22.1
習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	7.2	5.9	1.7	14.2	3.2	5.4	10.5	10.7	6.2	10.0	6.2	6.4
コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業	5.2	1.4	5.0	3.9	7.9	4.5	11.6	5.3	15.5	7.0	2.8	5.3
競争を過度に促す授業	4.7	3.6	3.4	1.6	0.5	7.2	1.1	20.1	4.1	0.0	4.5	4.8
宿題を定期的に出す授業	8.9	9.1	5.6	17.7	4.2	0.9	6.3	3.0	4.1	5.0	18.5	8.8
その他	3.4	0.5	2.8	3.1	2.1	8.1	9.5	7.1	3.1	5.0	3.4	3.7
無回答	0.5	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3

塗りつぶしは、各教科の中で最も高い割合となっていた項目であり、太字は、30%以上の項目である。

高校の指導教科別

- ❖ 高校教員について、指導教科別に授業や学習指導において心掛けていることを比較すると、数学と理科では「教科書にあることを丁寧に教える授業」が最も高い割合となっており、これ以外の教科では、「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」が最も高い割合となっている(国語は上記2項目について同率)。また、「小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業」についても、多くの教科において、心掛けている教員が多い。
- ❖ 「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」については、理科と家庭、及び専門教育に関する各教科において比較的高くなっている。
- ❖ このほか、数学や理科、外国語では、「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」が比較的高い割合となっているほか、数学では「習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業」や「宿題を定期的に出す授業」も30%以上の教員が心掛けていているとしている。

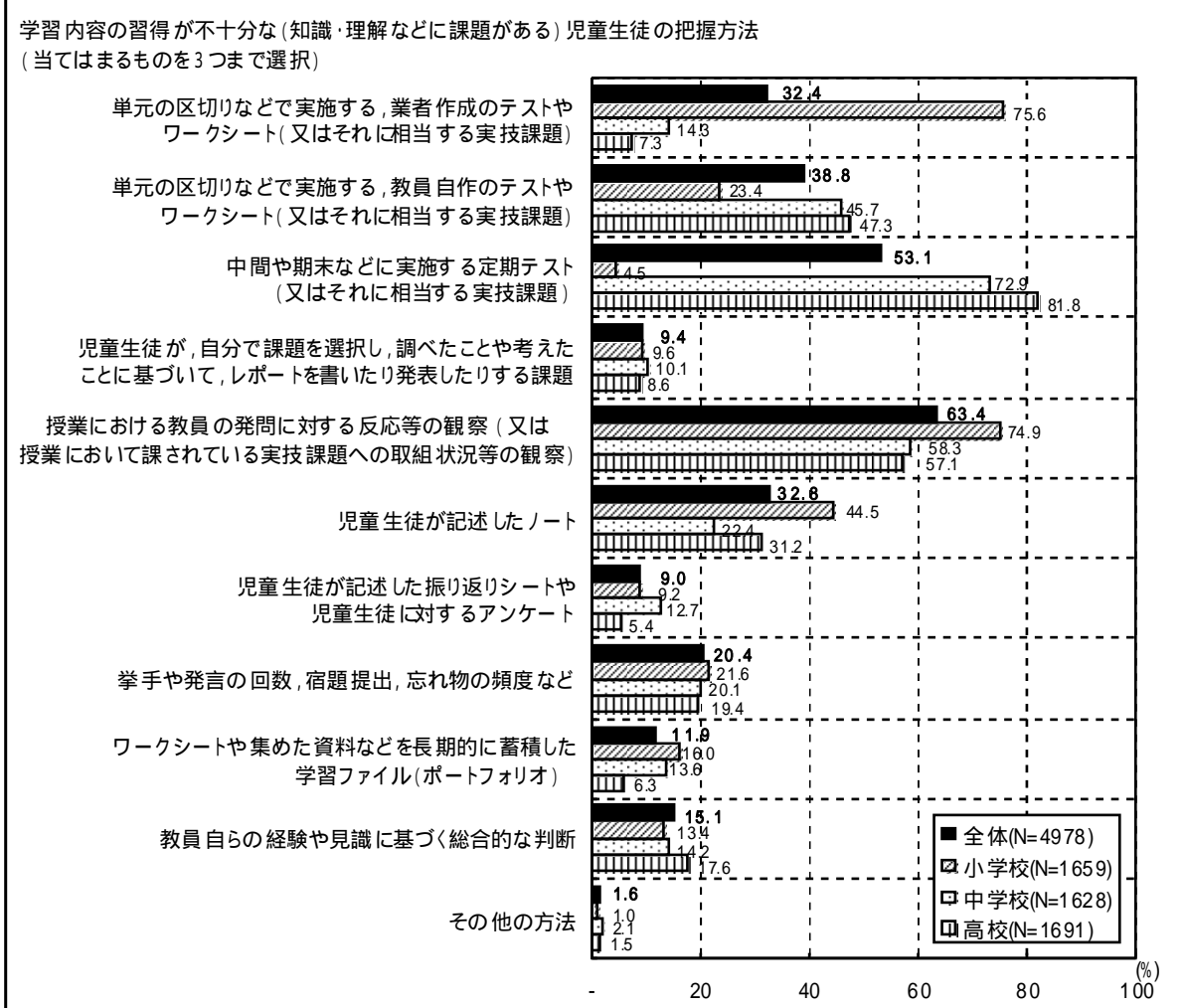
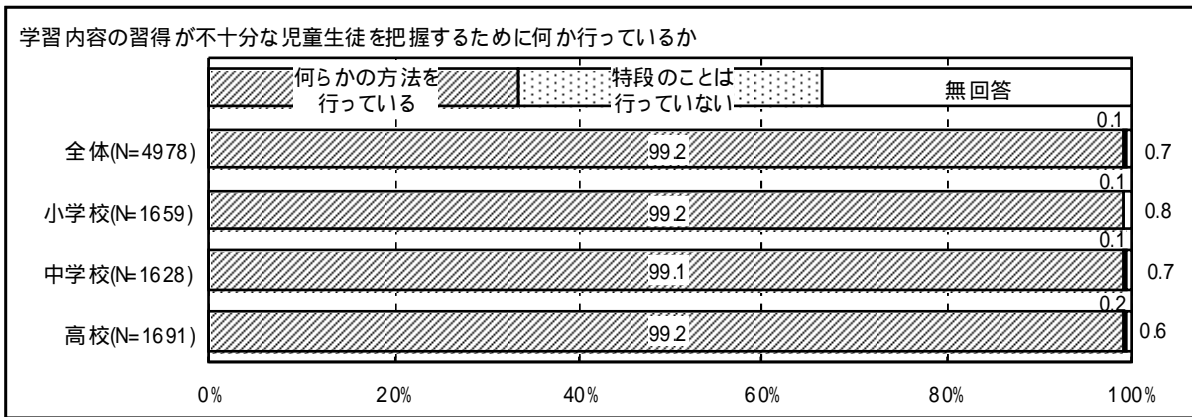
授業や学習指導において心掛けていること (N)	全体 (1486)	高校 指導教科別												
		国語 (193)	地理 歴史 (175)	公民 (113)	数学 (220)	理科 (187)	保健 体育 (130)	芸術 (68)	外国語 (196)	家庭 (89)	情報 (87)	専門 教科 (186)	その他 (116)	
教科書にあることを丁寧に教える授業	44.8	52.8	51.4	48.7	58.2	54.0	40.8	16.2	49.5	20.2	46.0	28.0	31.9	
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	57.1	52.8	58.9	54.9	45.5	52.9	67.7	77.9	53.1	79.8	56.3	58.6	65.5	
観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業	17.6	6.7	12.0	15.0	2.3	36.9	7.7	17.6	2.6	49.4	19.5	45.2	19.8	
専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業	3.6	2.1	3.4	4.4	1.4	0.5	3.1	2.9	1.5	7.9	4.6	9.7	5.2	
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	6.5	7.3	2.9	5.3	1.8	2.7	18.5	8.8	6.1	10.1	2.3	7.0	9.5	
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.2	9.3	14.3	16.8	0.9	7.0	18.5	8.8	7.7	25.8	18.4	26.9	23.3	
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	29.3	27.5	38.9	41.6	24.5	22.5	39.2	42.6	24.5	24.7	17.2	25.3	25.9	
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	34.7	54.4	37.1	30.1	33.6	33.2	17.7	16.2	53.6	22.5	32.2	22.0	25.0	
振り返りシートなどにより、児童生徒自らに学習状況の評価させる授業	2.6	2.6	1.1	2.7	1.4	1.1	5.4	7.4	3.6	1.1	2.3	2.7	1.7	
繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業	25.2	23.8	27.4	23.9	37.3	33.7	10.8	14.7	30.1	7.9	25.3	19.4	22.4	
習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	18.1	17.1	10.9	10.6	32.3	8.6	13.8	19.1	24.0	9.0	20.7	19.4	19.8	
コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業	5.9	2.1	5.1	5.3	2.7	13.4	6.2	1.5	2.0	2.2	21.8	12.9	6.9	
競争を過度に促す授業	5.0	2.6	3.4	5.3	1.4	2.7	20.0	5.9	7.1	2.2	1.1	4.8	7.8	
宿題を定期的に出す授業	16.2	22.8	9.7	12.4	35.9	10.2	3.1	11.8	25.5	5.6	18.4	4.8	12.1	
その他	3.6	3.1	5.1	5.3	1.4	2.7	6.2	16.2	1.5	6.7	0.0	2.2	5.2	
無回答	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	

塗りつぶしは、各教科の中で最も高い割合となっていた項目であり、太字は、30%以上の項目である。

(2) 学習内容の習得が不十分な(知識・理解などに課題がある)児童生徒の把握方法

全体及び学校段階別

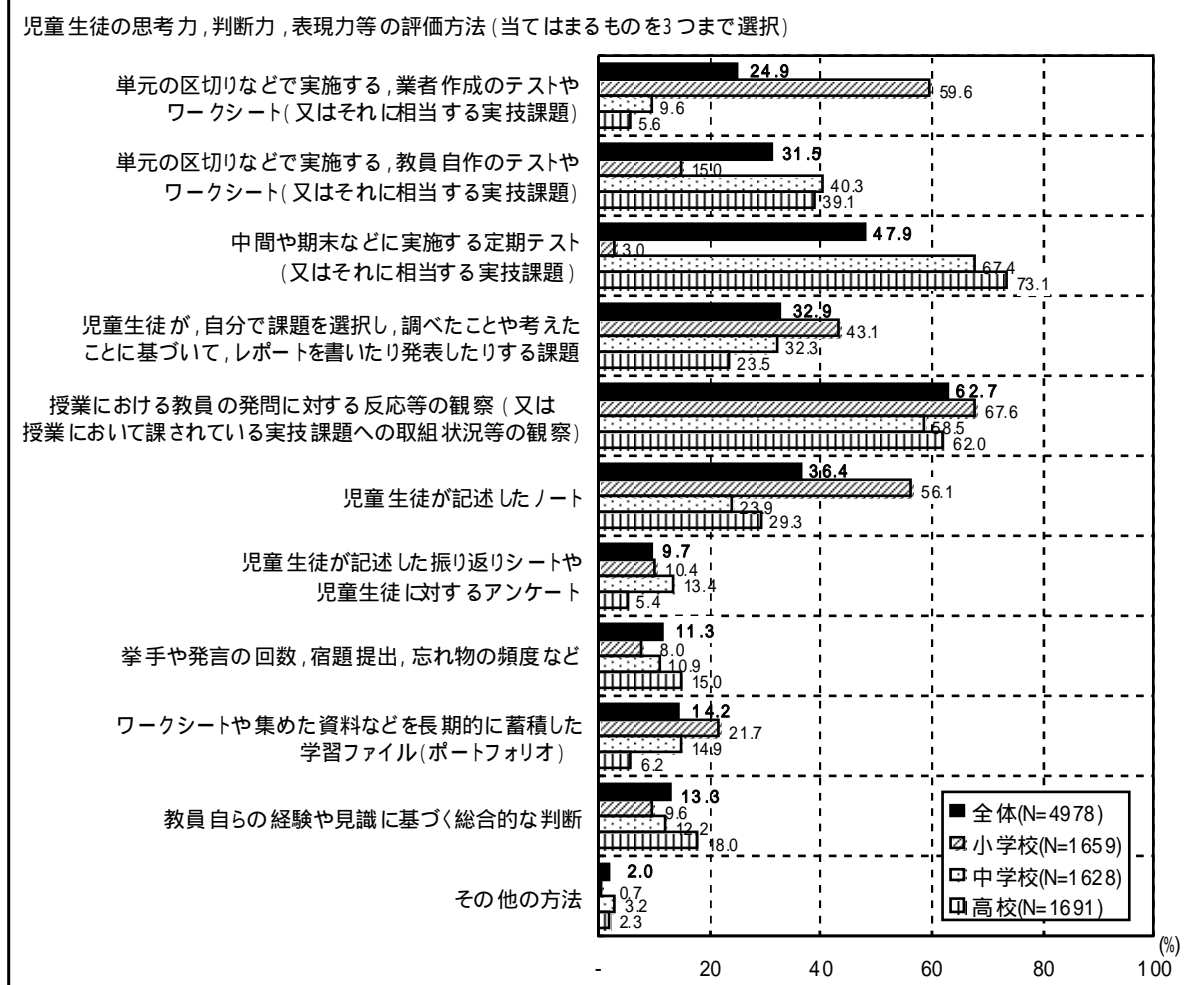
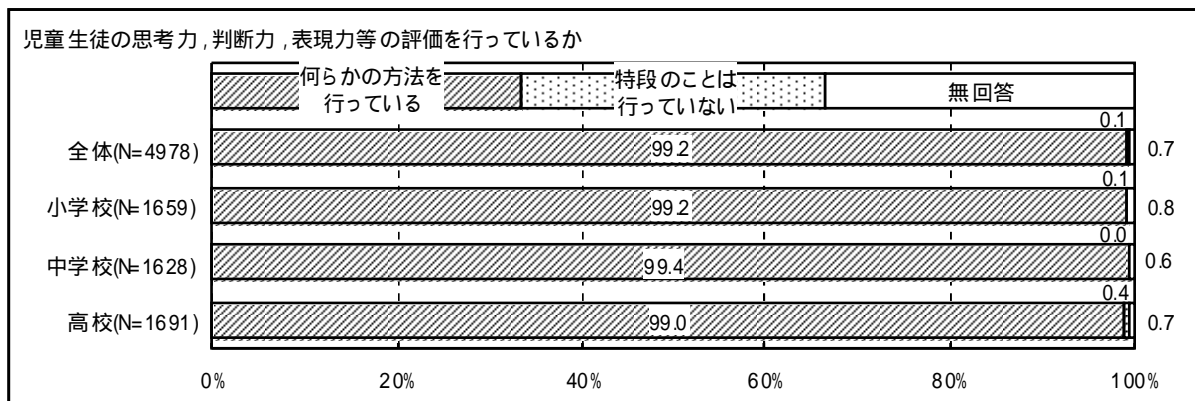
- ❖ 学習内容の習得が不十分な(知識・理解などに課題がある)児童生徒を把握するために、ほとんどの教員が何らかの方法を行っている。
- ❖ 具体的な把握方法をみると、小学校では「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)」と「授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)」がともに75%前後と高いのに対して、中学・高校では「中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)」がそれぞれ72.9%、81.8%と最も高い。



(3) 児童生徒の思考力、判断力、表現力等の評価方法

全体及び学校段階別

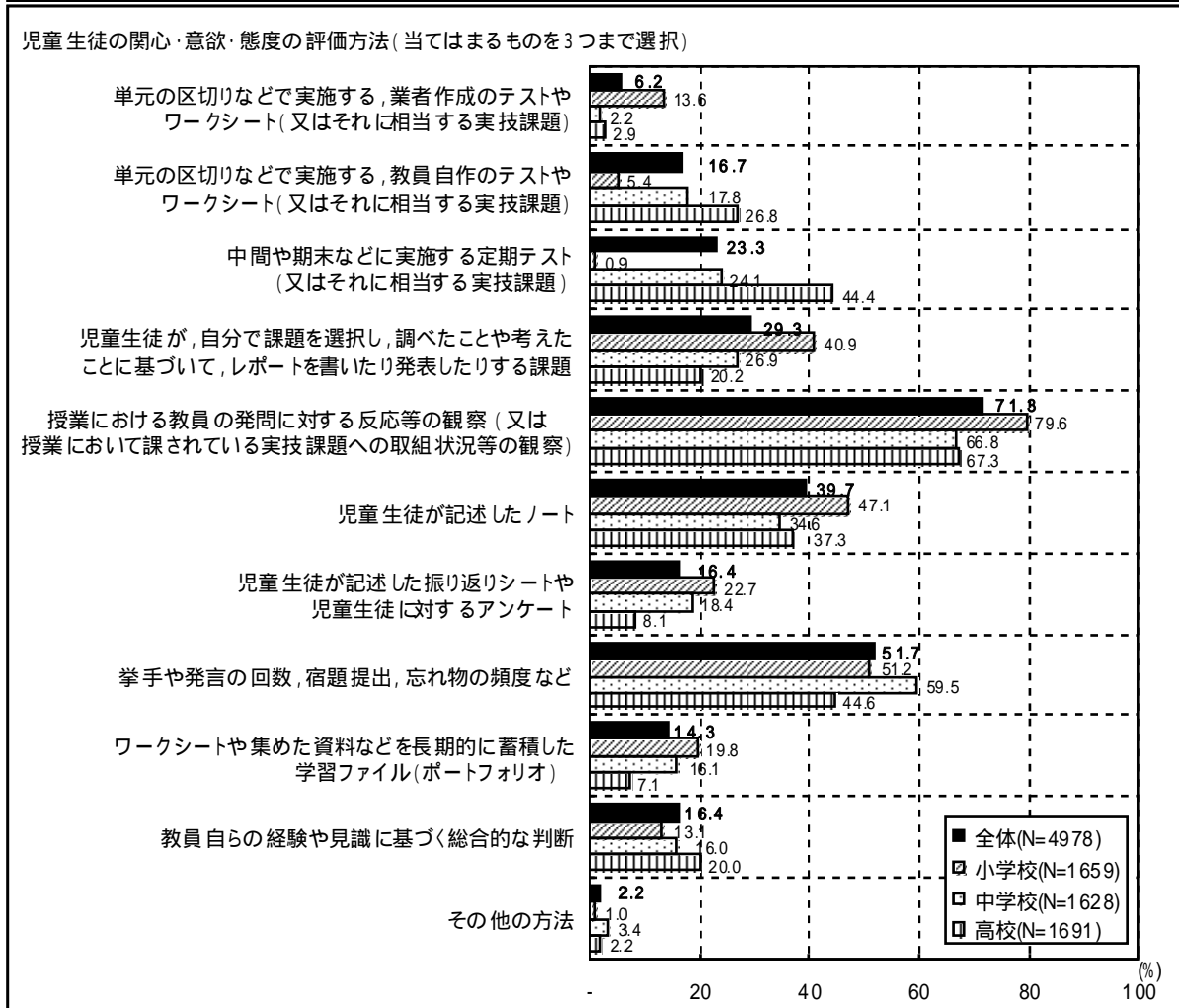
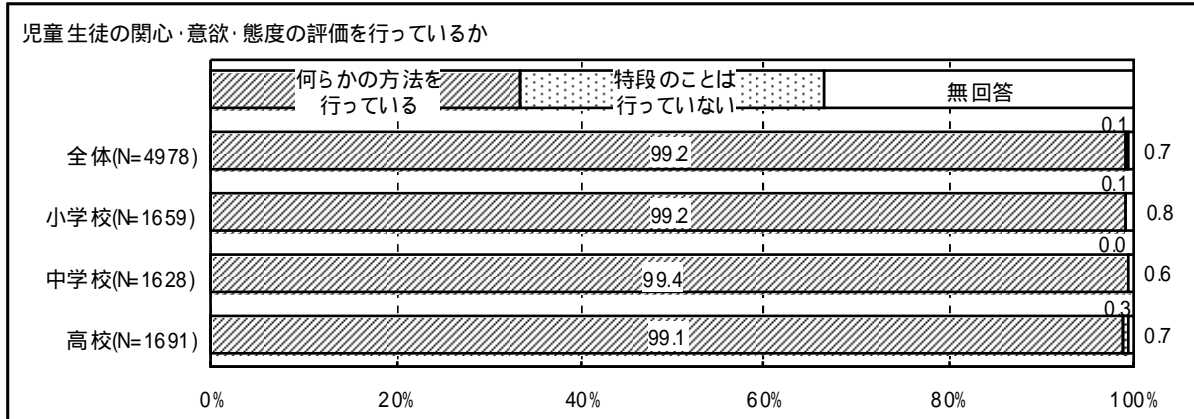
- ❖ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等の評価についてみると、ほとんどの教員が何らかの方法でこうした力の評価を行っている。
- ❖ 具体的な評価方法をみると、小・中・高校いずれも「授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)」が60%前後と高く、特に小学校では67.6%と最も高い。小学校ではこのほか、「単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)」(59.6%)や「児童生徒が記述したノート(56.1%)」による評価が多いが、中学・高校では「中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)」がそれぞれ67.4%、73.1%と最も高くなっている。



(4) 児童生徒の関心・意欲・態度の評価方法

全体及び学校段階別

- ❖ 児童生徒の関心・意欲・態度を評価する上で、ほとんどの教員が何らかの方法を行っている。
- ❖ 具体的には、小・中・高校いずれも「授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)」が最も高い割合となっており、特に小学校では約8割の教員がこれを挙げている。
- ❖ このほかでは、「挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など」から児童生徒の関心・意欲・態度を評価するという教員が各学校段階において5割前後みられる。

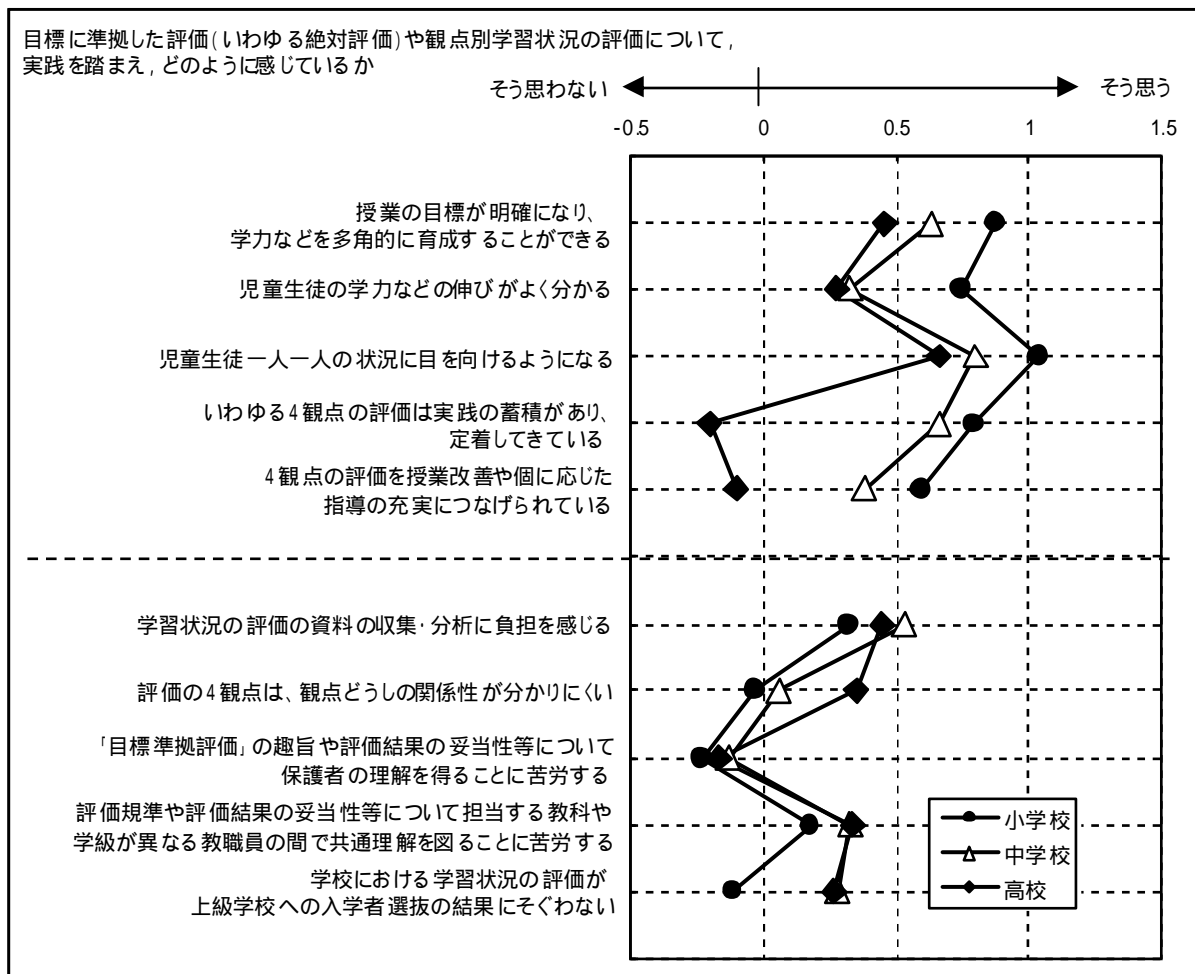


- 2 . 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する考え・意識

(1) 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する考え

学校段階別（評点化による比較分析）

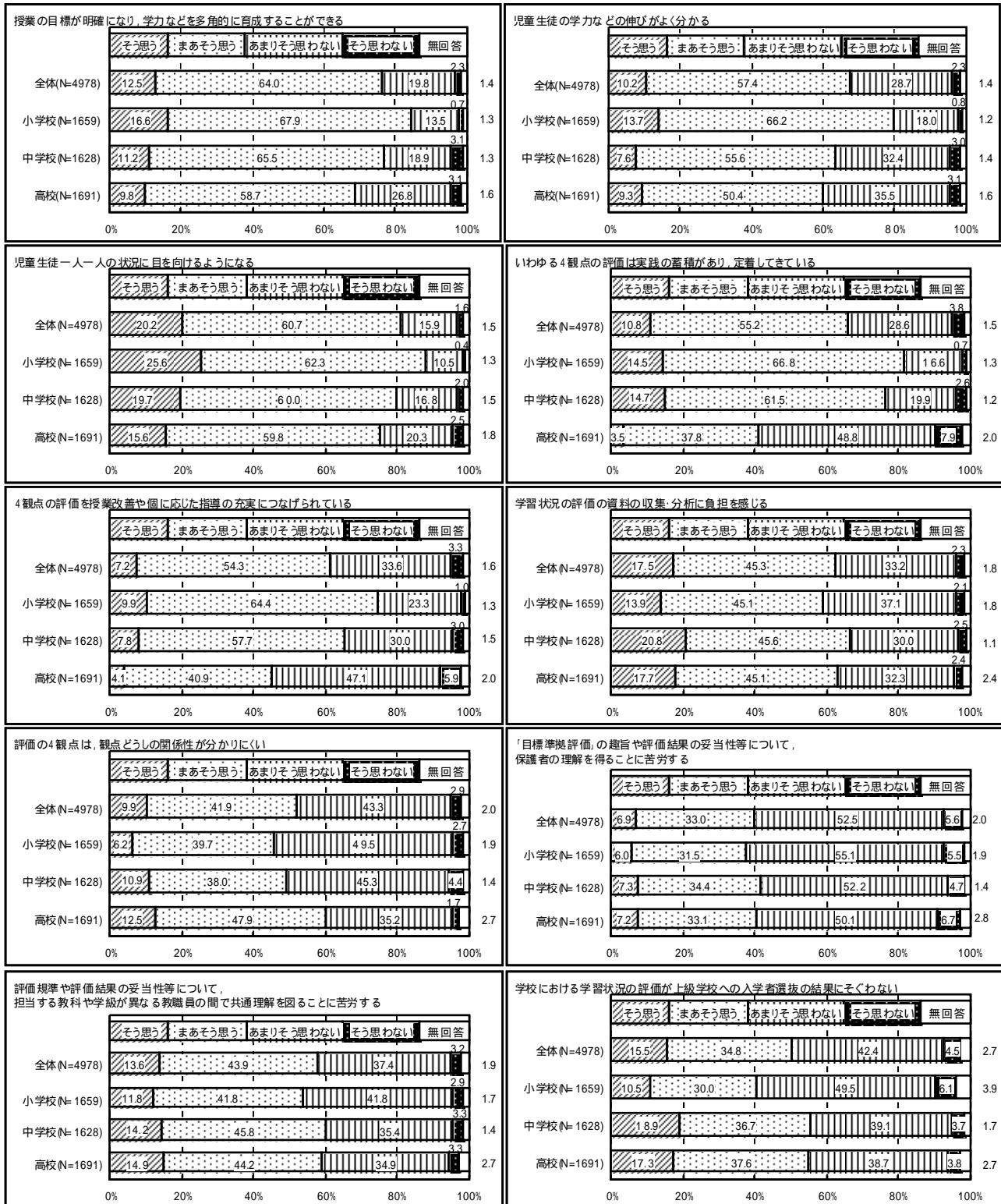
- ❖ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価について、各教員がこれまでの実践を踏まえてどのように感じているかをみると、小・中・高校いずれも「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」が最も多くの教員において実感されていることがわかる。また、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」や「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」についても、小・中・高校いずれもプラス値（そのように実感している教員が多い）である。
- ❖ 一方、「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦労する」については、小・中・高校いずれにおいてもマイナス値（そのように実感している教員が少ない）である。
- ❖ また、「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる」や「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する」については、小・中・高校いずれにおいてもプラス値である。
- ❖ 「いわゆる4観点の評価は実績の蓄積があり、定着してきている」や「4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」については、小・中学校ではプラス値であるのに対して、高校ではマイナス値であり、見解の相違がみられる。



各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値（それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均）を算出した。

学校段階別(各項目ごとの回答分布による比較分析)

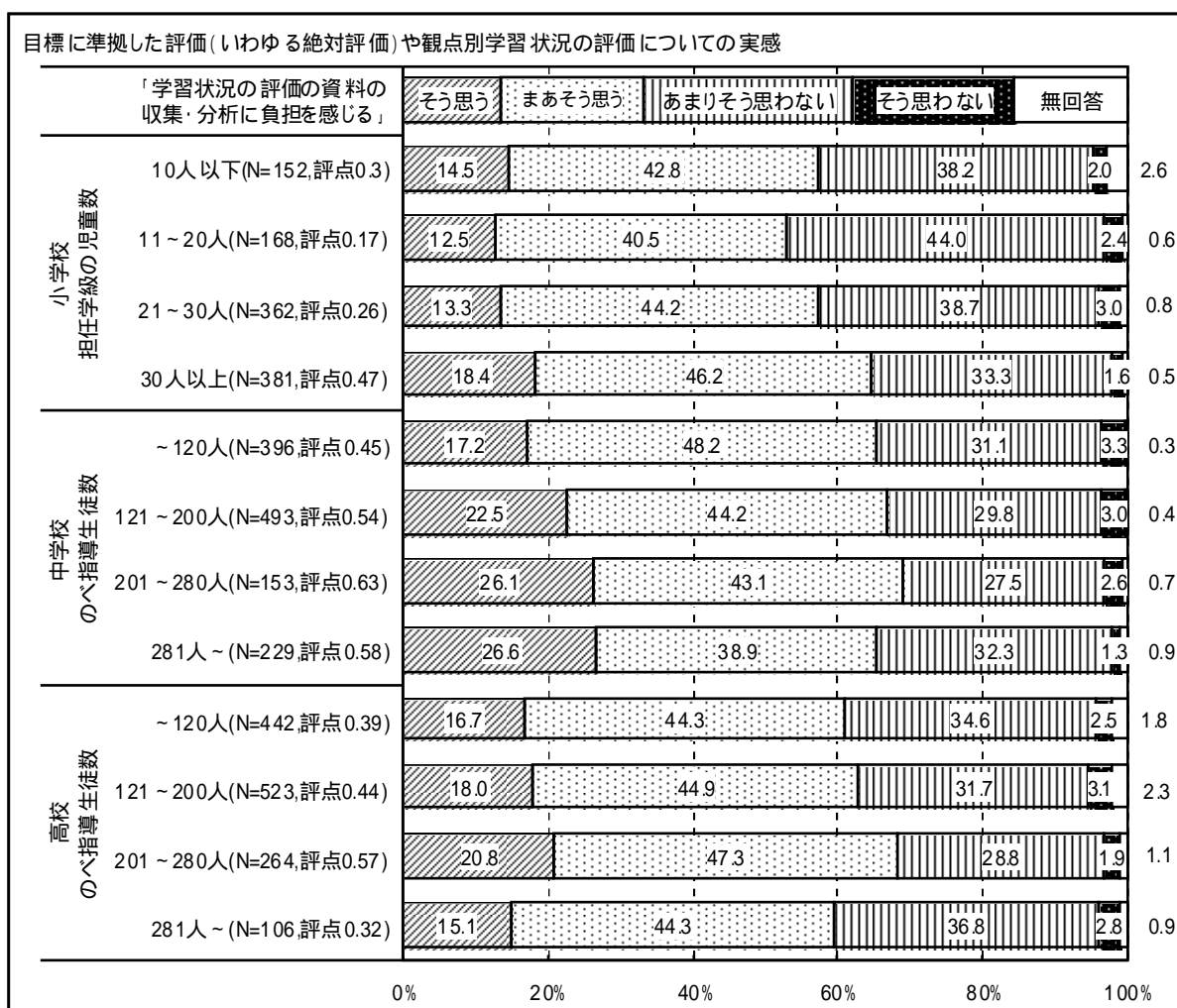
❖各項目ごとに詳しい回答分布をみると、「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」、「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」、「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」、「いわゆる4観点の評価は実績の蓄積があり、定着してきている」、「4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」の各項目については、学校段階が進むにつれて「そう思う」+「まあそう思う」という教員の割合が低下し、逆に「あまりそう思わない」+「そう思わない」という教員の割合が高くなる傾向がみられる。



学習状況の評価の資料の収集・分析に対する負担感について

学校段階別×担当学級の児童数又はのべ指導生徒数

- ❖ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価についての実感のうち、『学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる』かどうかについて、主幹教諭・教務主任とそれ以外（校長・副校長等の役職者を除く）の教員が担当している学級の児童数又はのべ指導生徒数の規模に応じてどのような違いがみられるかを比較した。
- ❖ 小学校をみると、「30人以上」の学級の担任教員において、評価の資料の収集・分析に負担を感じている割合（「そう思う」+「まあそう思う」、以下同様）が最も高くなっており、以下「21～30人」、「11～20人」と学級規模が小さくなるにつれて負担を感じている割合も低くなっている。
- ❖ 中学校をみると、のべ指導生徒数が多くなるにつれて評価の資料の収集・分析に負担を感じている割合も高くなる傾向がみられるが、「281人～」とある程度の規模以上になると、逆に負担感がやや軽減することがわかる。
- ❖ 高校についても中学校と同様の傾向がみられる。



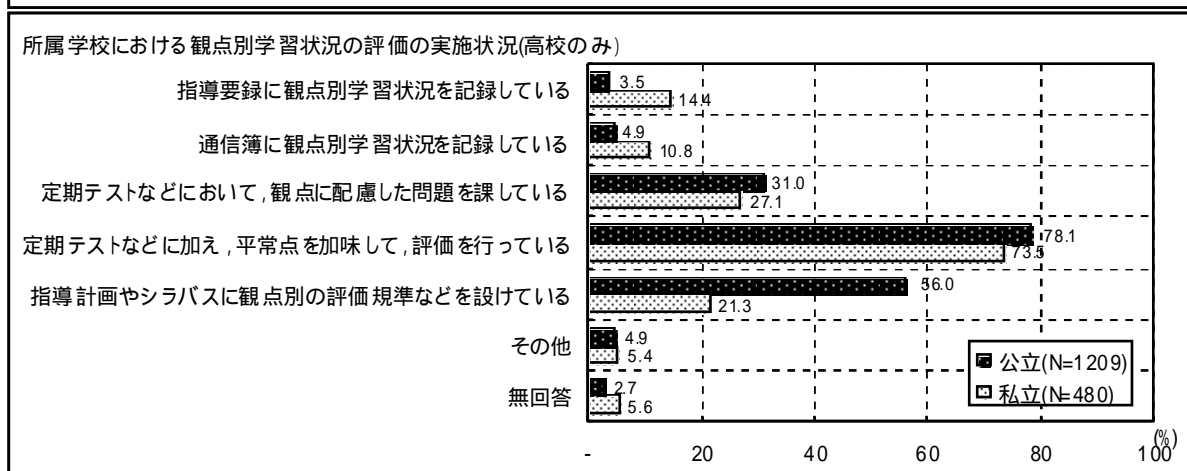
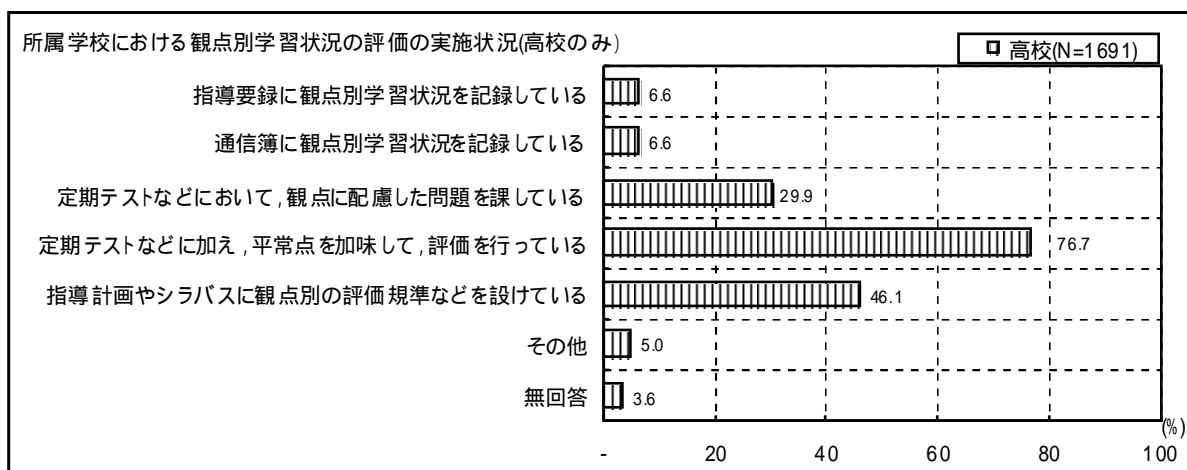
小学校については、「主幹教諭・教務主任」又は「それ以外の教員」のうち学級担任をしている教員について、担任学級の児童数別に集計したものである。また、中学校及び高校については、「主幹教諭・教務主任」又は「それ以外の教員」のうち何らかの教科等を指導している教員について、のべ指導生徒数別に集計したものである。

図中の『評点』は、「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で算出した平均値である。

(2) 所属学校における観点別学習状況の評価の実施状況(高校のみ)

全体及び学校設置形態別

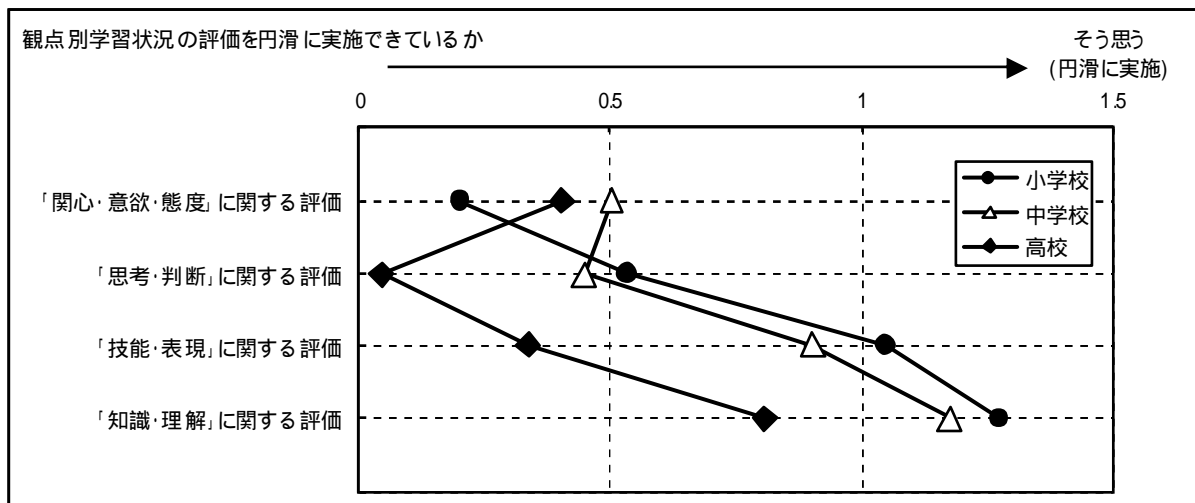
- ❖ 高校の教員に対して、各校で観点別学習状況の評価をどのように実施しているかを聞いたところ、全体では「定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている」が76.7%と最も高く、次いで「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」が高くなっている。
- ❖ これを学校設置形態別にみると、「定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている」については公立・私立ともに70%を超え最も高い割合となっているが、「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」については、公立では56.0%と、半数以上の教員が所属する公立高校で実施されているのに対して、私立では21.3%と低い。



(3) 観点別学習状況の評価の実施状況

学校段階別（評点化による比較分析）

- ❖ 観点別学習状況の評価に関し、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できているかを見ると、4つの観点いずれも小・中・高校全てでプラス値（そのように実感している教員が多い）となっており、円滑に実施できているとされているが、高校は小・中学校と比べてそのように実感している教員が少なくなっている。
- ❖ 小学校では4つの観点のうち「関心・意欲・態度」に関する評価が最も評点が低くなっているが、中学・高校では「思考・判断」に関する評価が4観点の中では最も難しいと感じられている。
- ❖ また、「知識・理解」に関する評価は、小・中・高校いずれも最も円滑に実施できていると実感されている。

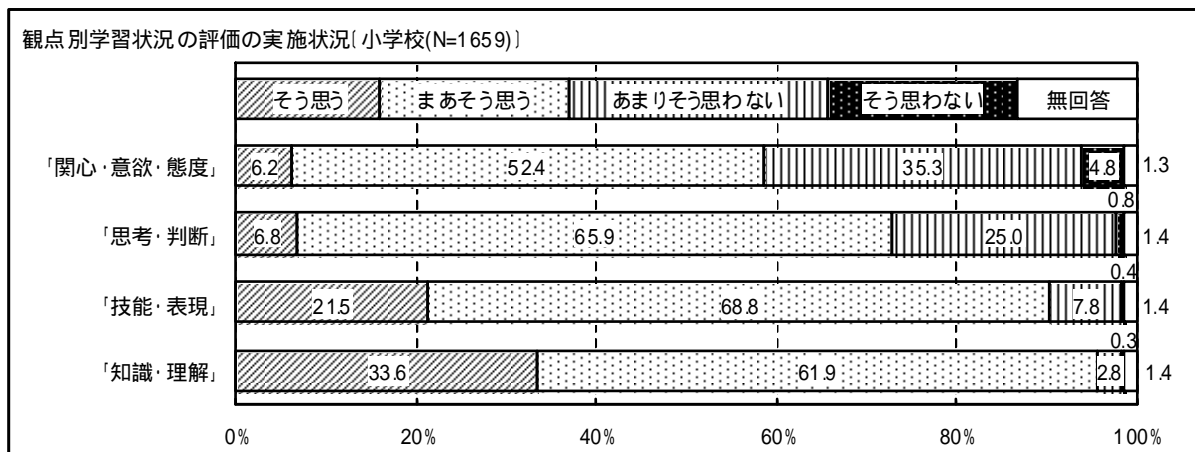


各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値（それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均）を算出した。

学校段階別（各観点ごとの回答分布による比較分析）

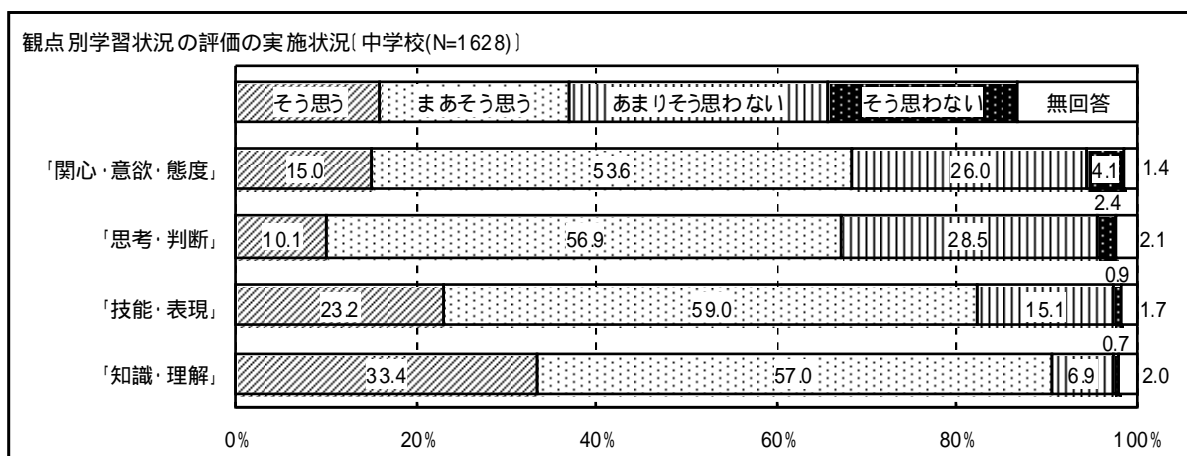
小学校

- ❖ 小学校における観点別学習状況の評価の実施状況を詳しくみると、4観点のうち「技能・表現」と「知識・理解」については、大部分が評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できている（「そう思う」+「まあそう思う」）としている。
- ❖ 「関心・意欲・態度」及び「思考・判断」については、「そう思う」はいずれも6%台と低い。



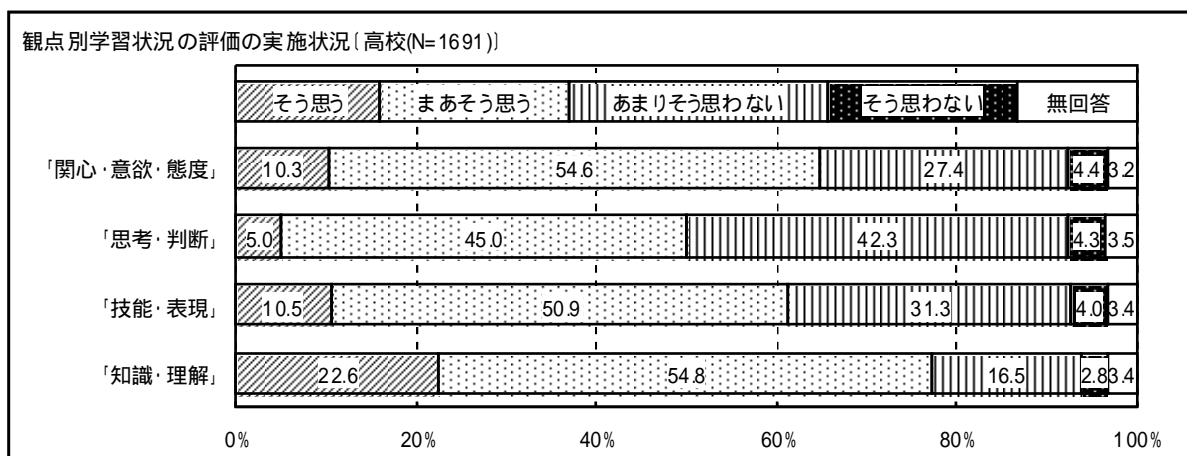
中学校

- ❖ 中学校における観点別学習状況の評価の実施状況を詳しくみると、4観点のうち「思考・判断」は「そう思う」(=評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できている)の割合が最も低い。
- ❖ 「知識・理解」については、9割以上の教員が評価の資料の収集・分析や評価の決定について円滑に実施できているとしている。



高校

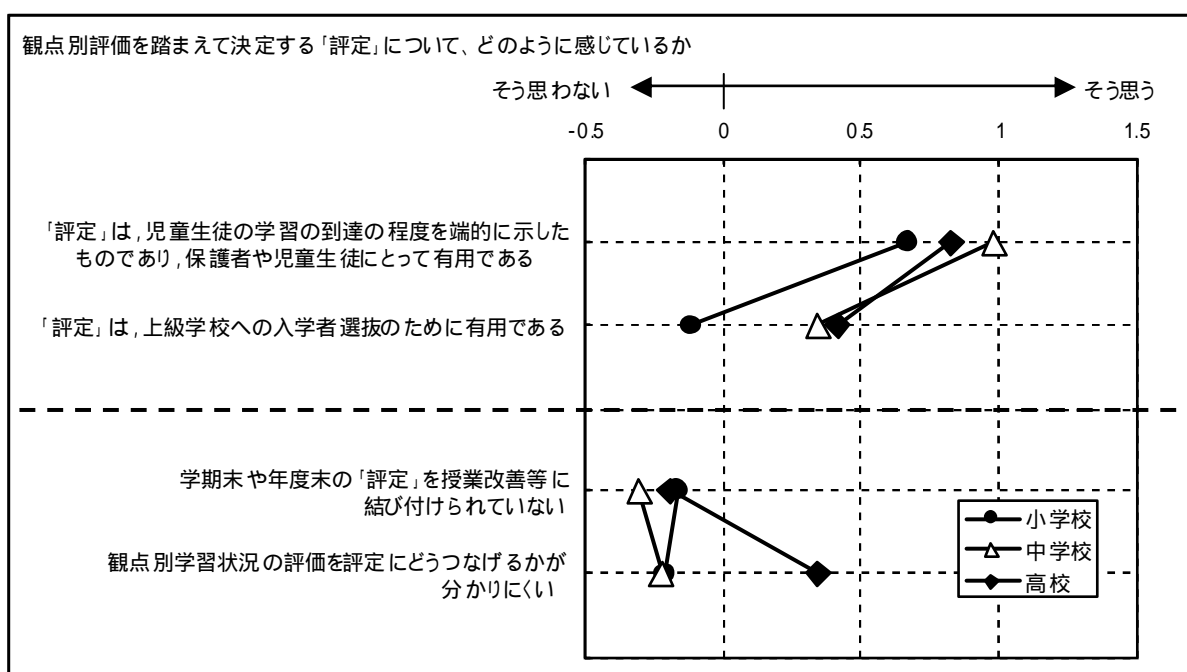
- ❖ 高校における観点別学習状況の評価の実施状況を詳しくみると、中学校と同様の傾向がみられ、4観点のうち「思考・判断」は「そう思う」(=評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できている)の割合が5.0%と最も低く、逆に円滑に実施できていない(「あまりそう思わない」+「そう思わない」という教員の割合が50%近くになっている。
- ❖ 一方、「知識・理解」については、8割近くの教員が評価の資料の収集・分析や評価の決定について円滑に実施できているとしている。



(4) 観点別評価を踏まえた「評定」についての考え

学校段階別（評点化による比較分析）

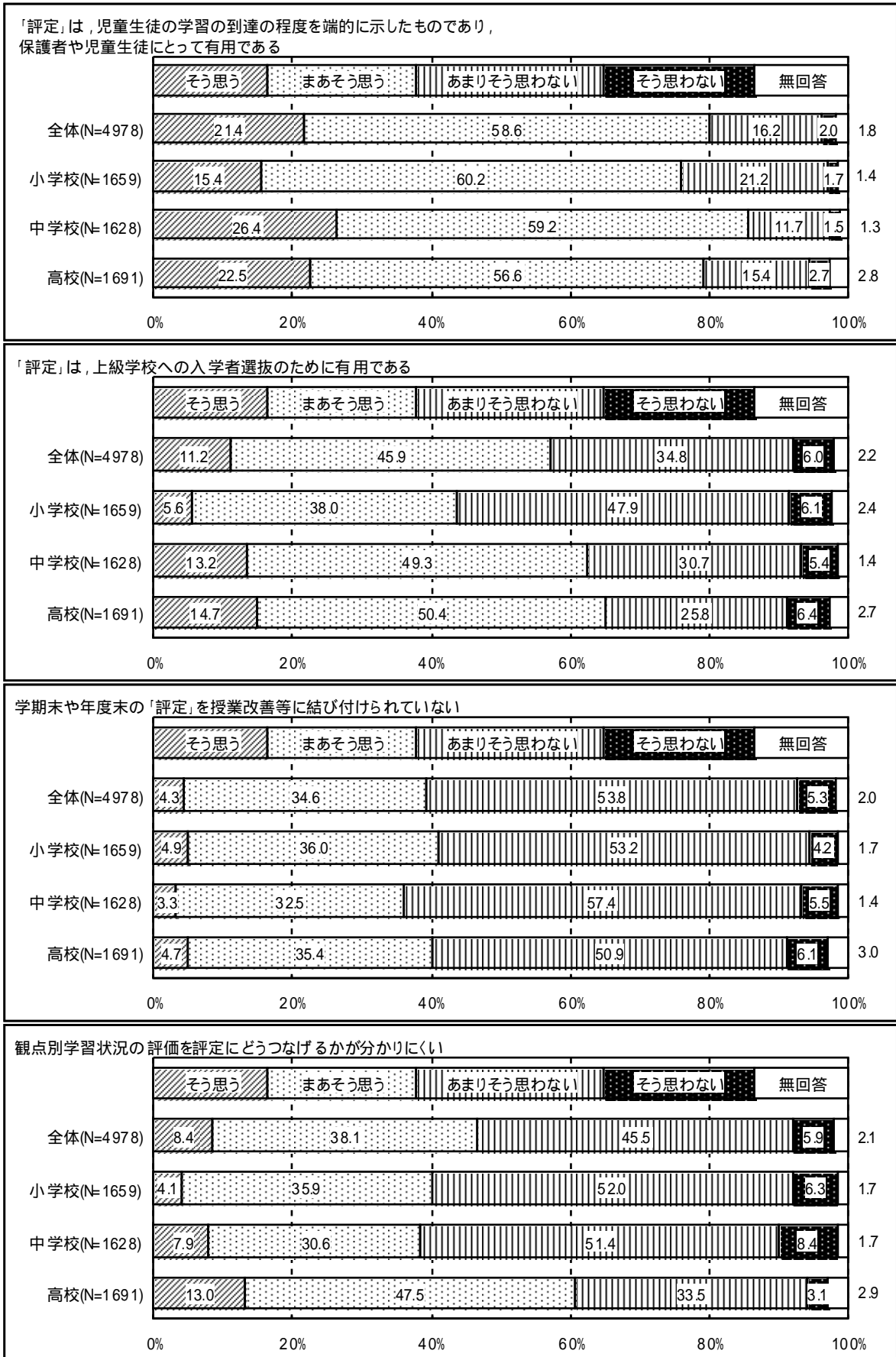
- ❖ 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について、どのように感じているかをみると、小・中・高校いずれでも「「評定」は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示したものであり、保護者や児童生徒にとって有用である」との考えが多くの教員から示されている。
- ❖ 「「評定」は、上級学校への入学者選抜のために有用である」については、中学・高校ではプラス値（そのように実感している教員が多い）である。
- ❖ また、「観点別学習状況の評価を評定にどうつなげるかが分かりにくい」については、小・中学校ではマイナス値（＝分かりにくいとは思わない）であるのに対して、高校ではプラス値となっている。



各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値（それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均）を算出した。

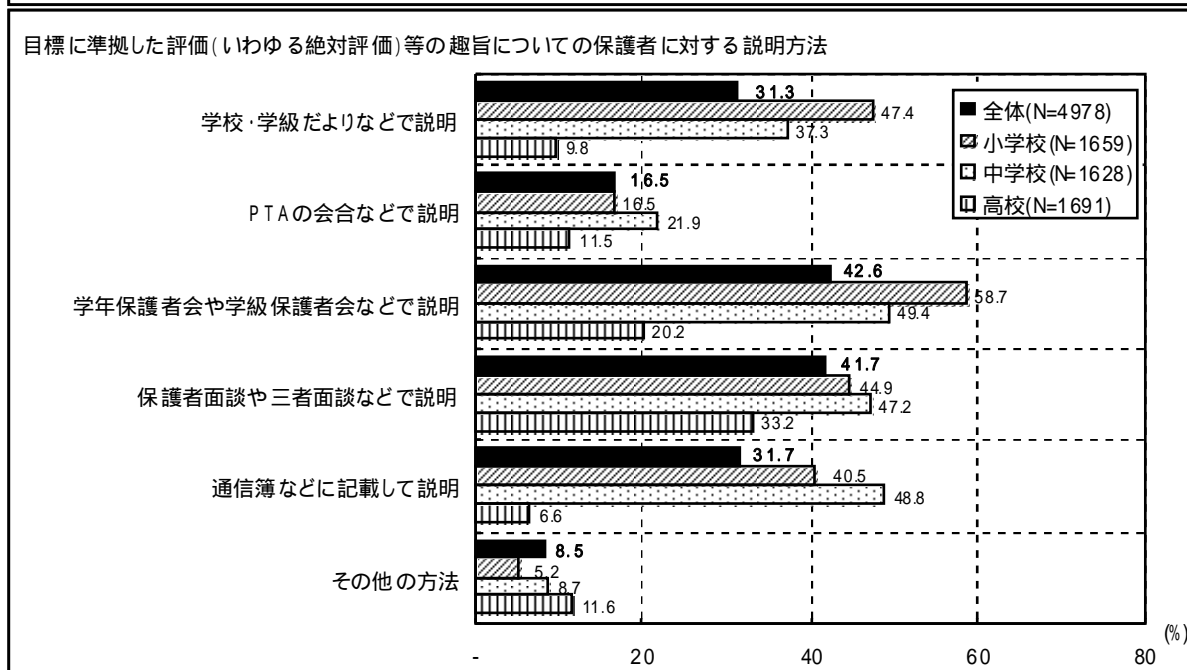
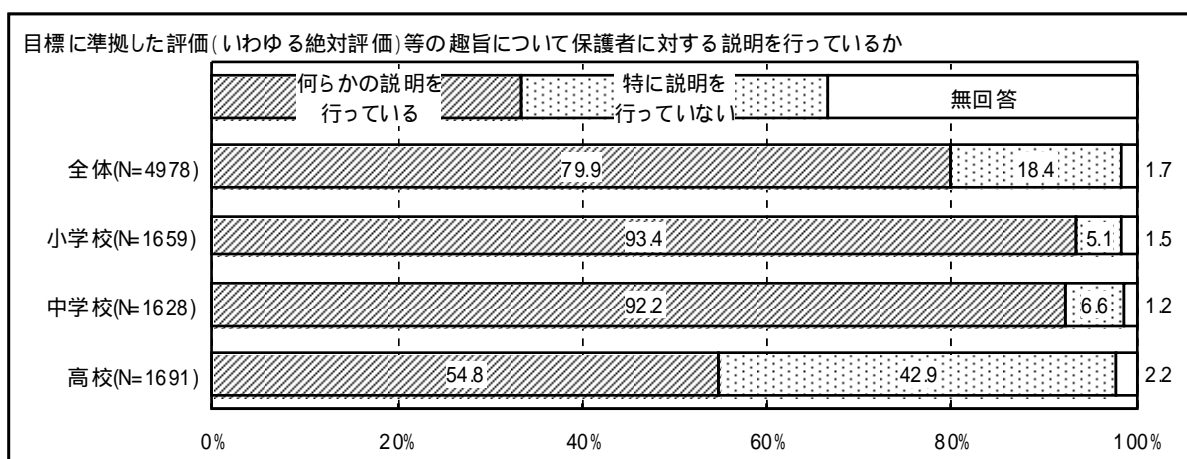
学校段階別（各項目ごとの回答分布による比較分析）

- ❖ 各項目ごとに回答分布を詳しくみると、「「評定」は、児童生徒の学習の到達の程度を端的に示したものであり、保護者や児童生徒にとって有用である」については、中学校で「そう思う」が26.4%と最も高くなっている一方、小学校では15.4%とやや低く、逆に「あまりそう思わない」が21.2%と中学・高校に比べて高くなっている。
- ❖ また、「「評定」は、上級学校への入学者選抜のために有用である」と感じている教員（「そう思う」+「まあそう思う」）は、中学・高校では6割以上を占めているのに対して、小学校では「あまりそう思わない」が47.9%と高く、考えに差がみられる。
- ❖ 「学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない」については、学校段階別で回答傾向に大きな相違はみられない。
- ❖ 一方、「観点別学習状況の評価を評定にどうつなげるかが分かりにくい」については、特に高校において、そのように感じている（「そう思う」+「まあそう思う」）割合が高くなっている。



(5) 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)や観点別学習状況の評価についての保護者への説明方法
全体及び学校段階別

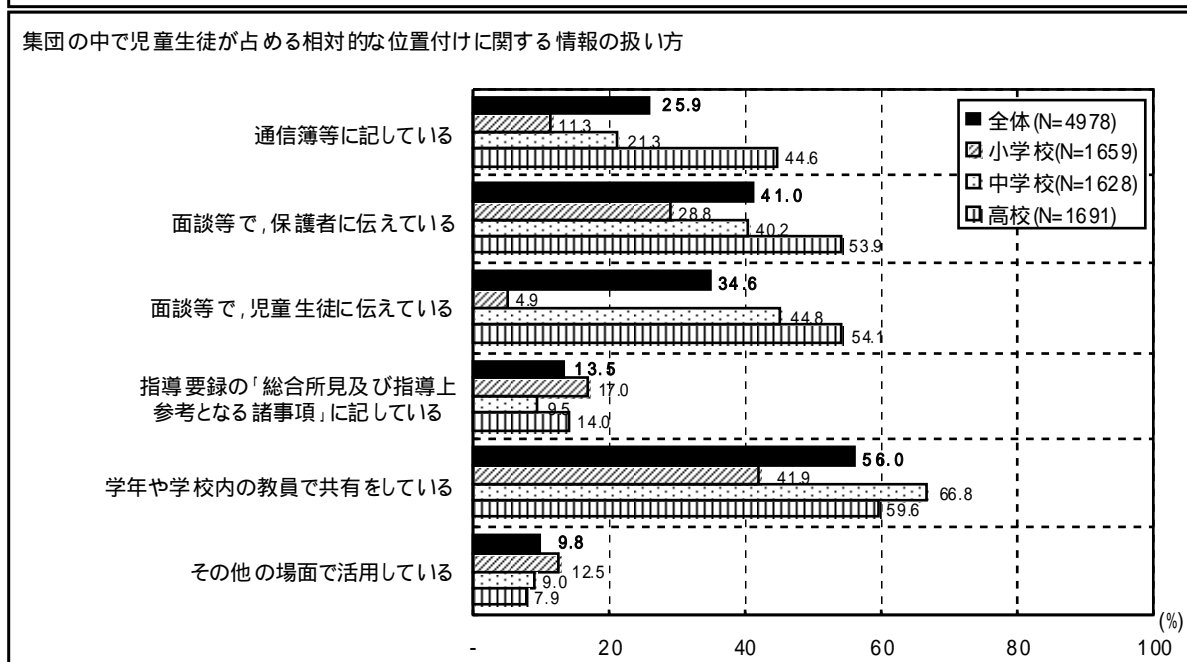
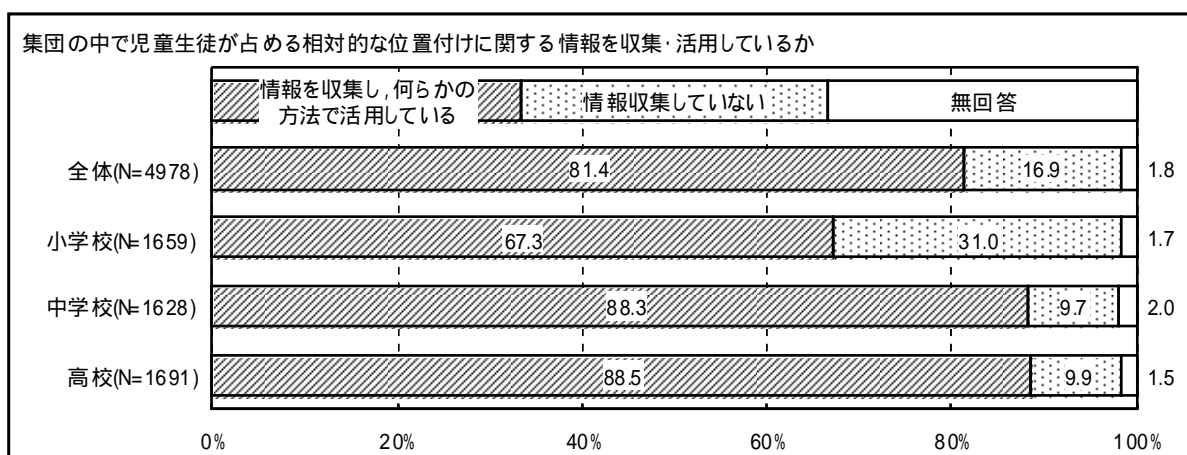
- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)や観点別学習状況の評価などの趣旨について、所属学校において保護者に対する説明を行っているかをみると、小・中学校では9割以上が保護者に対し何らかの説明を行っているのに対して、高校では「特に説明を行っていない」が42.9%となっている。
- ❖ 具体的に保護者に対してどのような説明が行われているかをみると、全体では「学年保護者会や学級保護者会などで説明」(42.6%)及び「保護者面談や三者面談などで説明」(41.7%)がそれぞれ4割以上から挙げられている。
- ❖ 学校段階別にみると、小・中学校では「学年保護者会や学級保護者会などで説明」が最も高い割合となっているが、これに次ぐ方法として、小学校では「学校・学級だよりなどで説明」が47.4%、中学校では「通信簿などに記載して説明」が48.8%とそれぞれ半数近くの教員から挙げられている。
- ❖ また、高校では、小・中学校での傾向とは異なり、「保護者面談や三者面談などで説明」が33.2%と、他の方法より高い割合となっている。



(6) 集団の中での児童生徒の相対的な位置付けに関する情報の扱い方

全体及び学校段階別

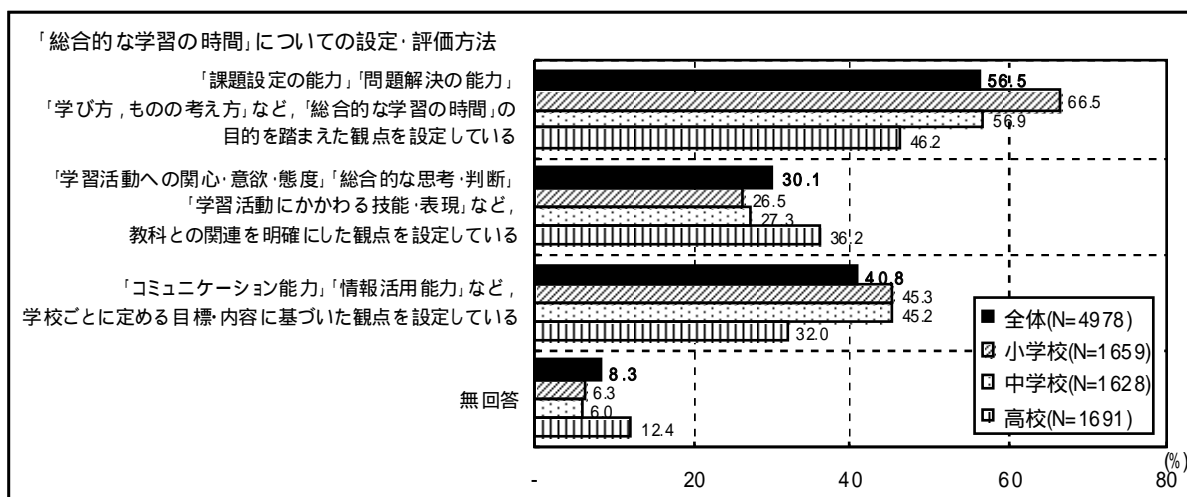
- ❖ 学級や学年など集団の中で児童生徒が占める相対的な位置付けに関する情報をどのように扱っているかについて、まず関連する情報を収集・活用しているかどうかをみると、中学・高校では9割近くの教員がそのような情報を活用しているのに対して、小学校では「相対的な位置付けに関する情報は収集していない」が31.0%と高くなっている。
- ❖ 児童生徒の相対的な位置付けに関する情報の具体的な扱い方についてみると、全体では「学年や学校内の教員で共有をしている」が56.0%と最も高いほか、「面談等で、保護者に伝えている」も41.0%と比較的高い割合となっている。
- ❖ 学校段階別にみると、小・中・高校いずれも「学年や学校内の教員で共有をしている」が最も高い割合となっているが、その他の活用状況については学校段階によって相違がみられる。
- ❖ まず高校では「面談等で、保護者に伝えている」(53.9%)及び「面談等で、児童生徒に伝えている」(54.1%)がそれぞれ5割を超えており、「通信簿等に記している」も44.6%と比較的高く、様々な場面で情報が活用されていることがわかる。
- ❖ これに対して、小・中学校をみると、中学校では保護者や生徒との面談等での活用はそれぞれ4割程度みられるが、小学校では面談で児童に伝えるという方法はほとんど行われていない。



(7) 「総合的な学習の時間」についての評価方法

全体及び学校段階別

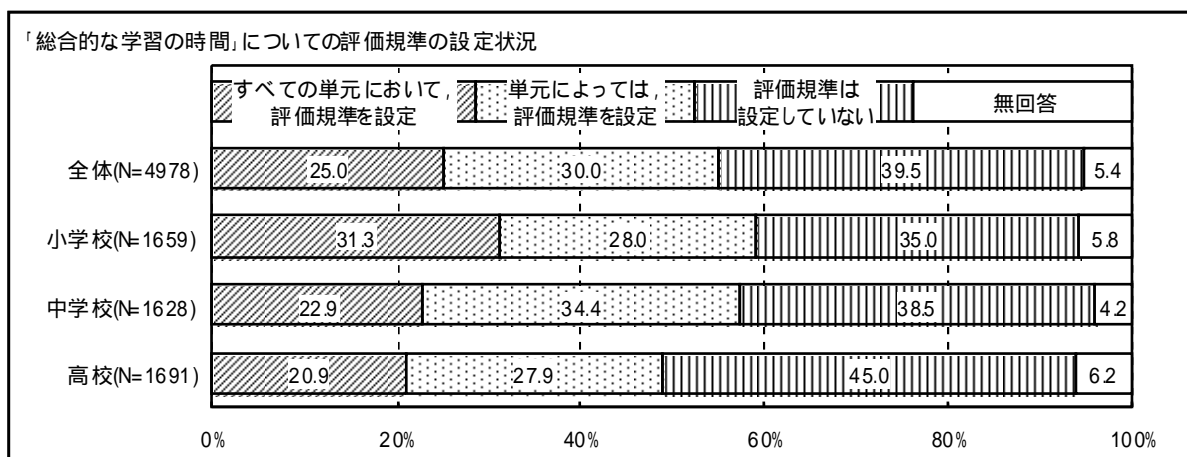
- ❖ 「総合的な学習の時間」について、各学校で観点をどのように定めて評価を行っているかをみると、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」など、「総合的な学習の時間」の目的を踏まえた観点を設定している」教員の割合が小・中・高校のいずれにおいても最も高く、特に小学校では66.5%と高くなっている。



(8) 「総合的な学習の時間」についての評価規準の設定状況

全体及び学校段階別

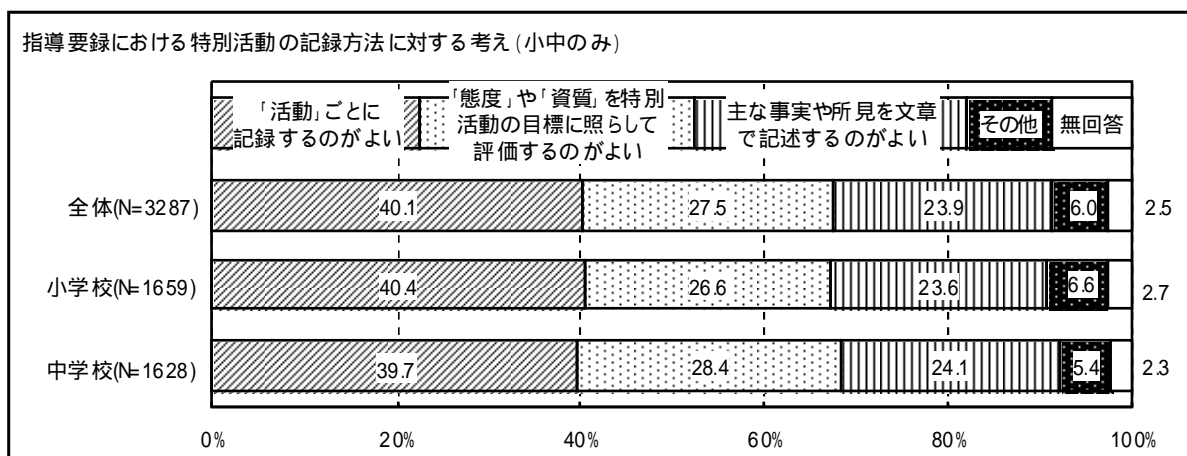
- ❖ 「総合的な学習の時間」について、評価規準を学校等でどのように定め、評価を行っているかをみると、何らかの評価規準を設定している教員は全体では55.0%と半数を超えており、「評価規準は設定していない」とする教員は39.5%となっている。
- ❖ 設定されている評価規準について学校段階別にみると、小学校では、「すべての単元において、評価規準を設定している」教員の方が多いが、中学・高校では逆に「単元によっては、評価規準を設定している」教員の方がそれぞれ34.4%、27.9%と、「すべての単元において、評価規準を設定している」教員よりも多くみられる。



(9) 指導要録における特別活動の記録方法に対する考え(小学校・中学校のみ)

全体及び学校段階別

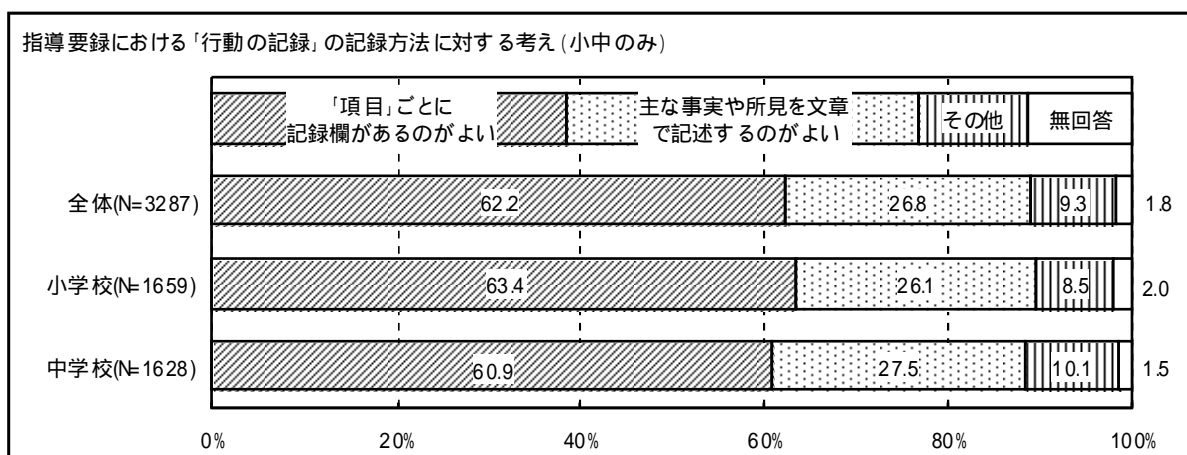
- ❖ 指導要録において、特別活動は、「学級活動」「児童(生徒)会活動」「クラブ活動」「学校行事」のそれぞれについて、十分満足できる場合に「 」を記すことになっている。
- ❖ このことについて、小・中学校の教員がどのように考えているかをみると、「活動」ごとに記録するのがよい」が小・中学校いずれも40%前後と最も高い割合となっているものの、「活動」ではなく、「態度」や「資質」を特別活動の目標に照らして評価するのがよい」や「個別に記録するのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい」についてもそれぞれ25%前後みられる。



(10) 指導要録における「行動の記録」の記録方法に対する考え(小学校・中学校のみ)

全体及び学校段階別

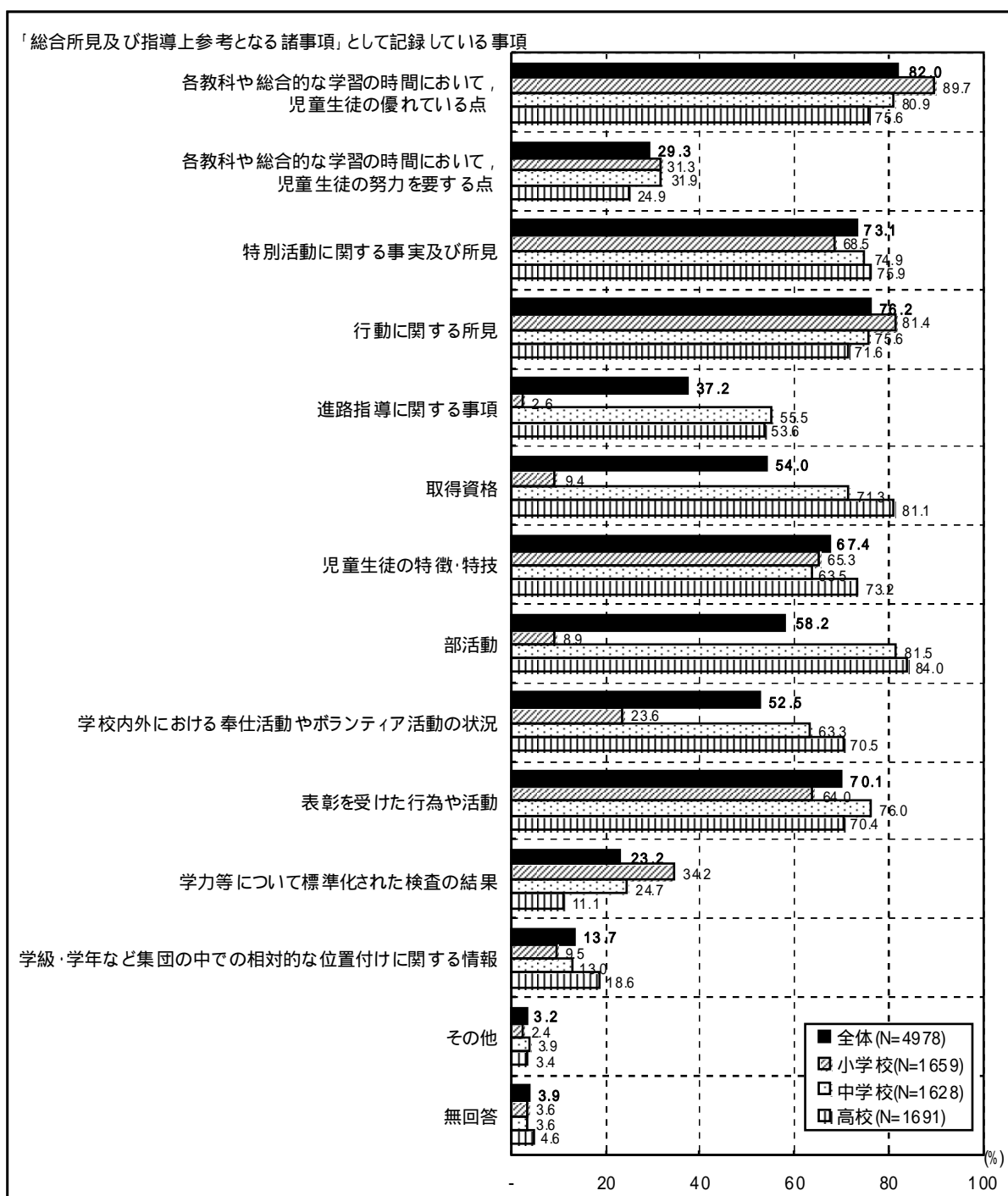
- ❖ 指導要録では、「行動の記録」として、学校生活全体にわたって認められる児童生徒の行動に関し、「基本的な生活習慣」「健康・体力の向上」「自主・自律」「責任感」「創意工夫」「思いやり・協力」「生命尊重・自然愛護」「勤労・奉仕」「公正・公平」「公共心・公德心」といった項目について、十分満足できる場合に「 」を記すことになっている。
- ❖ このことについてどのように考えるかをみると、「項目」ごとに記録欄があるのがよい」がそれぞれ小学校63.4%、中学校60.9%と60%を超えており、「項目」ごとに記録欄を設けるのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい」の割合は30%弱となっている。



(11)「総合所見及び指導上参考となる諸事項」として記録している事項

全体及び学校段階別

- ❖ 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記録している内容をみると、全体では「各教科や総合的な学習の時間において、児童生徒の優れている点」が82.0%と最も高くなっており、特に小学校では89.7%と9割近い教員が記録していることがわかる。
- ❖ これに次いで、全体では「行動に関する所見」(76.2%)や「特別活動に関する事実及び所見」(73.1%)、「表彰を受けた行為や活動」(70.1%)などが高い割合となっている。
- ❖ 学校段階別にみると、特に差が見られた記録内容としては、「取得資格」などが挙げられ、いずれも小学校では10%未満と低い割合であるのに対し、中学・高校では50%以上と半数以上の教員が記録していることがわかる。



- 3 . 学習指導・学習評価や観点別学習状況の評価の実態

(1) 学習指導と学習評価の実態

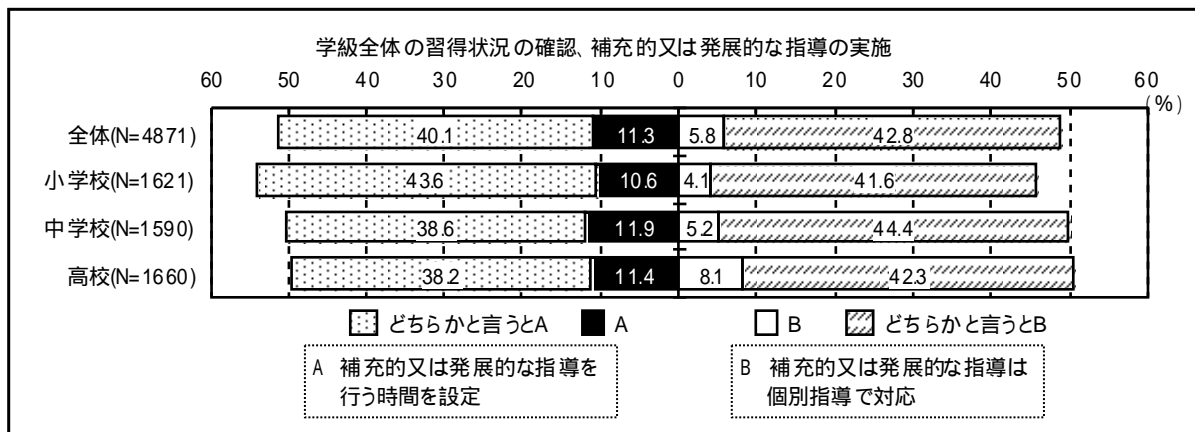
学習指導と学習評価の様々な場面や評価内容ごとに二つの異なる仮定的な指導状況や実感を例示した上で、どちらがより各自の実態に近いかを選択してもらうことにより、各教員が実際に行っている学習指導と学習評価の状況を把握した。

学級全体の習得状況の確認、補充的又は発展的な指導の実施について

- A: 毎時、学級全体の習得状況を確認するとともに、単元中や単元末も習得状況を確認し、それに基づき、補充的又は発展的な指導を行う時間を設けている。
- B: 授業においては、新しい内容を着実に指導することを優先し、補充的な指導や発展的な指導は、個別指導で対応している。

全体及び学校段階別

❖ 小・中・高校のいずれも、「A（補充的又は発展的な指導を行う時間を設定）」の割合が「B（補充的又は発展的な指導は個別指導で対応）」の割合よりも高くなっているが、それぞれ「どちらかと言うと～」を含めると、いずれも50%前後とほぼ二分されている。

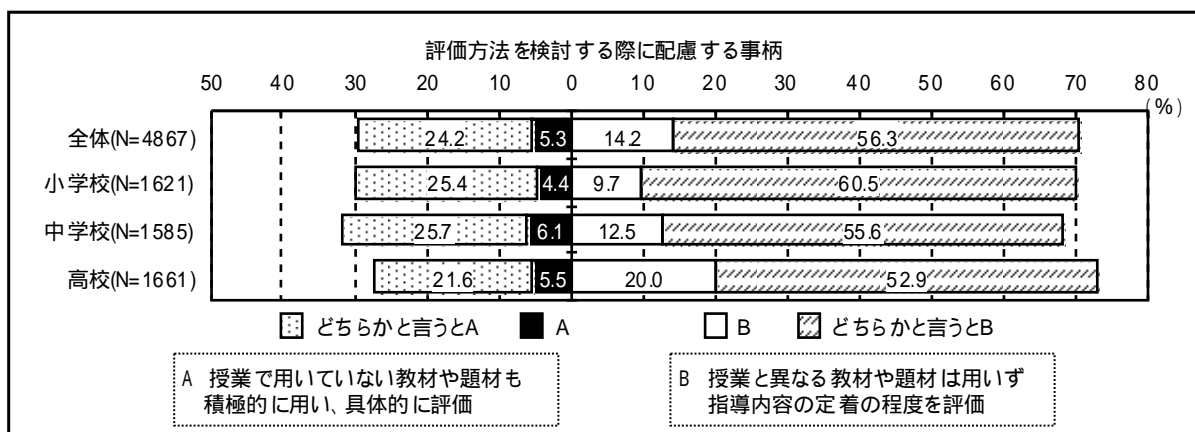


評価方法を検討する際に配慮する事柄について

- A: 評価規準などを改めて参照し、「身に付けさせたい力」を確認した上で、具体的な評価を行う。「身に付けさせたい力」の習得の程度を測るのであるから、授業で用いていない教材や題材も積極的に用いている。
- B: 授業で実際に行った活動を踏まえ、その内容の確認を行うような評価を行う。授業で指導した内容の定着の程度を測るものであるから、授業で用いた教材や題材と異なるものはあまり用いていない。

全体及び学校段階別

❖ それぞれ「どちらかと言うと～」を含めると、小・中・高校のいずれも、B（授業と異なる教材や題材は用いず指導内容の定着の程度を評価）が7割前後、A（授業で用いていない教材や題材も積極的に用い、具体的に評価）が3割前後であり、Bの方がAよりも実態に近いとされている。

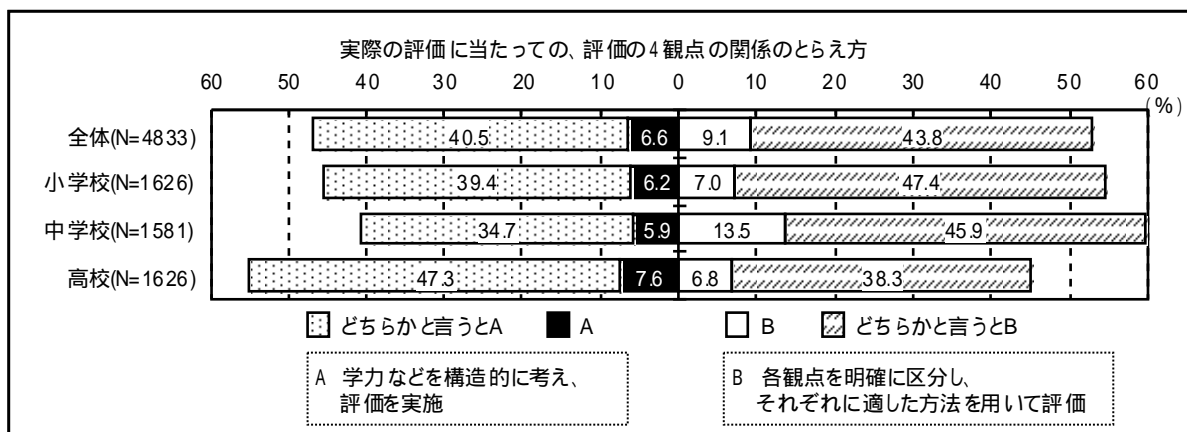


実際の評価に当たっての、評価の4観点の関係のとらえ方について

- A: 学力などを構造的に考え、評価を行っている(例えば、「思考・判断」に良い評価をつける場合は、「知識・理解」や「技能・表現」が十分に満足できる学習状況にあることを前提とするなど)。
 B: 各観点を明確に区別し、それぞれに適した方法を用いて評価を行うので、ある観点の評価を行うときに、別の観点のことを意識することはない。

全体及び学校段階別

- ◆それぞれ「どちらかと言うと～」を含めると、小学校と中学校ではB(各観点を明確に区分し、それぞれに適した方法を用いて評価)の方がA(学力などを構造的に考え、評価を実施)よりも実感に近いとされており、特に中学校では「B」が10%以上と高い割合となっている。
- ◆これに対して、高校では逆にBよりAの方が実感に近いとされており、実際の評価にあたっての、評価の4観点の関係のとらえ方について、小・中学校と高校とで相違がみられる。

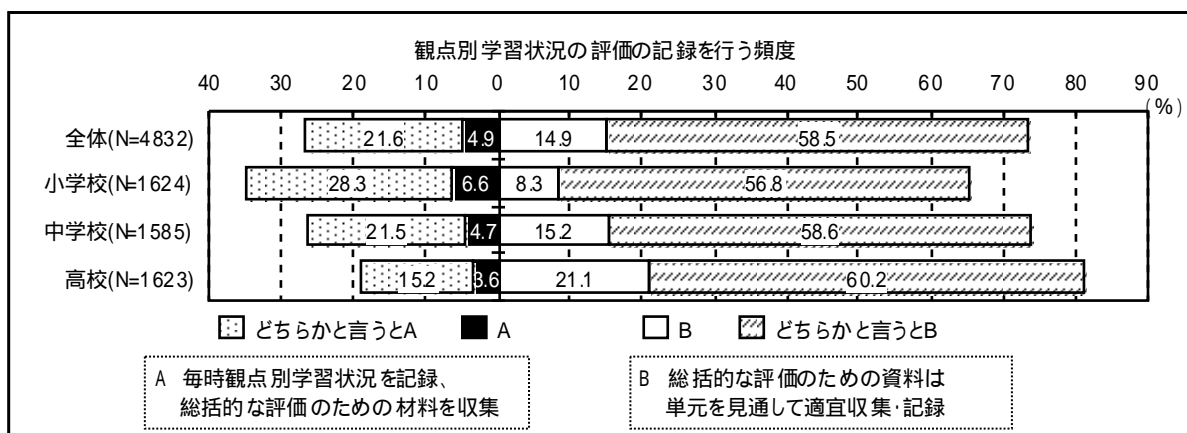


観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について

- A: 毎時、観点別学習状況を記録し、総括的な評価(学期末などの成績評価)を行うための材料を詳細に集めている。
 B: 毎時、観点到配慮した指導は行うが、総括的な評価を行うための資料は1つ又は複数の単元などを見通して、適宜、集め記録している。

全体及び学校段階別

- ◆全体ではBの方がAよりもより実感に近いとされており、小・中・高と学校段階が進むにつれて、「A(毎時観点別学習状況を記録、総括的な評価のための材料を収集)」の割合が低くなり、「B(総括的な評価のための資料は単元を見通して適宜収集・記録)」の割合が高くなる傾向がみられる。
- ◆「どちらかと言うと～」を含めると、AとBの開きは小学校では2倍程度であるが、高校になると4倍以上の開きがみられる。

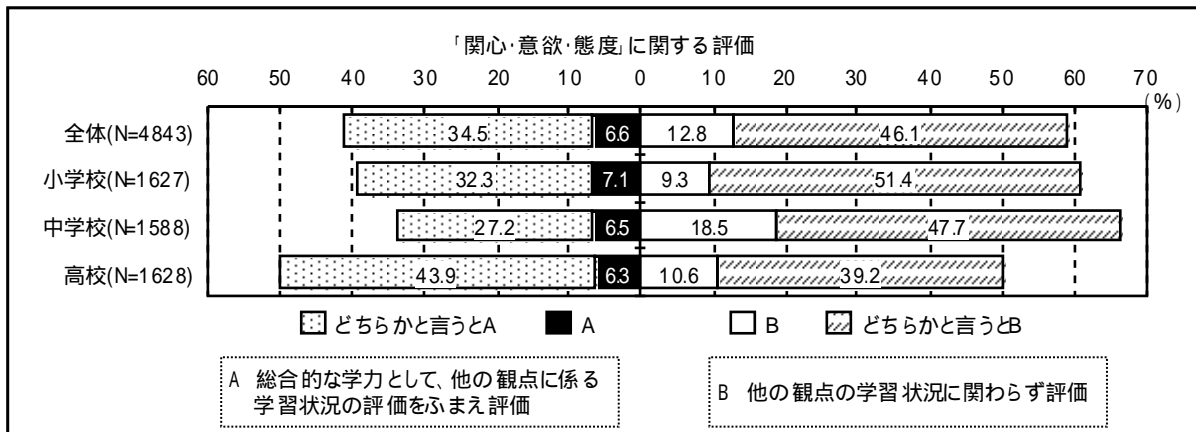


「関心・意欲・態度」に関する評価について

A: 「関心・意欲・態度」を総合的な学力として考え、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。
 B: 他の観点に係る学習状況は努力を要する水準でも、「関心・意欲・態度」は満足できるものと評価している。

全体及び学校段階別

- ❖ 小・中学校では、「A（総合的な学力として、他の観点に係る学習状況の評価をふまえ評価）」よりも「B（他の観点の学習状況に関わらず評価）」の方が高い割合となっており、「どちらかと言うと～」を含めると、Bの方がそれぞれ60%を超え、Aよりも実感に近いとされている。
- ❖ これに対して、高校では、「どちらかと言うと～」を含めるとAとBがほぼ同率となり、「関心・意欲・態度」に関する評価方法が大きく二分されている。

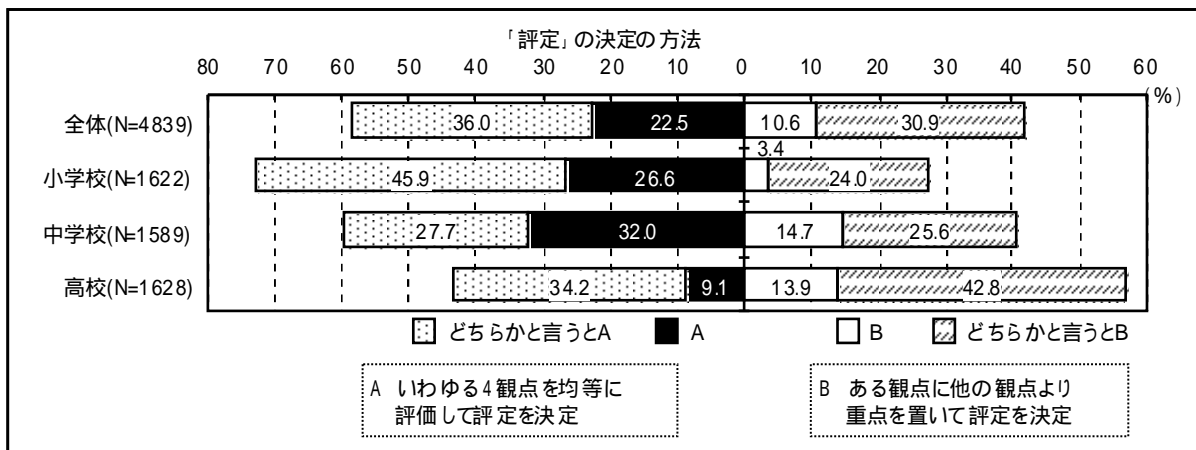


「評定」の決定の方法について

A: いわゆる4観点を均等に評価して評定を決定している。
 B: ある観点到他の観点より重点を置いて、評定を決定している(例えば、関心・意欲・態度よりも他の観点到重点を置くなど)。

全体及び学校段階別

- ❖ 小学校及び中学校では、「A（いわゆる4観点を均等に評価して評定を決定）」が約30~40%前後であり、「B（ある観点到他の観点より重点を置いて評定を決定）」よりも高い割合となっており、それぞれ「どちらかと言うと～」を含めると、小学校では7割以上、中学校でも6割近くの教員がAの方がより実態に近いとしている。
- ❖ これに対して、高校では逆の傾向がみられ、Bの方がより実態に近いとする割合が6割近くと過半数となっており、「評定」の決定方法について小・中学校と高校とで相違がみられる。

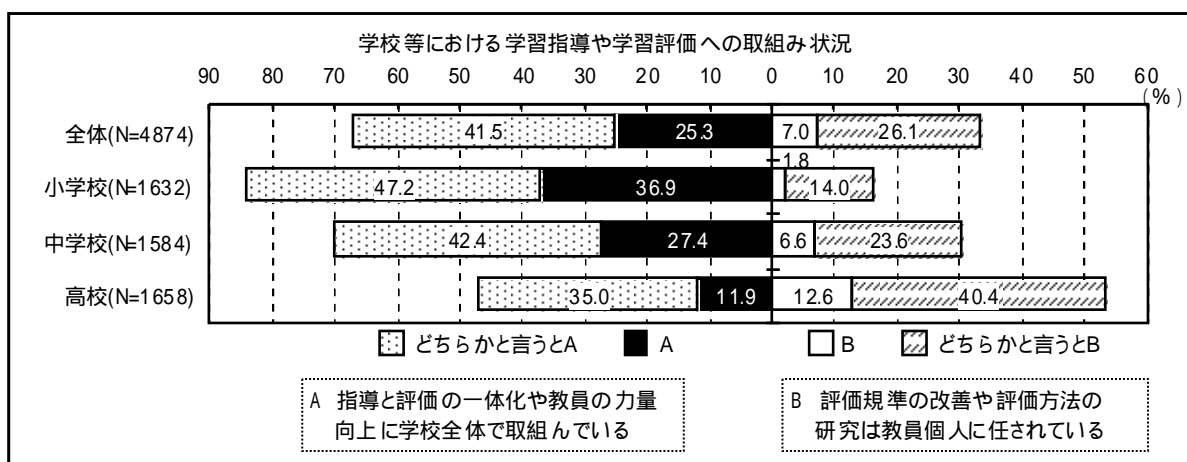


学校等における学習指導や学習評価への取組み状況について

A: 校内で指導計画を共有したり授業研究を行ったりして、指導と評価の一体化や教員の力量の向上に、学校全体や教育委員会等で取り組んでいる。
 B: 評価規準の改善、評価方法の研究などは、教員個人に任されている。

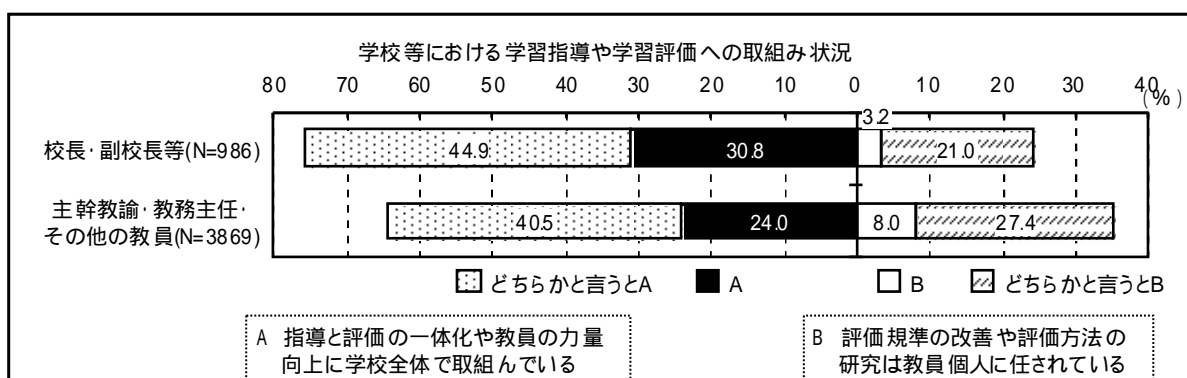
全体及び学校段階別

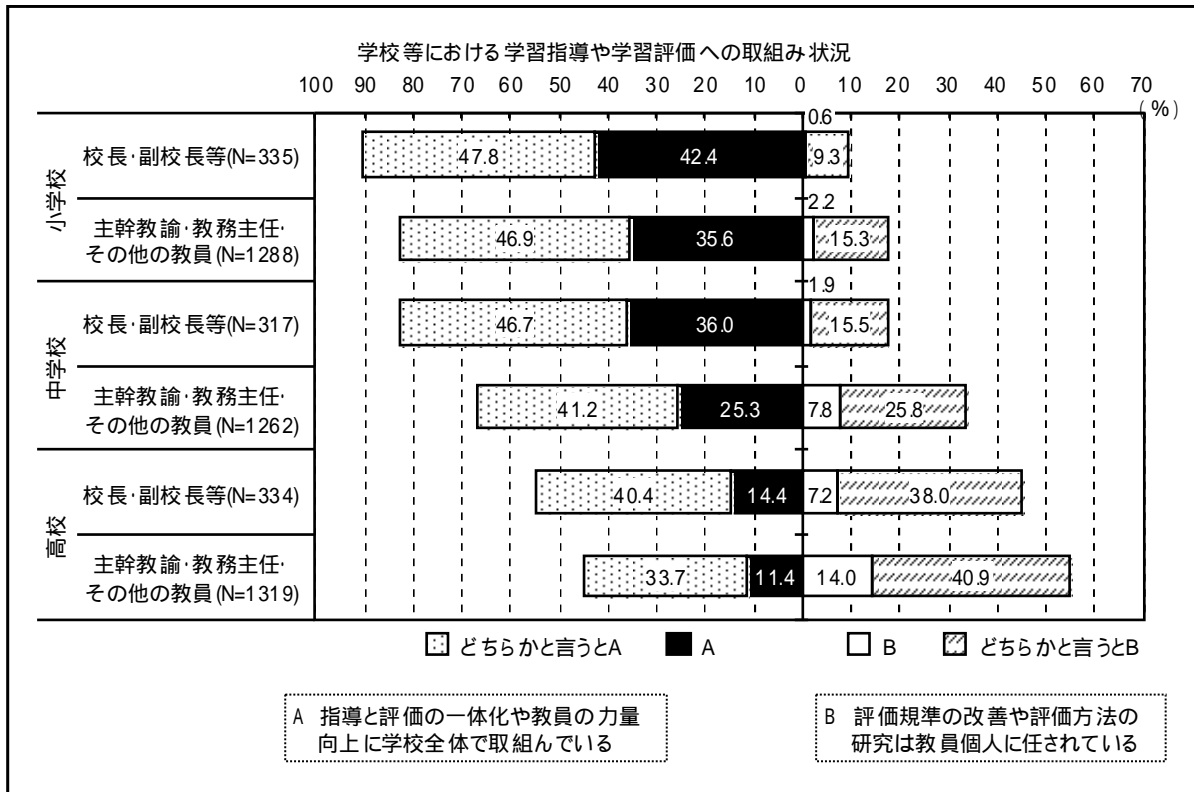
- ❖ 「A（指導と評価の一体化や教員の力量向上に学校全体で取り組んでいる）」の割合は、小学校では40%近くとなっており、「B（評価規準の改善や評価方法の研究は教員個人に任されている）」との開きが大きい。中学・高校と学校段階が進むにつれて「A」の割合は小さくなり、逆に「B」の割合が大きくなる傾向がみられる。
- ❖ 「どちらかと言うと～」も含めると、小・中学校ではAの方がBよりも実態に近いとされているが、高校ではBの方がややAよりも高い割合となり、学校段階が進むにつれて、教員個人に学習指導や学習評価が任される傾向が強くなるのがうかがえる。



全体・学校段階別×職名等別

- ❖ 学校等における学習指導や学習評価への取組み状況に関する回答について、役職者かどうかで違いがみられるかを把握するため、小・中・高校それぞれにおいて、「校長」又は「副校長・教頭」の役職者グループ（以下、「校長・副校長等」という。）と「主幹教諭・教務主任」又は「それ以外の教員」のグループ（以下、「主幹教諭・教務主任・その他の教員」という。）の2つに分けた上でクロス集計を行った。
- ❖ その結果、小・中・高校のいずれも、「校長・副校長等」の方が「主幹教諭・教務主任・その他の教員」よりも学校全体で学習指導や学習評価に取り組んでいる（Aの方がより実態に近い）とする割合が高くなる傾向がみられ、特に中学校ではグループ間の差が大きくなっている。





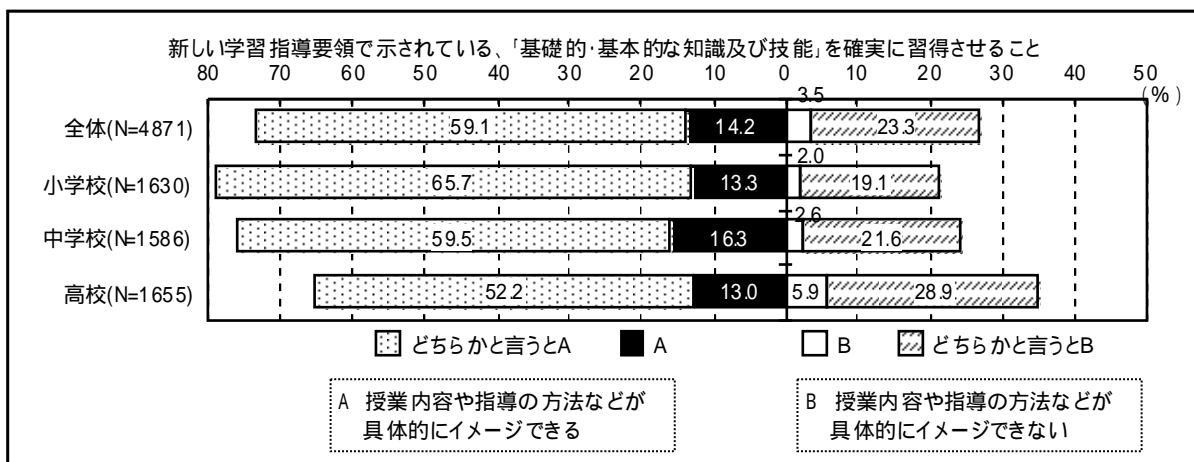
小・中・高校のいずれも、「校長・副校長等」は「校長」と「副校長・教頭」の合計、「主幹教諭・教務主任・その他の教員」は「主幹教諭・教務主任」と「それ以外の教員」の合計である。

新しい学習指導要領で示されている、「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させることについて

- A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。
- B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

全体及び学校段階別

- ❖ 「基礎的・基本的な知識及び技能」に係る授業内容や指導の方法については、小・中・高校いずれも10%以上が「A（授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる）」としており、「どちらかと言うと～」も含めると、小・中学校では75%以上、高校でも65%以上が授業内容や指導の方法などについて具体的にイメージできるとしている。



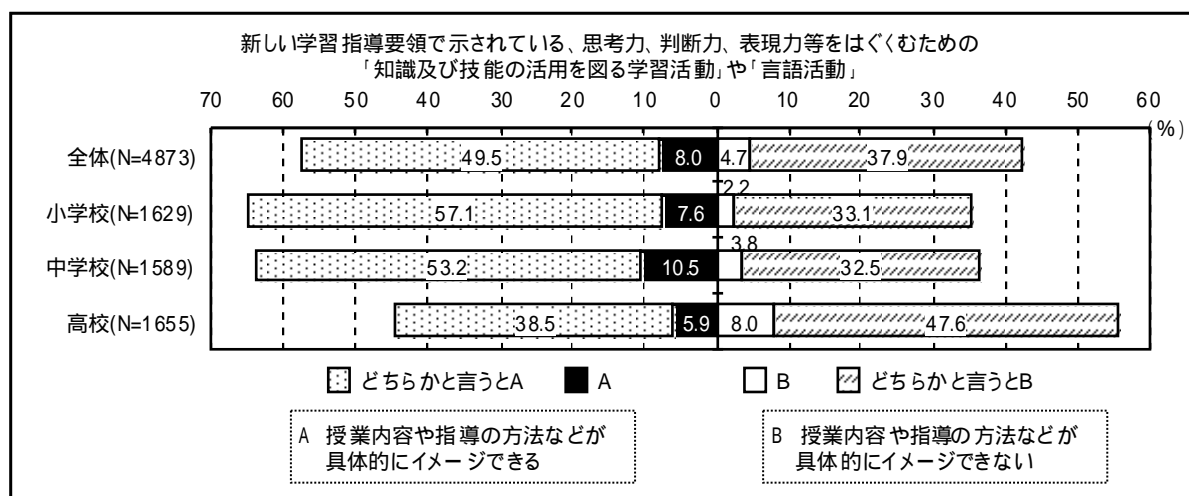
新しい学習指導要領で示されている、思考力、判断力、表現力等をはぐくむための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」について

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

全体及び学校段階別

- ❖ 「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」に係る授業内容や指導の方法については、小学校と中学校では6割以上の教員が授業内容や指導の方法などについて具体的にイメージできる（Aの方がより実感に近い）としている。
- ❖ これに対して、高校では、授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない（Bの方がより実感に近い）とする教員の方が半数を超えている。

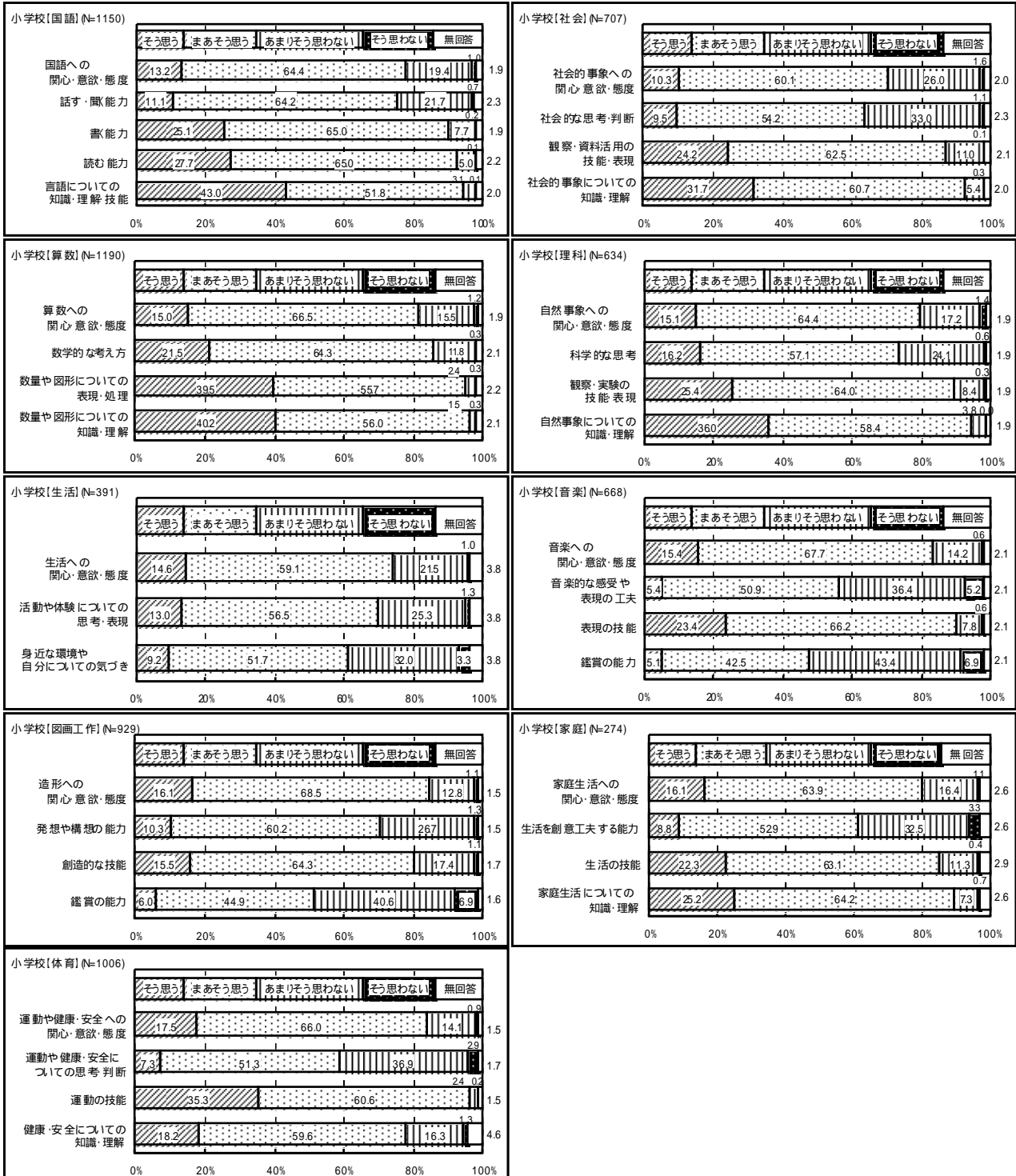


(2) 各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況

小・中・高校それぞれにおいて、各教科における観点別学習状況の評価に係る資料の収集・分析や評価の決定の実施状況について、「そう思う(=円滑に実施できている)」から「そう思わない(=円滑に実施できていない)」までの4段階で自己評価してもらい、評価の実態を把握した。

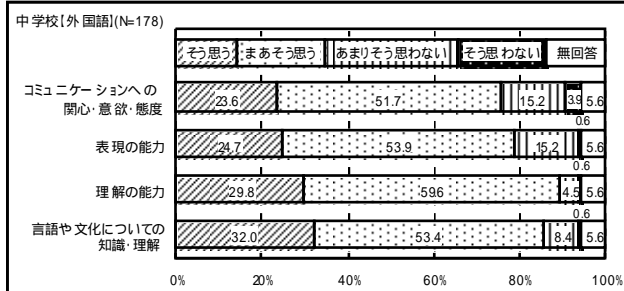
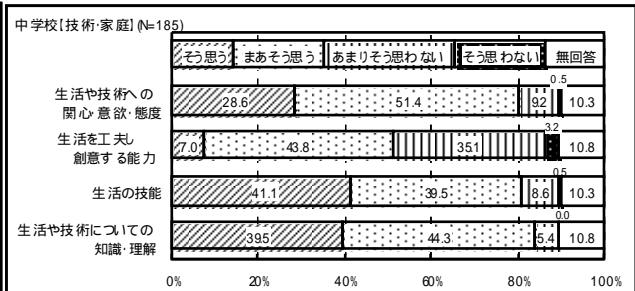
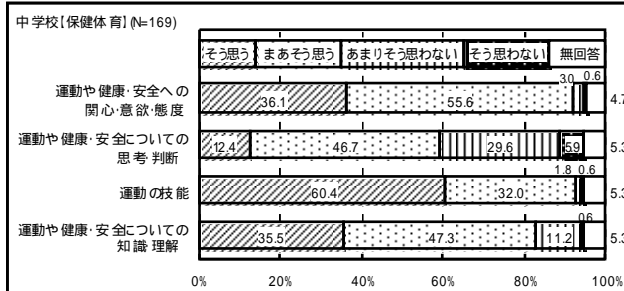
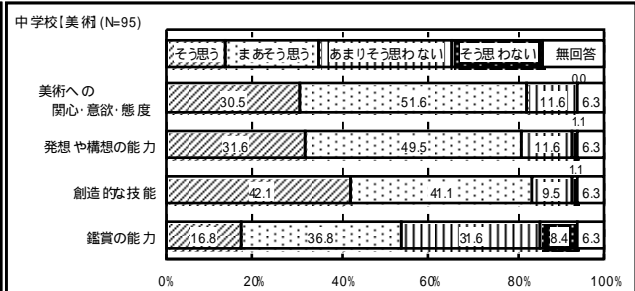
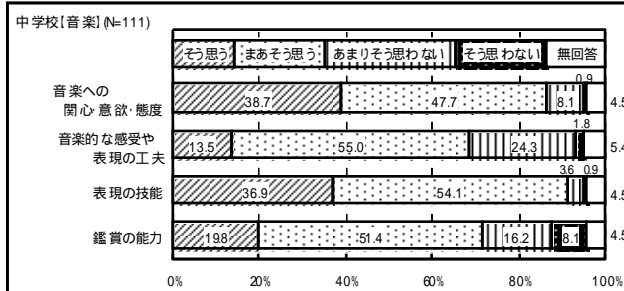
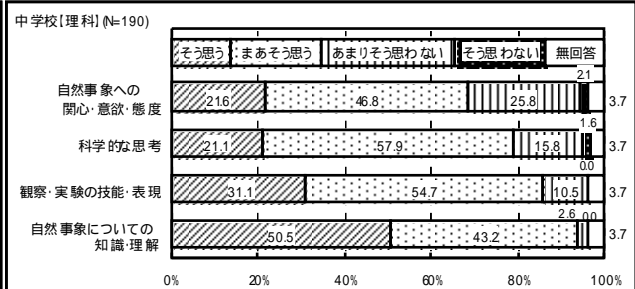
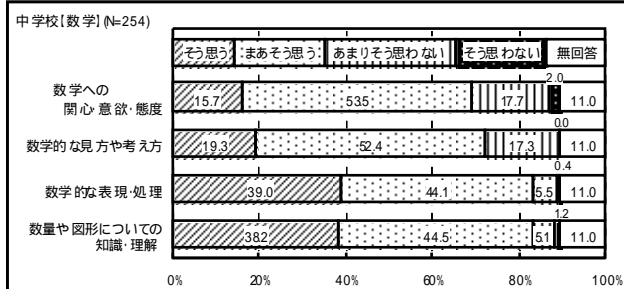
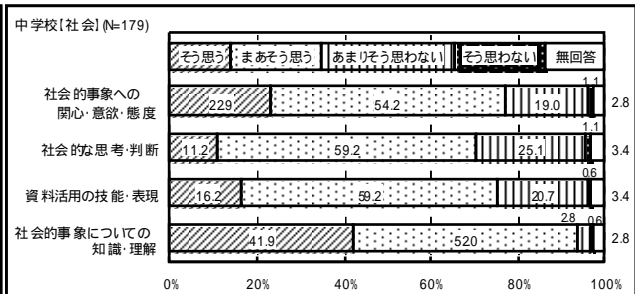
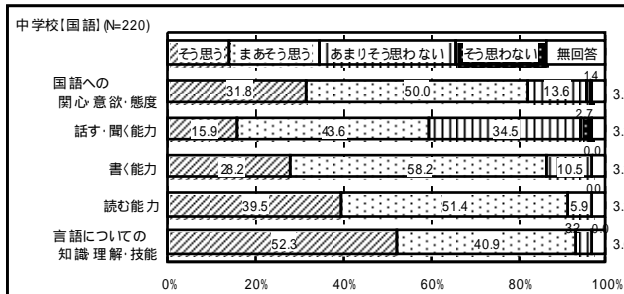
小学校における各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況

◆いずれの教科でも「知識・理解」に関する評価は比較的円滑に実施されているが、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」などに関する評価については、課題を感じる教員がみられる。



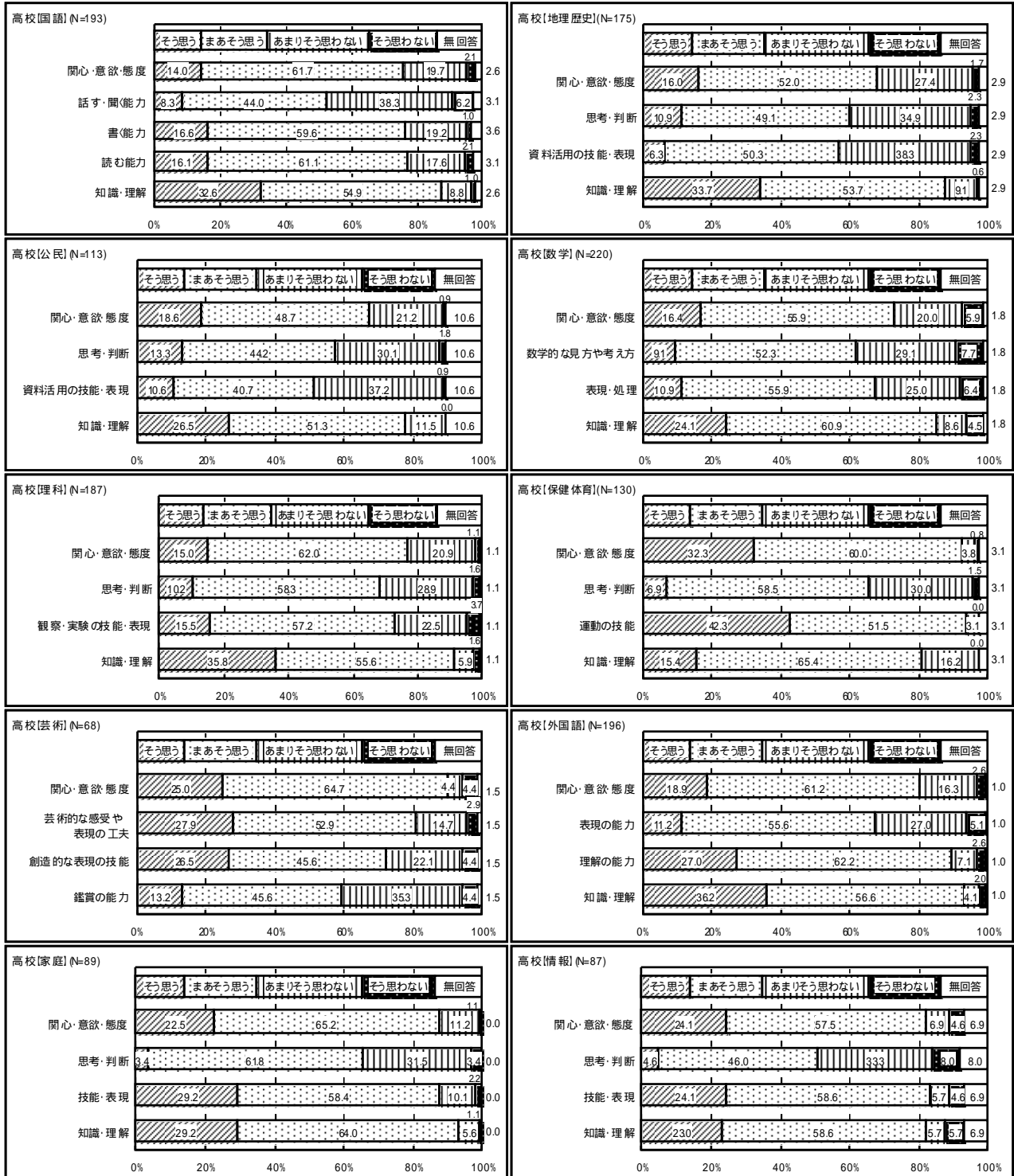
中学校における各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況

◆いずれの教科でも「知識・理解」に関する評価は比較的円滑に実施されているが、「思考・判断」などに関する評価については課題を感じる教員がみられる。また、「関心・意欲・態度」については教科により違いがある。



高校における各教科ごとの観点別学習状況の評価の実施状況

◆いずれの教科でも「知識・理解」に関する評価は比較的円滑に実施されているが、「思考・判断」などに関する評価については課題を感じる教員がみられる。また、「関心・意欲・態度」については教科により違いがある。



目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等に対する考えや保護者への説明に関する過去調査との比較

ここでは、「学校教育に関する意識調査」（以下「平成 15 年度調査」という。）における教員調査の結果の中から、本調査と比較できる設問を抽出し、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に関する教員の意識の変化や、保護者への説明状況の変化等を分析した。

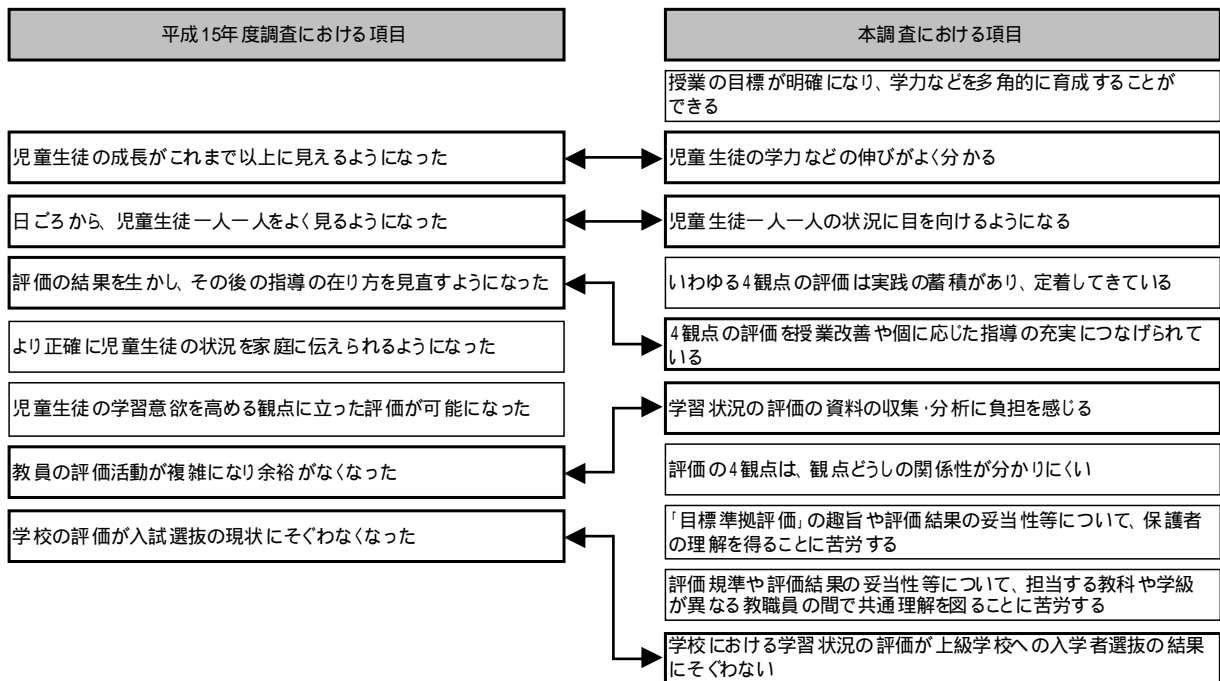
平成15年度調査では、調査対象は小学校及び中学校の教員のみであるため、本調査データについても、高校教員の回答は除き、小学校及び中学校の教員の回答のみから全体の割合等を再計算して比較を行った。

- 1 . 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員意識の変化

平成 14 年度から全国の小・中学校で平成 10 年改訂の新学習指導要領が全面的に実施されており、観点別学習状況の評価に加え、評定も目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に改められた。これを受け、平成 15 年度調査では、小・中学校の教員に対し、評価の仕方が変わったことについての意識調査を行っている。

ここでは、平成 15 年度調査の項目の中から本調査と比較できる項目を抽出し（図表 1 - 3 参照）、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入直後と 7 年余りが経過した現在との間で、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員の意識にどのような変化がみられるかを分析した。

図表1-3 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員意識の比較項目

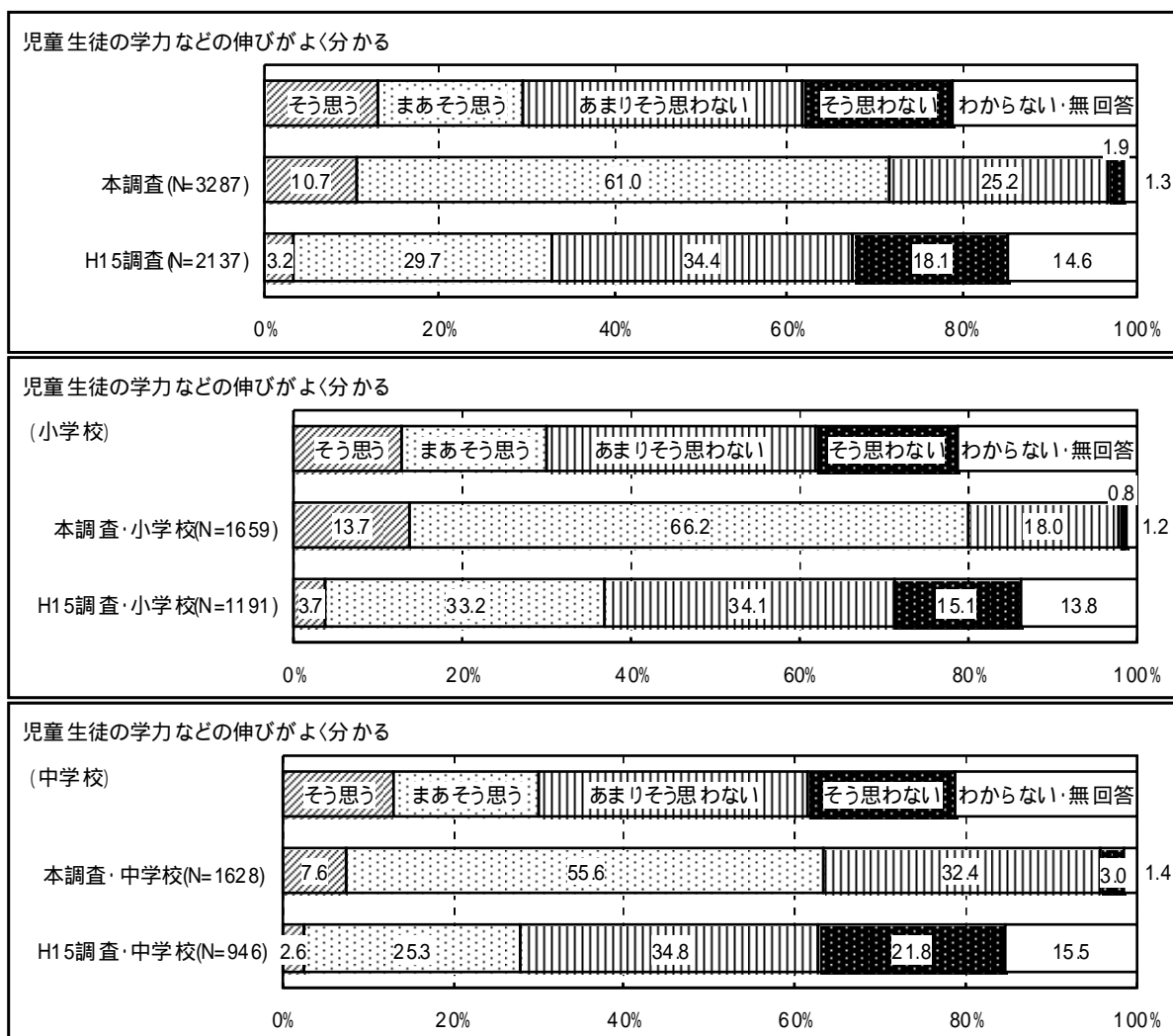


平成 15 年度調査では、各項目について「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」、「わからない」の5つからあてはまるものを選択させているが、本調査では「わからない」は選択肢として設けられていないため、平成 15 年度調査の「わからない」の割合は無回答と合計して本調査と比較した。

「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる(児童生徒の成長がこれまで以上に見えるようになった)」

全体及び学校段階別

- ❖平成 15 年度調査では、「あまりそう思わない」が 34.4%、「そう思わない」が 18.1%で、これらを合計すると、半数以上の教員が、評価の仕方変わったことで児童生徒の成長がこれまで以上に見えるようになったとは実感していないことがわかる。
- ❖これに対して、本調査では、「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」と実感している教員の割合(「そう思う」+「まあそう思う」)が 71.7%と、全体の 7 割以上を占めており、また「そう思わない」は 1.9%と非常に低くなっている。
- ❖なお、小学校教員同士、中学校教員同士で平成 15 年度調査と本調査の結果を比較すると、特に小学校では、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が本調査では 79.9%と 8 割近くにまでのぼっており、平成 15 年度調査(36.9%)と比べて 43 ポイントも高くなっている。
- ❖また中学校教員では、「そう思わない」の割合が平成 15 年度調査では 21.8%と高かったのに対して、本調査では 3.0%と低くなっており、代わって「まあそう思う」の割合が平成 15 年度調査(25.3%)と比べて 30 ポイント以上高くなっている。

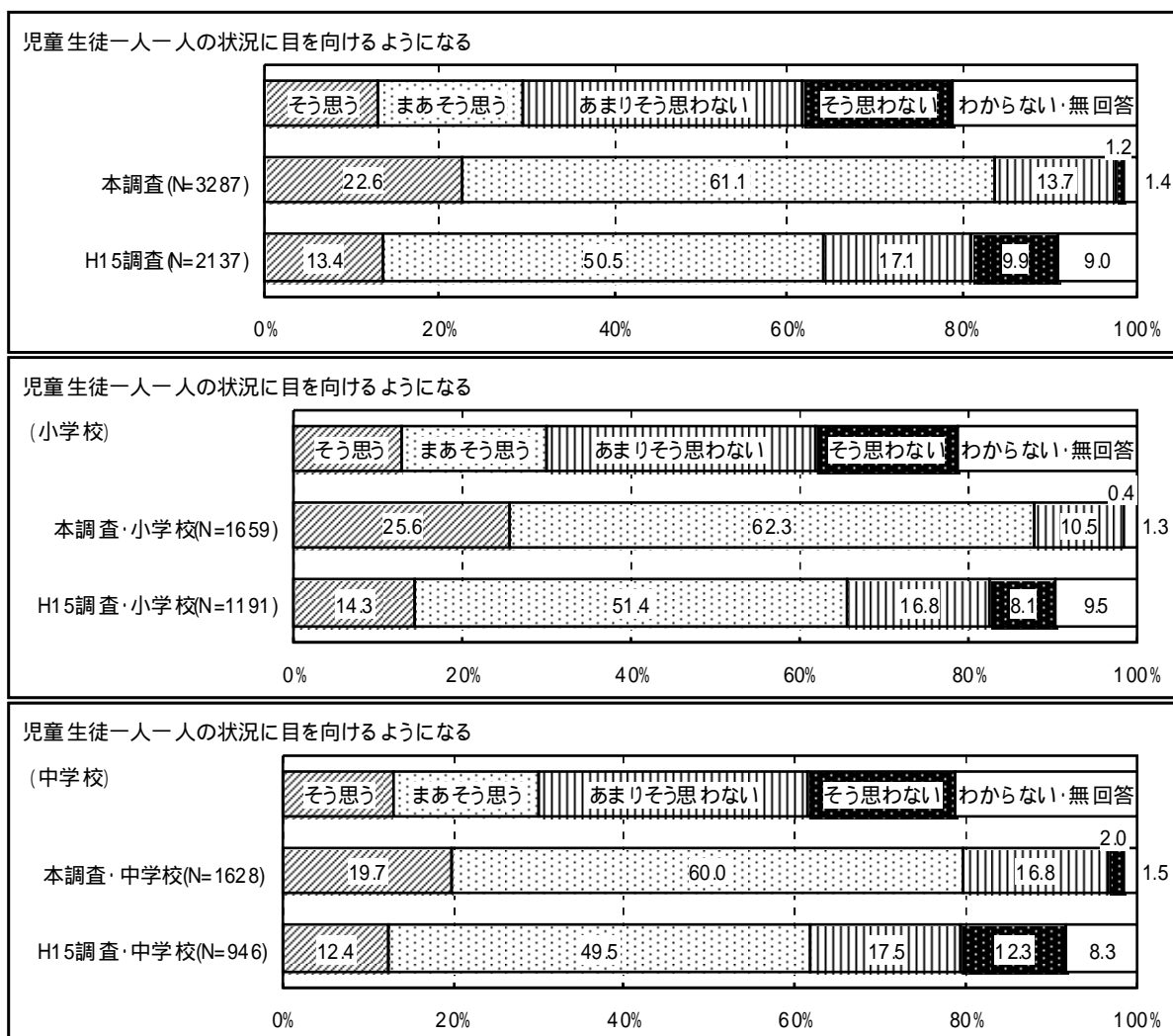


本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。

「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる(日ごろから児童生徒一人一人をよく見るようになった)」

全体及び学校段階別

- ❖平成 15 年度調査では、6 割以上の教員が日ごろから児童生徒一人一人をよく見るようになった(「そう思う」+「まあそう思う」としているが、そう思わない教員(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)も 3 割近くみられる。
- ❖これに対して、本調査をみると、児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになるという教員(「そう思う」+「まあそう思う」)は 8 割を超えており、また、「そう思わない」の割合も平成 15 年度調査と比べて大きく減少している。
- ❖なお、小学校教員同士、中学校教員同士で平成 15 年度調査と本調査の結果を比較すると、特に小学校では、「そう思う」の割合が本調査では 25.6%と 4 分の 1 を占めており、平成 15 年度調査(14.3%)と比べて 2 倍近くになっている。
- ❖また、中学校教員では、「あまりそう思わない」の割合は平成 15 年度調査及び本調査で同程度であるが、「そう思わない」の割合は、平成 15 年度調査では 12.3%であるが、本調査では 2.0%と低くなっている。

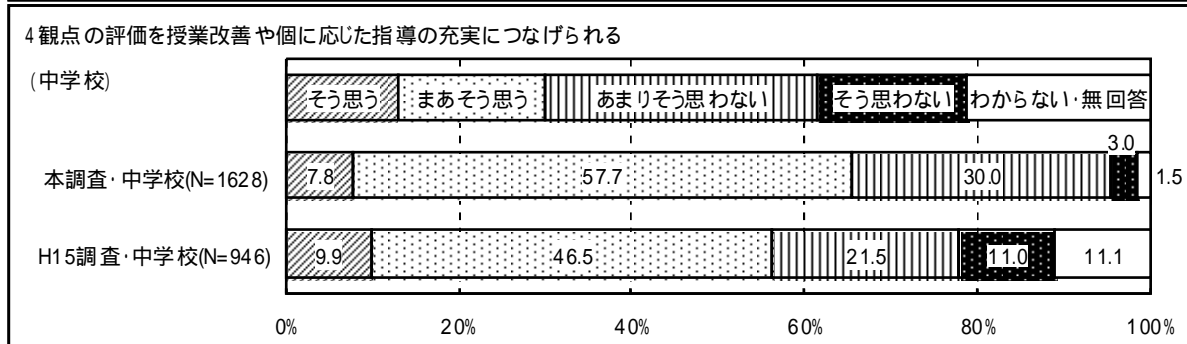
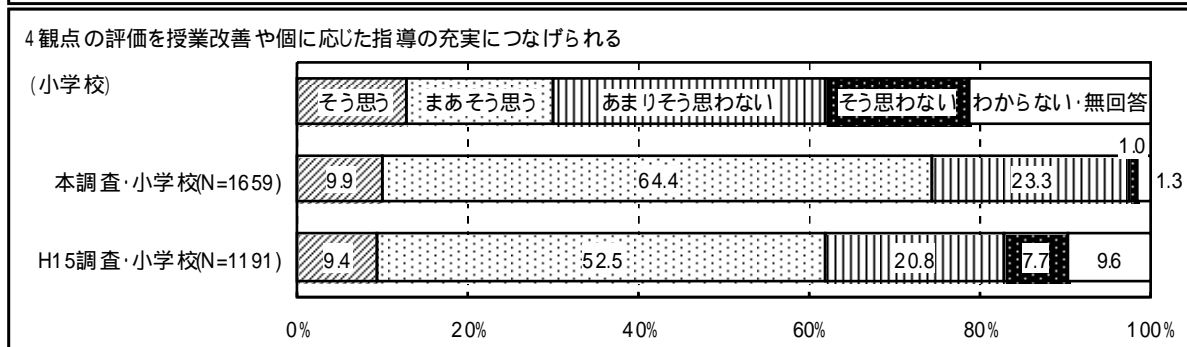
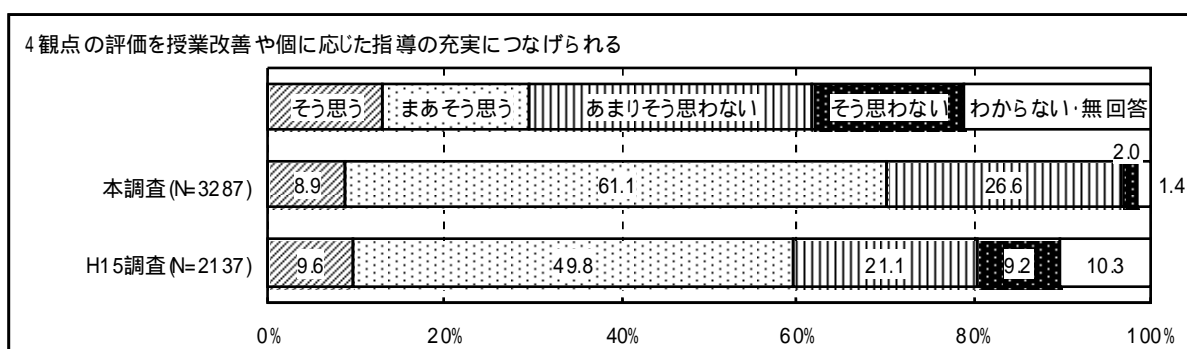


本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。

「4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている(評価の結果を生かし、その後の指導の在り方を見直すようになった)」

全体及び学校段階別

- ❖平成 15 年度調査では、6 割近くの教員が評価の結果を生かし、その後の指導の在り方を見直すようになった(「そう思う」+「まあそう思う」としているが、そう思わない教員(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)も約 3 割みられる。
- ❖これに対して、本調査をみると、4 観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられているという教員(「そう思う」+「まあそう思う」)は 70.0%と、平成 15 年度調査より約 10 ポイント高くなっており、特に「まあそう思う」の割合が 61.1%と高い。
- ❖なお、学校段階別に平成 15 年度調査と本調査の結果を比較すると、特に小学校では、「そう思う」の割合は本調査(9.9%)と平成 15 年度調査(9.4%)とでほとんど変わらないが、「まあそう思う」の割合が平成 15 年度調査と比べて 10 ポイント以上高くなっている。
- ❖また、中学校教員では、「そう思う」の割合は本調査(7.8%)でやや平成 15 年度調査(9.9%)より低くなっているものの、「まあそう思う」の割合は約 6 割近くを占めており、平成 15 年度調査より 10 ポイント以上高くなっている。

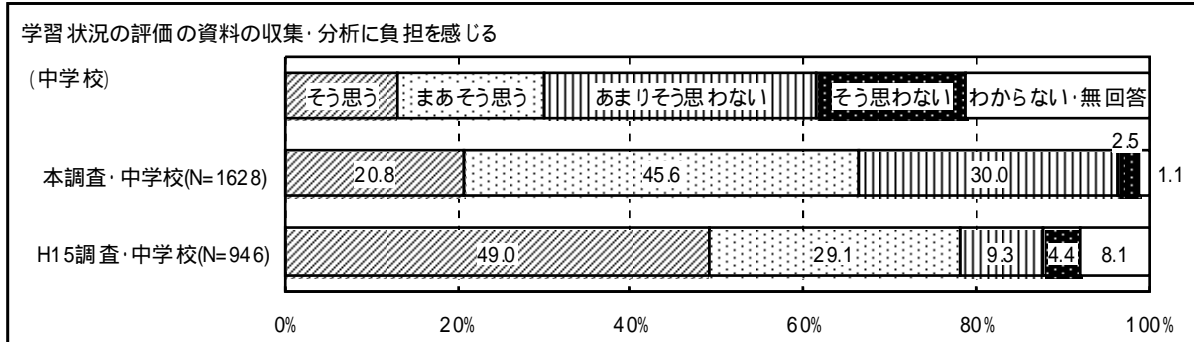
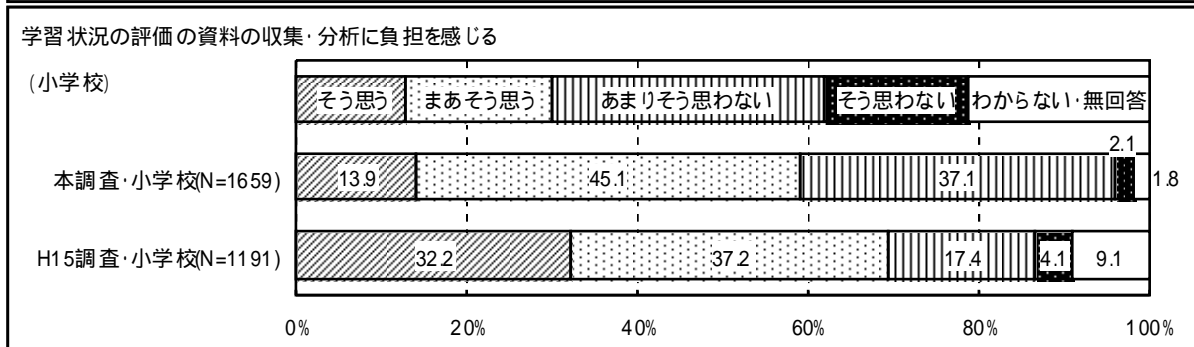
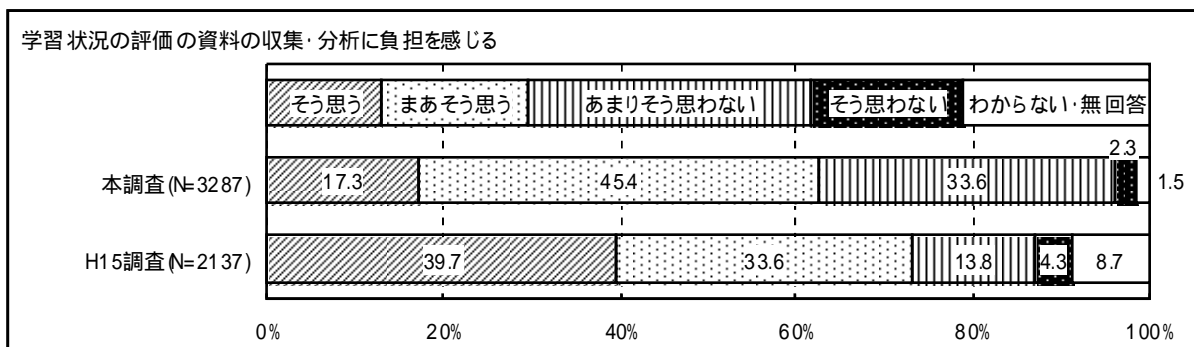


本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。

「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる(教員の評価活動が複雑になり余裕がなくなった)」

全体及び学校段階別

- ❖平成 15 年度調査では、7 割以上の教員が、評価の仕方が変わったことにより教員の評価活動が複雑になり余裕がなくなった(「そう思う」+「まあそう思う」)としている。
- ❖これに対して、本調査をみると、「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる」という教員の割合(「そう思う」+「まあそう思う」)は 6 割以上と半数を超えているものの、平成 15 年度調査と比べると 10 ポイント以上低くなっており、特に「そう思う」と感じている教員の割合が平成 15 年度調査の 39.7%から本調査では 17.3%まで減少している。
- ❖なお、学校段階別に比較すると、中学校では、平成 15 年度調査では「そう思う」が 49.0%と、半数近くの教員が評価活動が複雑になり余裕がなくなったと感じていたが、本調査では「そう思う」は 20.8%と平成 15 年度調査の 2 分の 1 以下に低下しており、「まあそう思う」と合わせた割合でみても、平成 15 年度調査から 12 ポイント近く低くなっている。
- ❖小学校教員でも同様の傾向がみられ、平成 15 年度調査では評価資料の収集・分析に負担を感じないとする教員(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)が 2 割程度であったが、本調査では 4 割近くに達している。

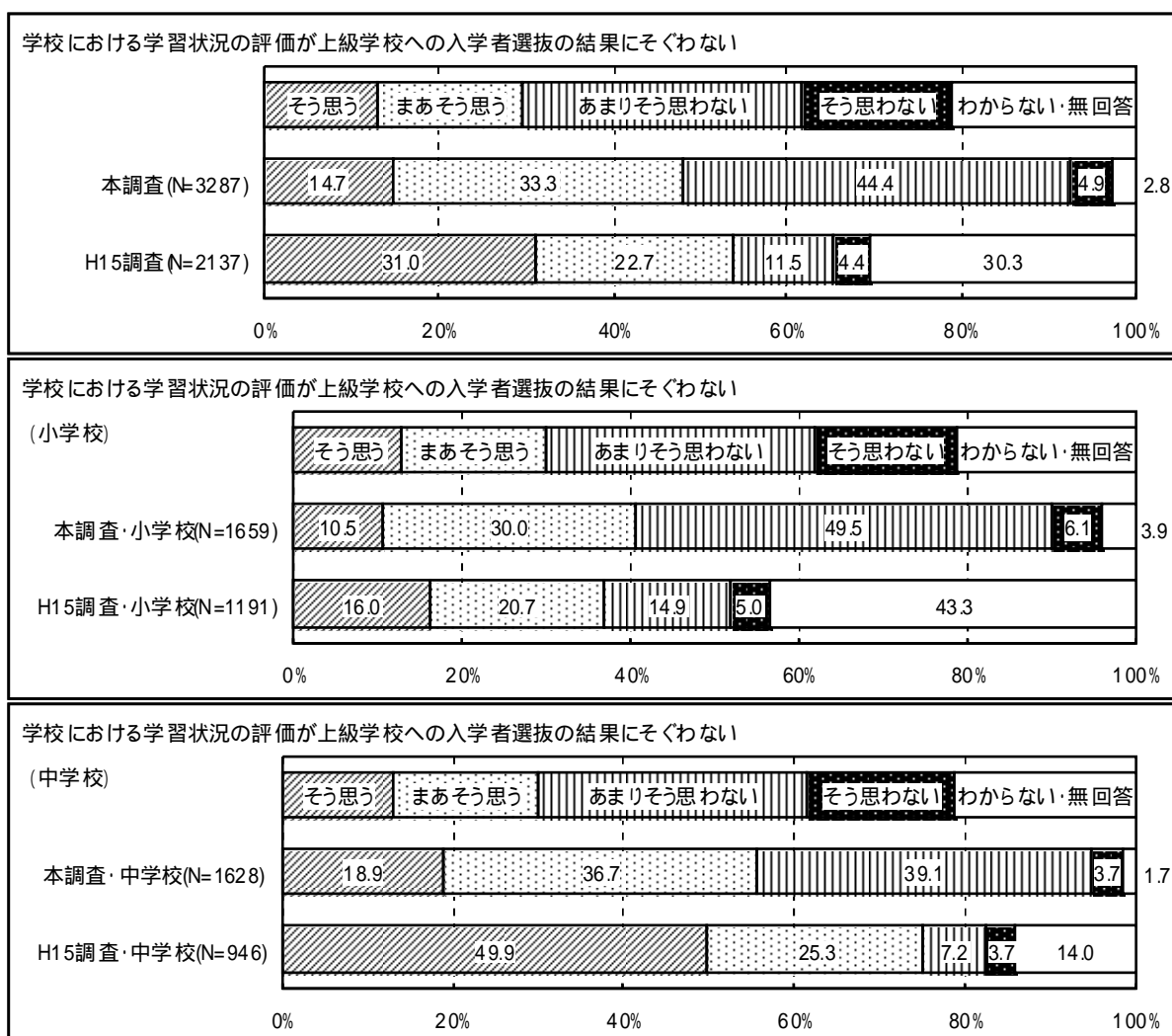


本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。

「学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない(学校の評価が入試選抜の現状にそぐわなくなった)」

全体及び学校段階別

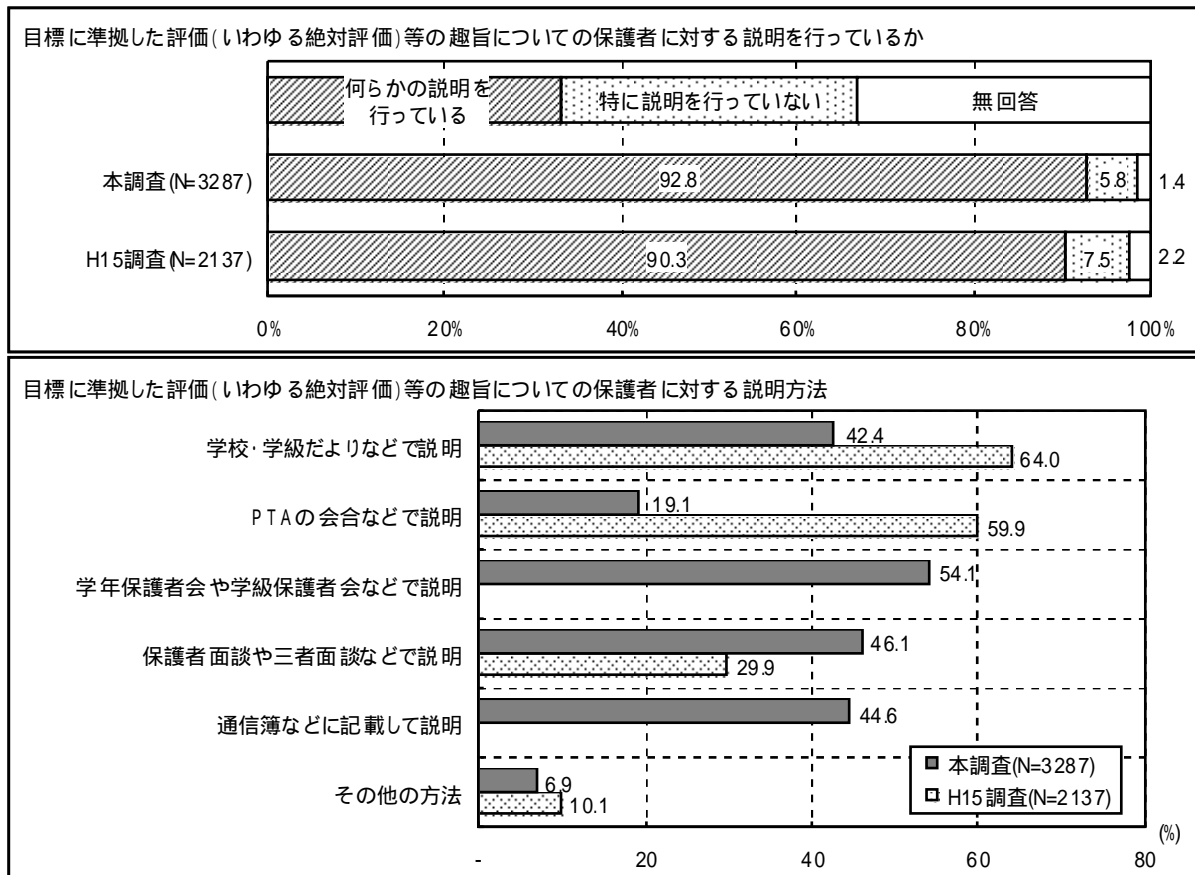
- ❖ 評価についても、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)が導入されてから1年しか経っていなかった平成15年度調査では、「わからない・無回答」が3割と多いものの、過半数は学校の評価が入試選抜の現状にそぐわなくなった(「そう思う」+「まあそう思う」としている)。
- ❖ これに対して、本調査をみると、学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわないとする教員とそう思わないとする教員とが半数ずつと二分されており、「そう思う」の割合は平成15年度調査の2分の1程度にまで減少している。
- ❖ なお、学校段階別に平成15年度調査と本調査の結果を比較すると、特に中学校教員では、「そう思う」の割合が平成15年度調査では49.9%とほぼ半数を占めていたのに対して、本調査では18.9%と低くなっており、代わって「あまりそう思わない」の割合が39.1%と、平成15年度調査(7.2%)の5倍以上になっている。



本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。

- 2 . 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等の趣旨についての保護者への説明状況の変化

- ❖ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価の趣旨についての保護者に対する説明状況について、平成 15 年度調査と本調査とを比較すると、いずれも 9 割以上の教員が何らかの説明を行っているとしている。
- ❖ 具体的な説明方法をみると、平成 15 年度調査では「学校・学級だよりなどで説明」（64.0%）するか「PTA の会合などで説明」（59.9%）するケースが多かった。
- ❖ 一方、本調査では、「学年保護者会や学級保護者会などで説明」（54.1%）や、「保護者面談や三者面談などで説明」（46.1%）、「通信簿などに記載して説明」（44.6%）などが多くみられる。



本調査のデータは、小学校及び中学校の教員の回答のみから再計算したものである。
 「学年保護者会や学級保護者会などで説明」及び「通信簿などに記載して説明」は、平成15年度調査では選択肢に含まれていないため本調査と比較できるデータがない。

第2章 学習指導と学習評価に対する意識調査(保護者編)

保護者向けアンケート調査の概要

- 1 . 調査の目的

本調査は、全国の小・中・高校に通う児童生徒の保護者に対して、児童生徒の学習指導と学習評価に関する意識調査を実施し、学習指導と学習評価に関する様々な課題を明らかにするとともに、今後の学習評価等の在り方に係る専門的な検討に資する資料を得ることを目的として実施したものである。

- 2 . 調査の対象及び調査方法等

(1) 調査対象

全国から無作為抽出された小・中・高校(各 50 校、計 150 校)に通う児童生徒の保護者
(文部科学省からの発送数は、小学校 1,795 枚、中学校 2,180 枚、高校 2,500 枚、計 6,475 枚)

(2) 対象方法

- ・ 教員向けアンケート調査の対象校(小・中・高校各 200 校、計 600 校)のうち4分の1(各 50 校、計 150 校)を保護者向けアンケート調査実施校として選定し、これらの学校に保護者向けアンケート票を配付
- ・ 各サンプル校において、小学校は5年生、中学校は2年生、高校は2年生の中で任意の1クラスを選び、児童生徒を通じて保護者にアンケート票と封筒を配付
- ・ 保護者は各自家庭にて回答の上、アンケート票を封筒に入れ、児童生徒を通じて学校に提出
- ・ 学校は、クラスで回収した保護者向けアンケート票(封入されたもの)をまとめて返送

(3) 調査時期

- 8月中旬 調査票配付
- 9月中旬 学校より調査票を回収

(4) 調査項目

回答者属性(子どもの性別・子どもの学年・子どもとの関係・学校の設置形態)

学校での学習指導や学習評価について

学校においてどのような授業や学習指導を望むか

目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての周知度

目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨に関する学校からの説明状況

目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての感想

子どもの授業の理解度の把握方法

集団の中での子どもの成績の順位に関する学校からの通知状況

なお、具体的な設問の流れ及び各設問の内容については、次頁の図表 2 - 1 のとおりである。

図表2-1 保護者向けアンケート調査 調査項目一覧

		設 問	タイプ
回答者属性	1	(アンケートを持ち帰った)子どもの性別	SA
	2	(アンケートを持ち帰った)子どもの学年	SA
	3	(アンケートを持ち帰った)子どもとの関係	SA
	4	(アンケートを持ち帰った)子どもが通っている学校の設置形態	SA
学校での学習指導や学習評価について	5	学校においてどのような授業や学習指導を望むか	MA3
	6	目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての周知度	SA
	7	目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨に関する学校からの説明状況	MA
	8	目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての感想	各 SA
	9	子どもの授業の理解度の把握方法	MA
	10	集団の中での子どもの成績の順位の通知状況	MA

1:表中の設問番号は実際の調査票とは異なる。

2:「タイプ」欄の各記号は、それぞれ以下のとおりである。

SA...単一回答(選択肢からあてはまるものをひとつ選んで回答)

MA...複数回答(選択肢からあてはまるものを全て選んで回答, MA3はあてはまるものを3つまで選んで回答)

- 3 . 回収状況

回収状況は以下のとおりである。

図表2-2 保護者向けアンケート調査 回収状況

	小学校	中学校	高校	合計
対象学校数 (校)	50	50	50	150
回答学校数 (校)	42	40	41	123
調査票発送数 (枚)	1,795	2,180	2,500	6,475
保護者回答数 (人)	1,117	1,222	1,474	3,813
回収率 (%)	62.2%	56.1%	59.0%	58.9%
1校平均回答者数 (人)	26.6	30.6	36.0	31.0

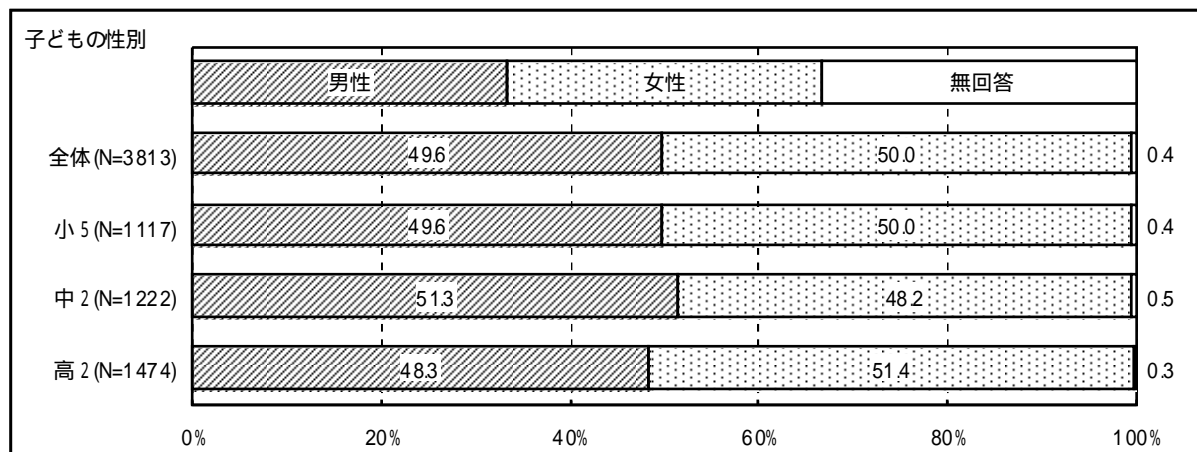
「回収率」は文部科学省から各校への発送数に対する回収数の比率を表している。実際に調査対象となる保護者の人数は各校で調査対象とするクラスの児童生徒数等によるため、実際に保護者の手元に渡った数は不明である。

- 4 . 回答者の属性

(1)(アンケートを持ち帰った)子どもの性別

全体及び学校段階別

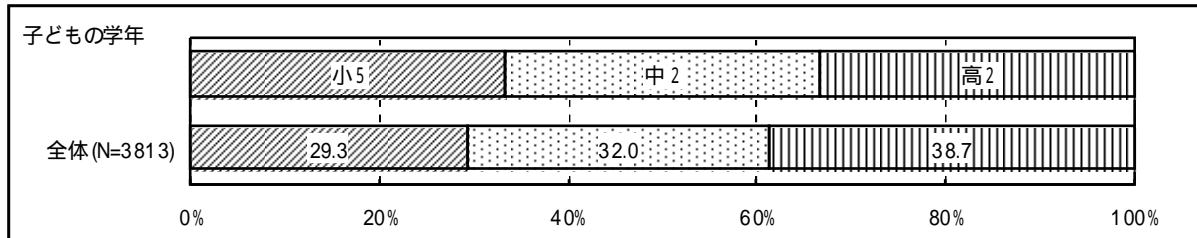
- ❖ 回答者の子どもの性別をみると、全体では「男性」が 49.6%、「女性」が 50.0%であり、学校段階別にみると、小5の保護者では「男性」49.6%、「女性」50.0%、中2の保護者では「男性」51.3%、「女性」48.2%、高2の保護者では「男性」48.3%、「女性」51.4%となっている。



(2)(アンケートを持ち帰った)子どもの学年

全体

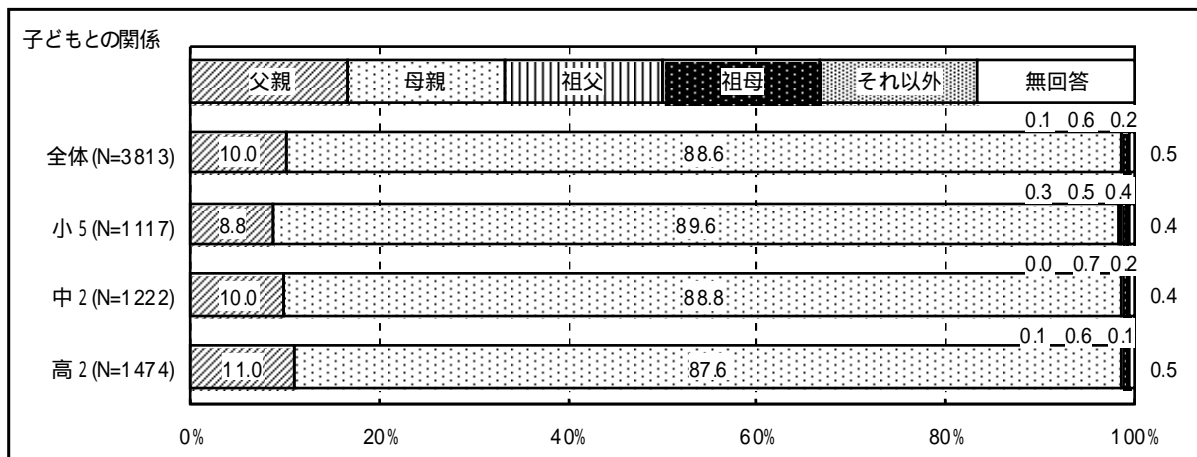
❖ 回答者の子どもの学年をみると、「小5」が29.3%、「中2」が32.0%、「高2」が38.7%となっている。



(3)(アンケートを持ち帰った)子どもとの関係

全体及び学校段階別

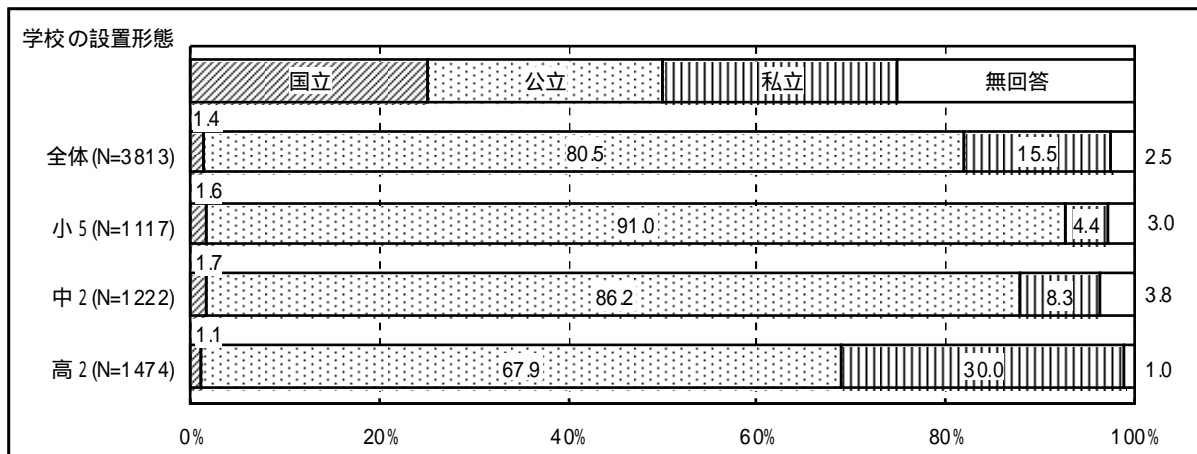
❖ 子どもとの関係をみると、回答者の大部分は「母親」であり、「父親」は各学校段階とも約1割程度である。



(4)(アンケートを持ち帰った)子どもが通っている学校の設置形態

全体及び学校段階別

❖ 子どもが通っている学校の設置形態をみると、全体の約8割は「公立」である。

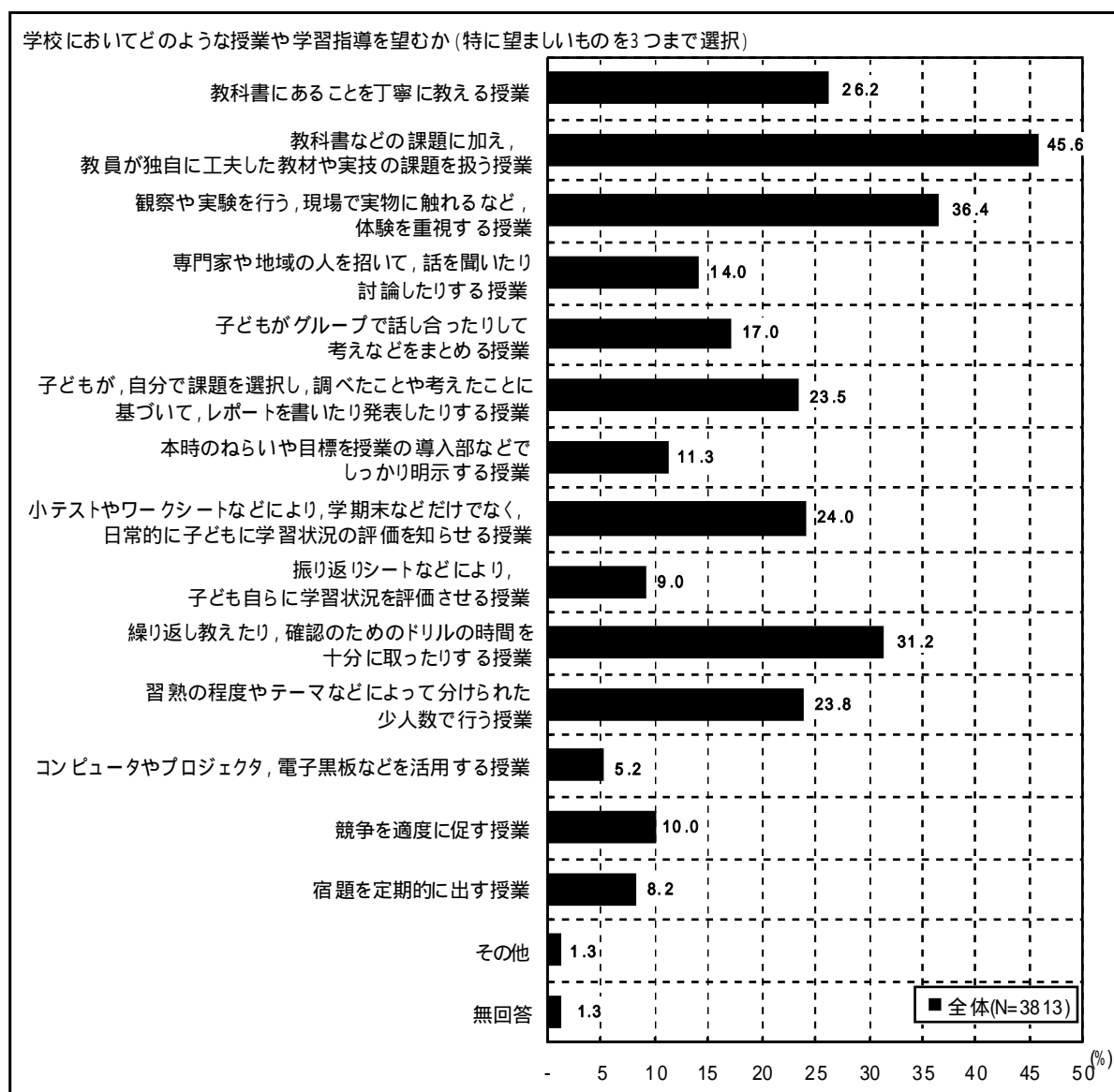


学校での学習指導や学習評価に対する説明状況や保護者としての考え等

- 1 . 学校での授業や学習指導に対する要望

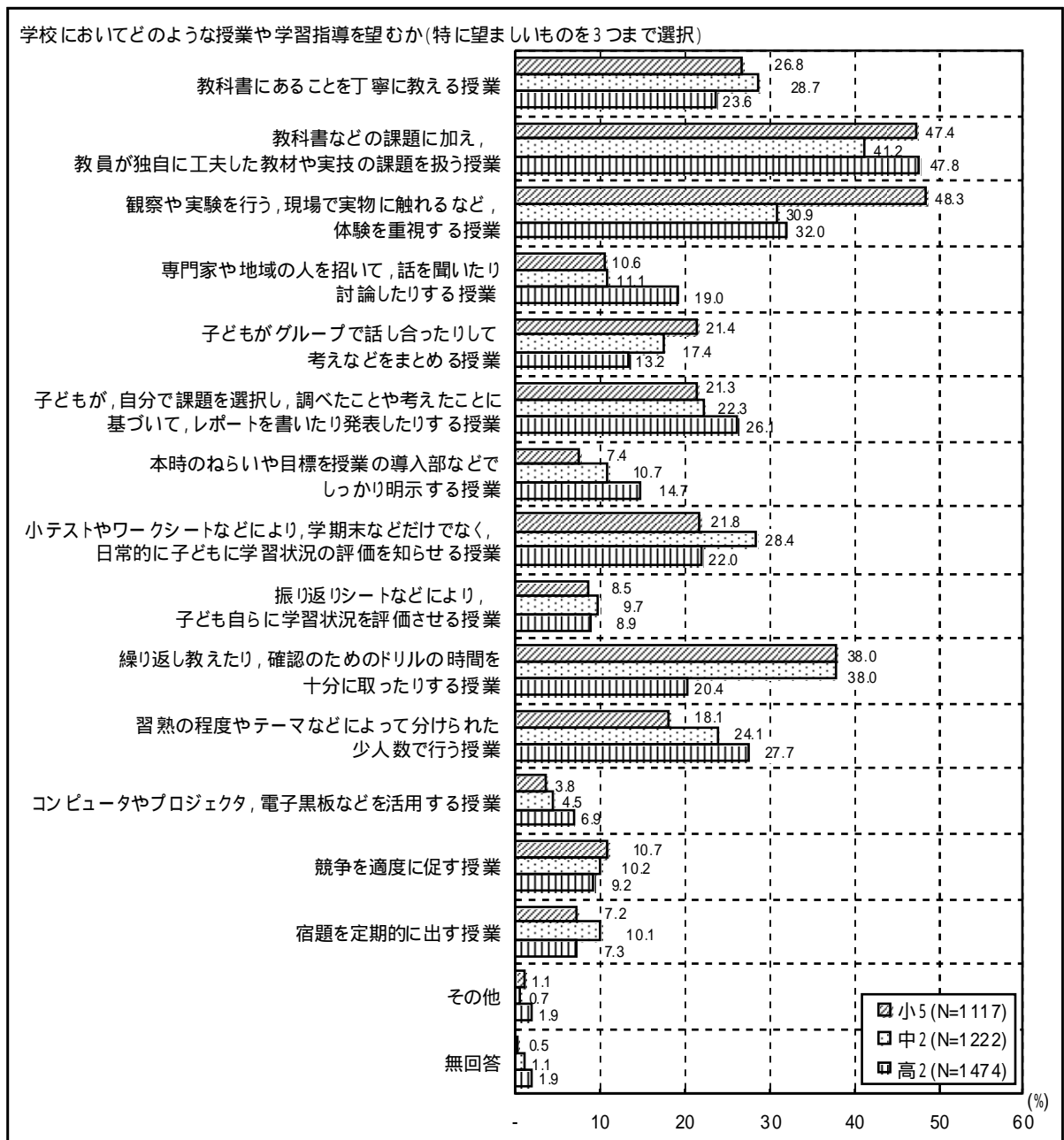
全体

- ❖保護者が学校に対し、どのような授業や学習指導を望んでいるかをみると、全体では「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」が45.6%と最も多くの保護者から望まれていることがわかる。
- ❖このほか、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」(36.4%)や「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」(31.2%)についても3割以上と比較的多くの保護者から望まれている。



学校段階別

- ❖ 保護者が学校にどのような授業や学習指導を望んでいるかについて、学校段階別にみると、小5・中2・高2の保護者のいずれも「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」を望む声が最も高くなっている。
- ❖ その他の項目をみると、特に小5の保護者では「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」を望む声も48.3%と半数近くから挙げられている。また、「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」についても、小5及び中2の保護者ではともに38.0%と4割近くから望まれており、比較的高い割合となっている。
- ❖ これに対し、「子どもが、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業」や「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」、「習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業」などについては、学校段階が進むにつれて高い割合となっている。

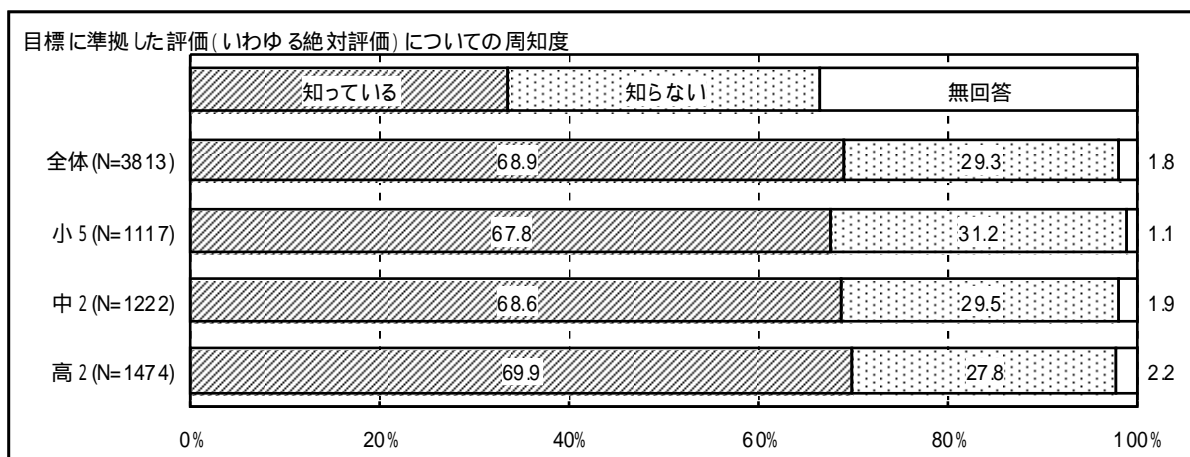


- 2 . 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）についての周知・説明状況及び保護者としての考え

(1) 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）についての周知度

全体及び学校段階別

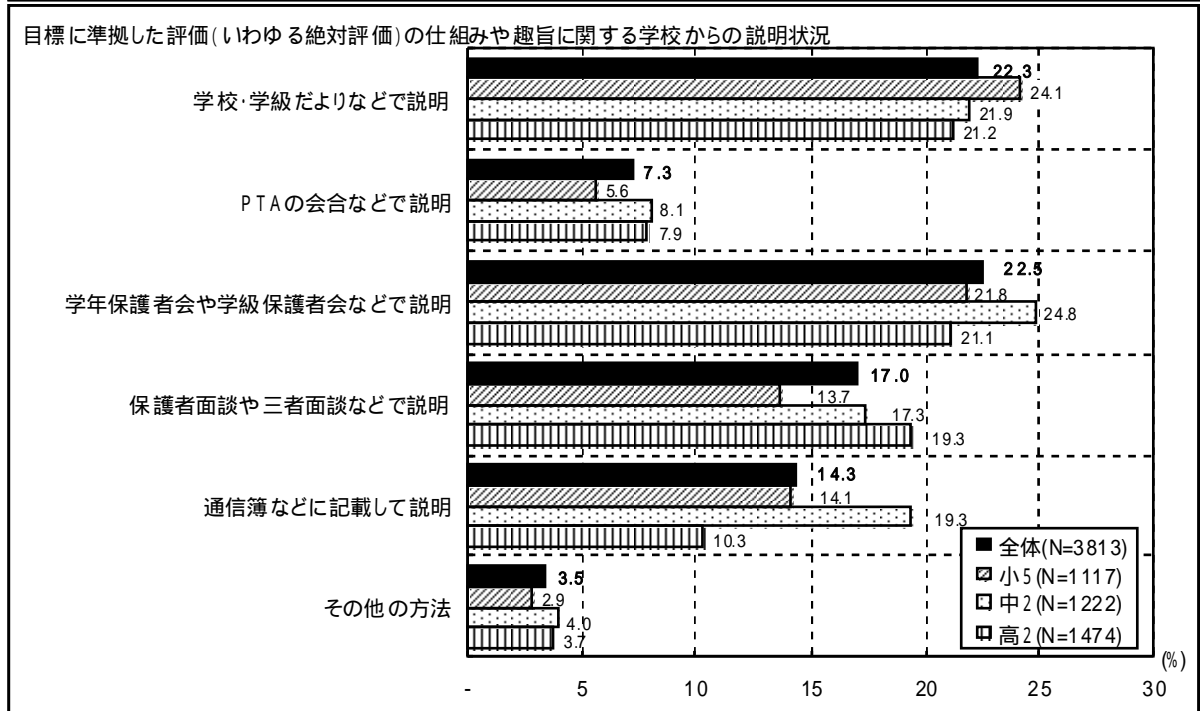
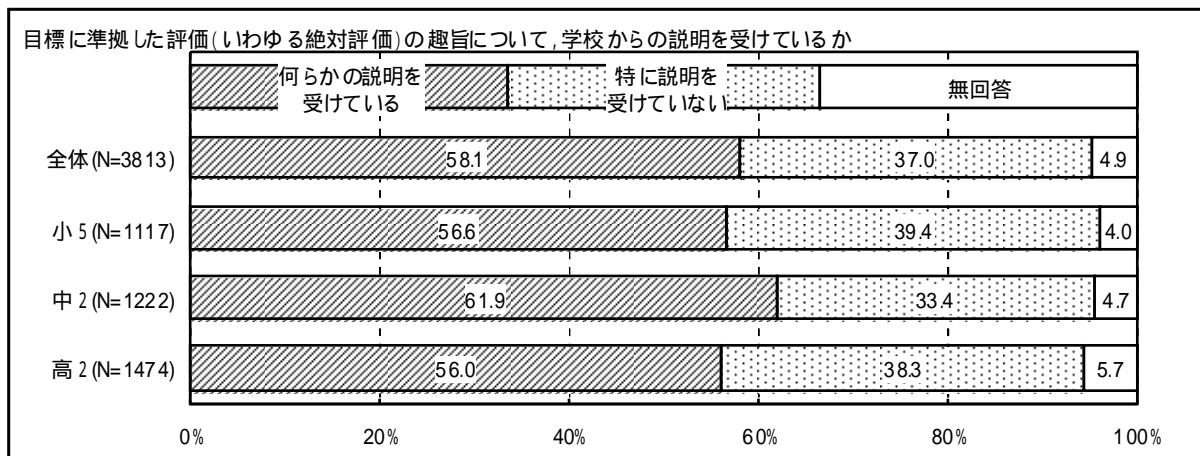
❖ 現在、学校では、学級や学年など集団の中での子どもの成績の順位（相対評価）ではなく、ある課題ができたかできないかなど、一人一人の子どもの達成度（目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価））を評価している。このことについての保護者の周知度をみると、全体では約7割の保護者が「知っている」とし、「知らない」は約3割となっている。



(2) 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨に関する学校からの説明状況

全体及び学校段階別

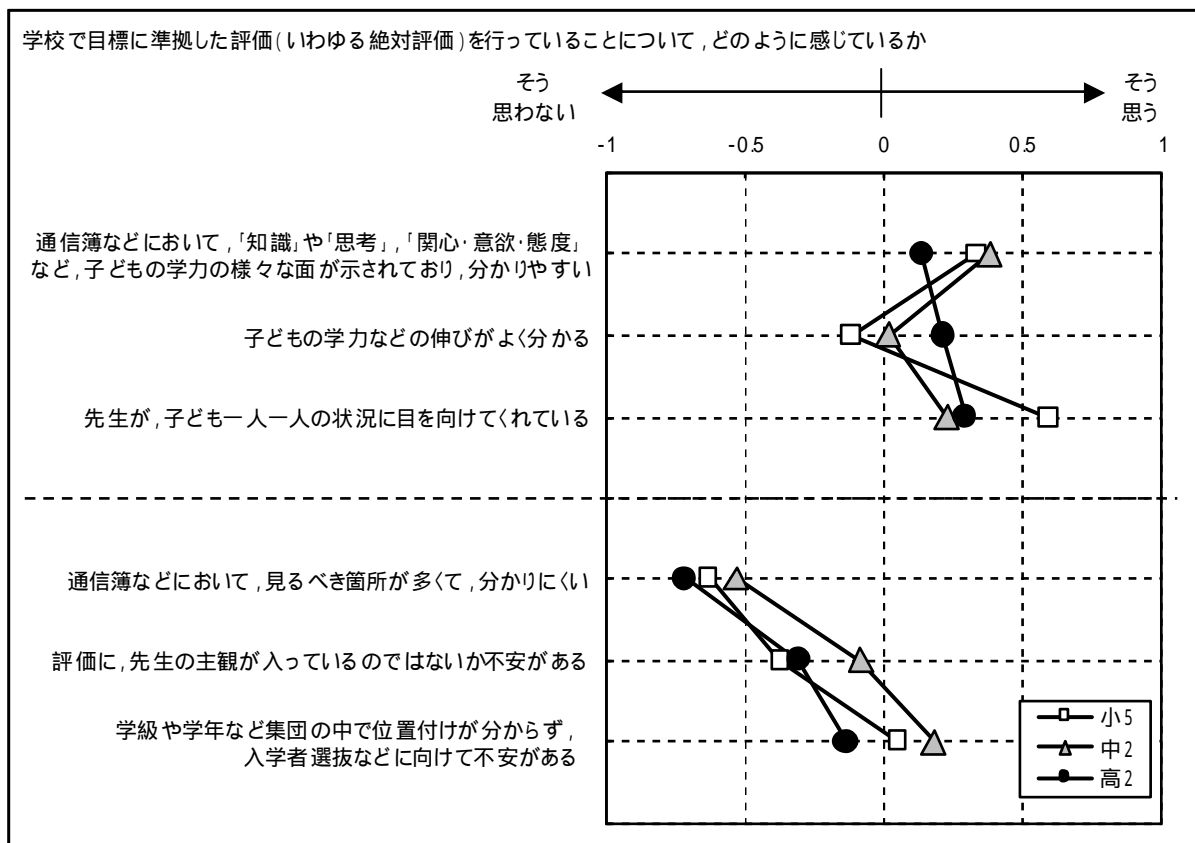
- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨などについて、学校から説明を受けているかをみると、全体では約6割の保護者が目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨について何らかの説明を受けている。
- ❖ 学校段階別にみると、特に中2の保護者で何らかの説明を受けている人の割合が61.9%と高い。
- ❖ 具体的にどのような説明を受けているかをみると、全体では「学校・学級だよりなどで説明」と「学年保護者会や学級保護者会などで説明」が20%以上と高い割合となっており、特に「学校・学級だよりなどで説明」は小5の保護者で、「学年保護者会や学級保護者会などで説明」は中2の保護者でそれぞれ最も高い割合となっている。
- ❖ 一方、高2の保護者では、上記のほか、「保護者面談や三者面談などで説明」(19.3%)も比較的高い割合となっている。



(3) 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての考え

学校段階別(評点化による比較分析)

- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)について保護者がどのように感じているかをみると、「通信簿などにおいて、「知識」や「思考」、「関心・意欲・態度」など、子どもの学力の様々な面が示されており、分かりやすい」及び「先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている」については、小5・中2・高2のいずれの保護者でもプラス値(そのように実感している保護者が多い)となっている。一方、「子どもの学力などの伸びがよく分かる」については、小5の保護者のみマイナス値(そのように実感している保護者が少ない)となっている。
- ❖ また、否定的項目についてみると、「通信簿などにおいて、見るべき箇所が多くて、分かりにくい」や「評価に、先生の主観が入っているのではないか不安がある」については、小5・中2・高2のいずれの保護者もマイナス値(そのように実感している保護者が少ない)となっているが、「学級や学年など集団の中で位置付けが分からず、入学者選抜などに向けて不安がある」については、小5・中2の保護者でプラス値(そのように実感している保護者が多い)となっており、特に中2の保護者で最も評点が高くなっている。



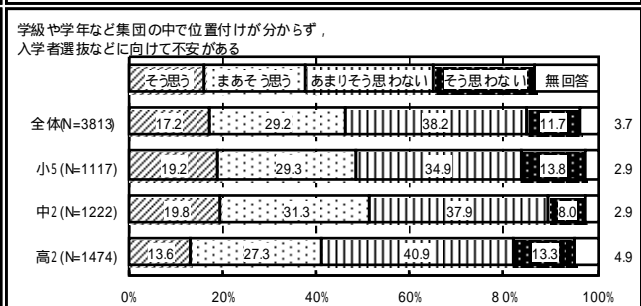
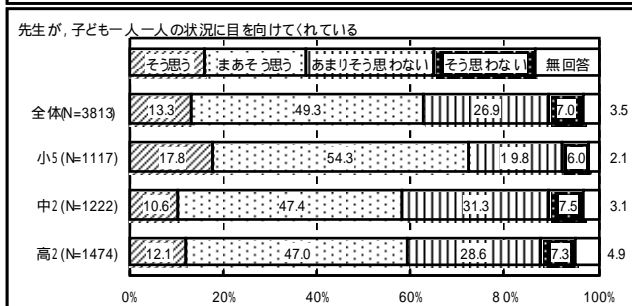
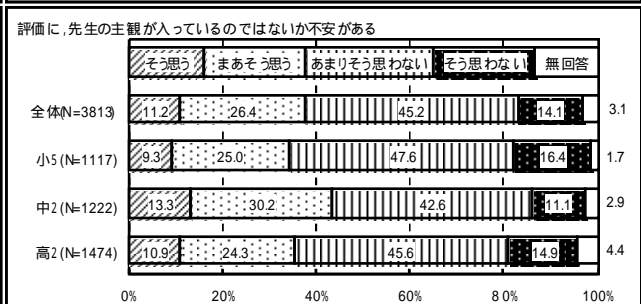
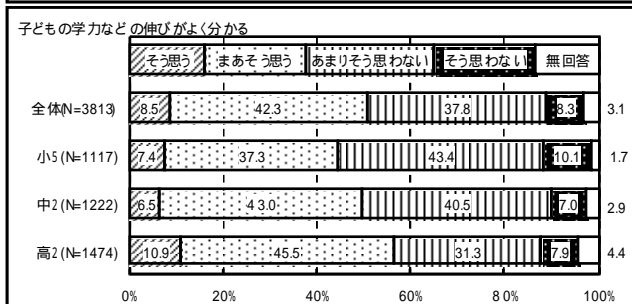
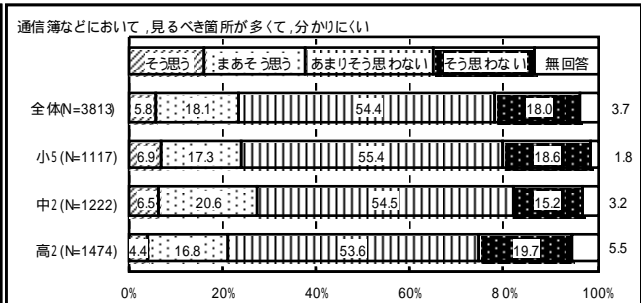
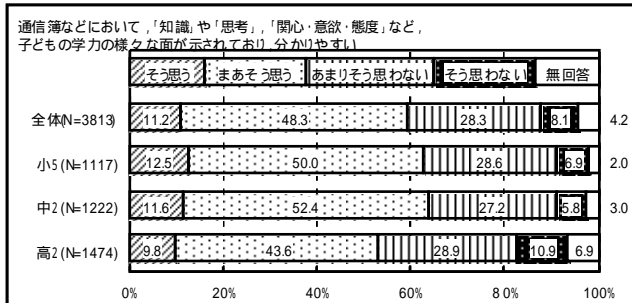
各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値(それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均)を算出した。

学校段階別(各項目ごとの回答分布による比較分析)

- ❖ 学校段階別に、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)についての考えを各項目ごとに詳しくみると、小5の保護者では、肯定的項目のうち特に「先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている」について2割近くが「そう思う」としており、「まあそう思う」と合わせると7割以上がそのように実感しているのに対して、「子どもの学力などの伸びがよく分かる」については、半数以上がそう思わない(「あまりそう思わない」+「そう思わない」としている)。
- ❖ 中2の保護者についてみると、特に否定的項目のうち、「評価に、先生の主観が入っているのではないかな不安がある」と「学級や学年など集団の中で位置付けが分からず、入学者選抜などに向けて不安がある」については、そう思う(「そう思う」+「まあそう思う」とする割合が小5・高2に比べて高くなっている)。
- ❖ 高2の保護者をみると、「子どもの学力などの伸びがよく分かる」については、小5・中2に比べてそう思う(「そう思う」+「まあそう思う」とする割合が高く、50%を超えている)。

(肯定的項目)

(否定的項目)

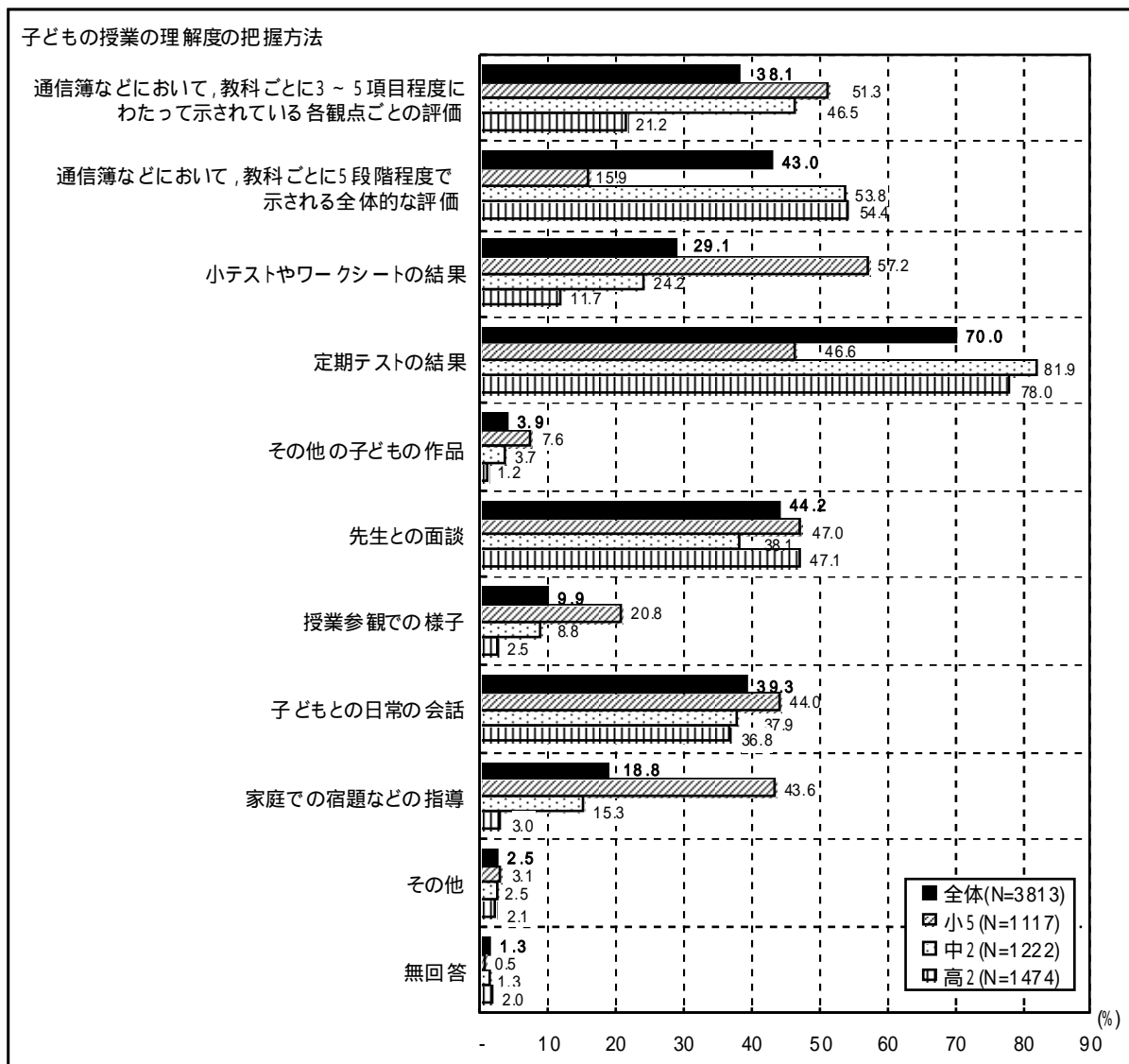


- 3 . 子どもの授業の理解度や集団の中の相対的な位置付けに係る学校からの説明状況

(1) 子どもの授業の理解度の把握方法

全体及び学校段階別

- ❖ 子どもの授業の理解の程度について、保護者が何を通して把握しているかをみると、全体では「定期テストの結果」が70.0%と最も高い割合となっている。このほか、「先生との面談」(44.2%)や「通信簿などにおいて、教科ごとに5段階程度で示される全体的な評価」(43.0%)についても、4割以上の保護者から挙げられている。
- ❖ 学校段階別にみると、小5の保護者では、「小テストやワークシートの結果」(57.2%)や「通信簿などにおいて、教科ごとに3～5項目程度にわたって示されている各観点ごとの評価」(51.3%)が半数以上の保護者から挙げられているほか、「家庭での宿題などの指導」(43.6%)についても中2・高2の保護者と比べて高い割合となっている。
- ❖ 一方、中2及び高2の保護者をみると、「定期テストの結果」がそれぞれ81.9%、78.0%と最も高くなっており、「通信簿などにおいて、教科ごとに5段階程度で示される全体的な評価」についても50%以上(それぞれ53.8%、54.4%)と半数以上の保護者から挙げられている。



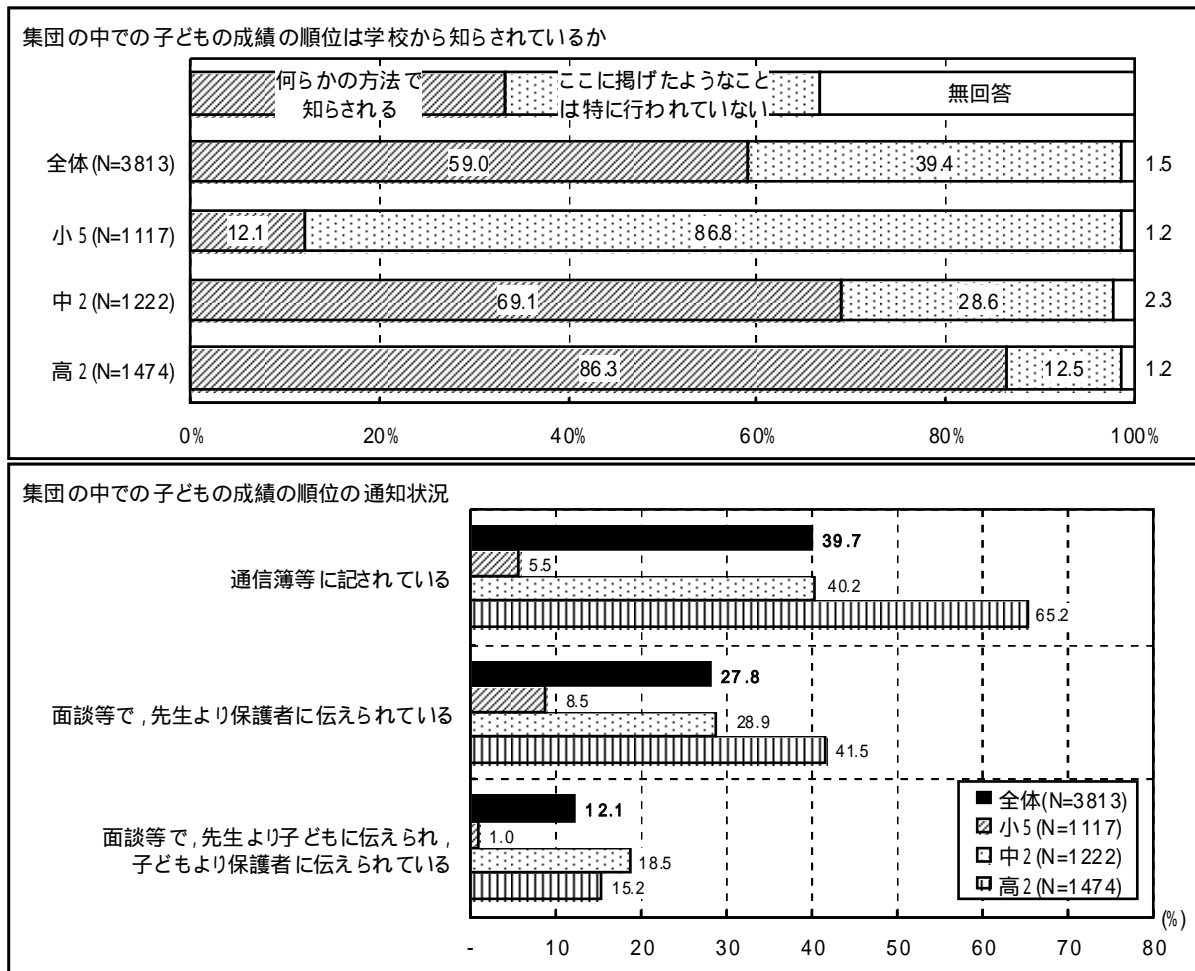
「通信簿などにおいて、教科ごとに3～5項目程度にわたって示されている各観点ごとの評価」は、高校では示されていないことも多い。

「通信簿などにおいて、教科ごとに5段階程度で示される全体的な評価」は、小学校では示されていないことも多い。

(2) 集団の中での子どもの成績の順位に関する学校からの通知状況

全体及び学校段階別

- ❖ 学級や学年など集団の中での子どもの成績の順位について学校から知らされているかをみると、全体では約6割が何らかの方法で知らされているとしている。ただし、学校段階別にみると、中2・高2の保護者は7～8割が何らかの方法で知らされているとしているのに対して、小5の保護者では86.8%が「ここに掲げられたようなことは特に行われていない」としている。
- ❖ 集団の中での子どもの成績の順位についての具体的な通知状況をみると、全体では「通信簿等に記されている」が39.7%と最も高く、次いで「面談等で、先生より保護者に伝えられている」(27.8%)が高い割合となっている。
- ❖ 学校段階別にみると、小5の保護者と中2・高2の保護者との間で大きな相違がみられ、特に「通信簿等に記されている」については高2の保護者で65.2%と高くなっており、中2の保護者でも40.2%であるが、小5の保護者では5.5%である。
- ❖ その他の通知方法についてみても同様の傾向がみられる。



目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する考えや学校からの説明状況に関する過去調査との比較

ここでは、「学校教育に関する意識調査」（以下「平成15年度調査」という。）における保護者調査の結果の中から、本調査と比較できる設問を抽出し、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する保護者の考えの変化や、学校からの説明状況の変化等を分析した。

平成15年度調査では、小・中・高校の各児童生徒の保護者を対象に調査を実施しているが、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）へと評価の仕方が変わったことに関する設問は小・中学生の保護者のみを対象としており、高校生の保護者に対する設問には含まれていない。このため、本調査データについても、高2の保護者の回答は除き、小5及び中2の保護者の回答のみから全体の割合等を再計算して比較を行った。

- 1. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する保護者の考えの変化

平成14年度から全国の小・中学校で平成10年改訂の新学習指導要領が全面的に実施されており、評価方法についても、学級や学年など集団の中での子どもの成績の順位（相対評価）ではなく、ある課題ができたか・できないかなど、一人一人の子どもの達成度（目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価））を評価する方法へと改められた。これを受け、平成15年度調査では、小・中学生の保護者に対して意識調査を実施し、評価方法が変わったことについての認知や感想等を把握している。

ここでは、平成15年度調査の項目の中から本調査と比較できる項目を抽出し（図表2-3参照）、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入直後と7年余りが経過した現在との間で、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に対する保護者の考えにどのような変化がみられるかを分析した。

図表2-3 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する保護者の考えの比較項目

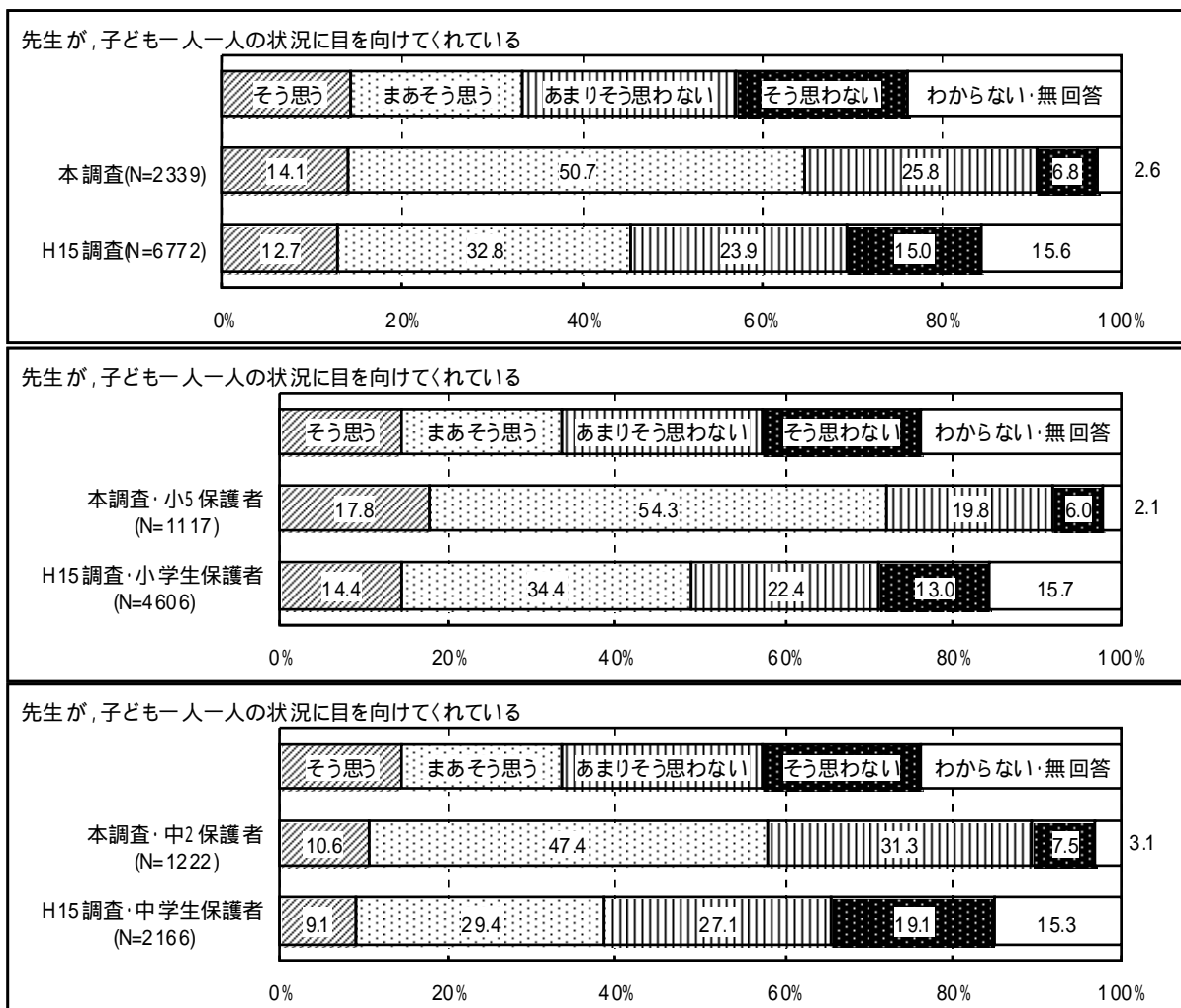
平成15年度調査における項目	本調査における項目
	通信簿などにおいて、「知識」や「思考」、「関心・意欲・態度」など、子どもの学力の様々な面が示されており、わかりやすい
クラスの順位ではなく、子どもの学習の状況をしっかりと評価できて良さそう	子どもの学力などの伸びがよくわかる
先生が子ども一人一人の勉強をよく見てくれそうで良い	先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている
子どもが授業のどこがわからないのかがよく分かって良さそう	通信簿などにおいて、見るべき箇所が多くて、分かりにくい
クラスの順位で評定を付けていた時に比べ、先生の主観が入るのではないかと心配	評価に、先生の主観が入っているのではないかと不安がある
入試の時、他の学校より不利にならないか心配	学級や学年など集団の中で位置付けが分からず、入学選抜などに向けて不安がある

平成15年度調査では、各項目について「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」・「どちらかといえばそう思わない」・「そう思わない」・「わからない」の5つからあてはまるものを選択させているが、本調査では「わからない」は選択肢として設けられていないため、平成15年度調査の「わからない」の割合は無回答と合計して本調査と比較した。

「先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている(先生が子ども一人一人の勉強をよく見てくれそうで良い)」

全体及び学校段階別

- ❖平成 15 年度調査では、5 割近くの保護者が、評価の仕方が変わったことによって先生が子ども一人一人の勉強をよく見てくれそうで良い(「そう思う」+「まあそう思う」)としているが、「わからない・無回答」も 15.6%と多くなっている。
- ❖これに対して、本調査をみると、「先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている」と感じている保護者(「そう思う」+「まあそう思う」)は6 割を超えており、また、「そう思わない」の割合も平成 15 年度調査と比べて大きく減少している。
- ❖学校段階別に平成 15 年度調査と本調査の結果を比較すると、小学生の保護者では、「そう思う」「まあそう思う」の割合が本調査では 72.1%を占め、平成 15 年度調査と比べて約 23 ポイント高くなっている。
- ❖また、中学生の保護者では、「そう思う」「まあそう思う」の割合が 58.0%を占め、平成 15 年度調査と比べて約 20 ポイント高くなるとともに、平成 15 年度調査では 19.1%と 2 割近くを占めていた「そう思わない」の割合が、本調査では 7.5%と約 12 ポイント低くなっている。

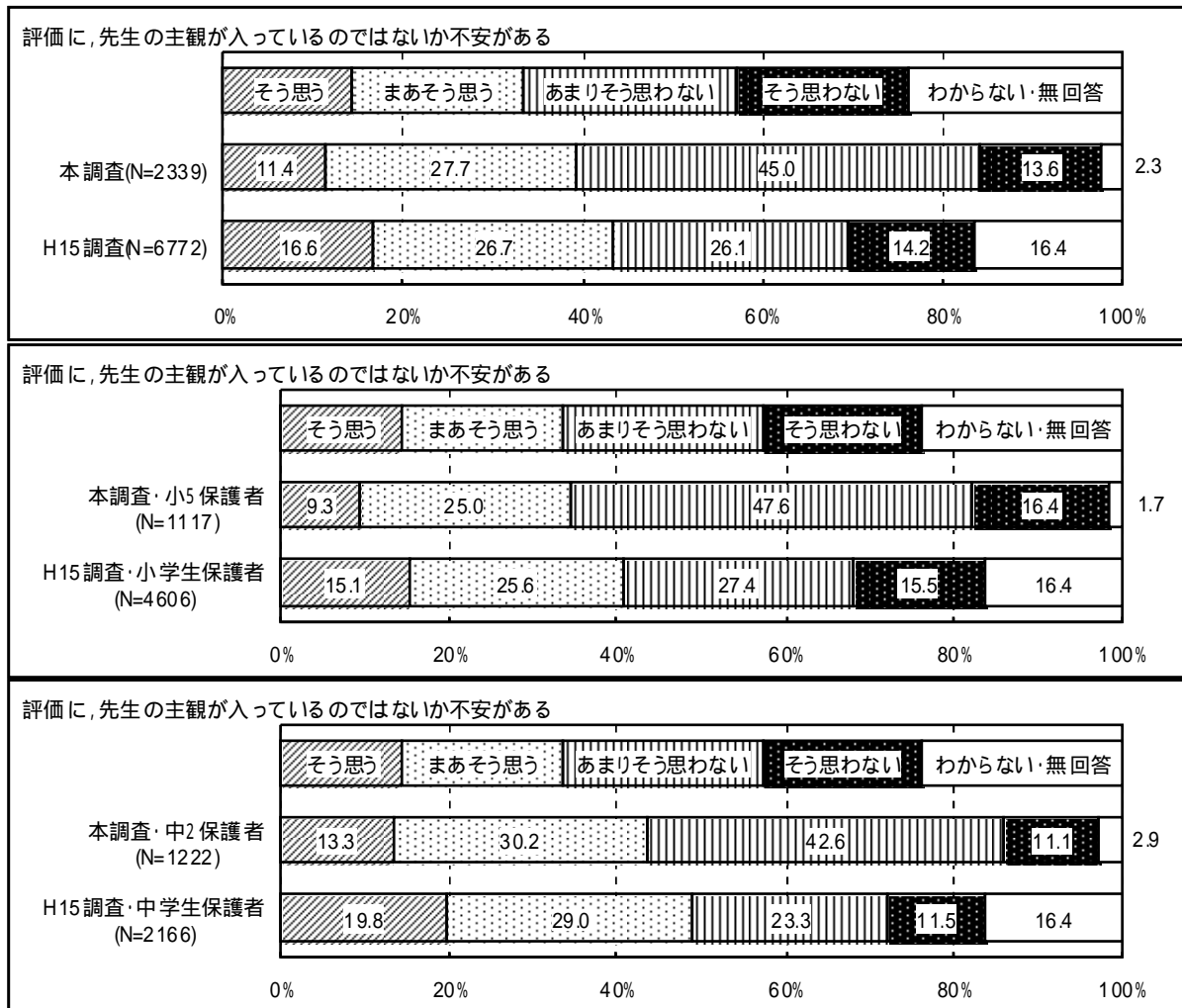


本調査のデータは、小5及び中2の保護者の回答のみから再計算したものである。

「評価に、先生の主観が入っているのではないかと不安がある(クラスの順位で評定を付けていた時に比べ、先生の主観が入るのではないかと心配)」

全体及び学校段階別

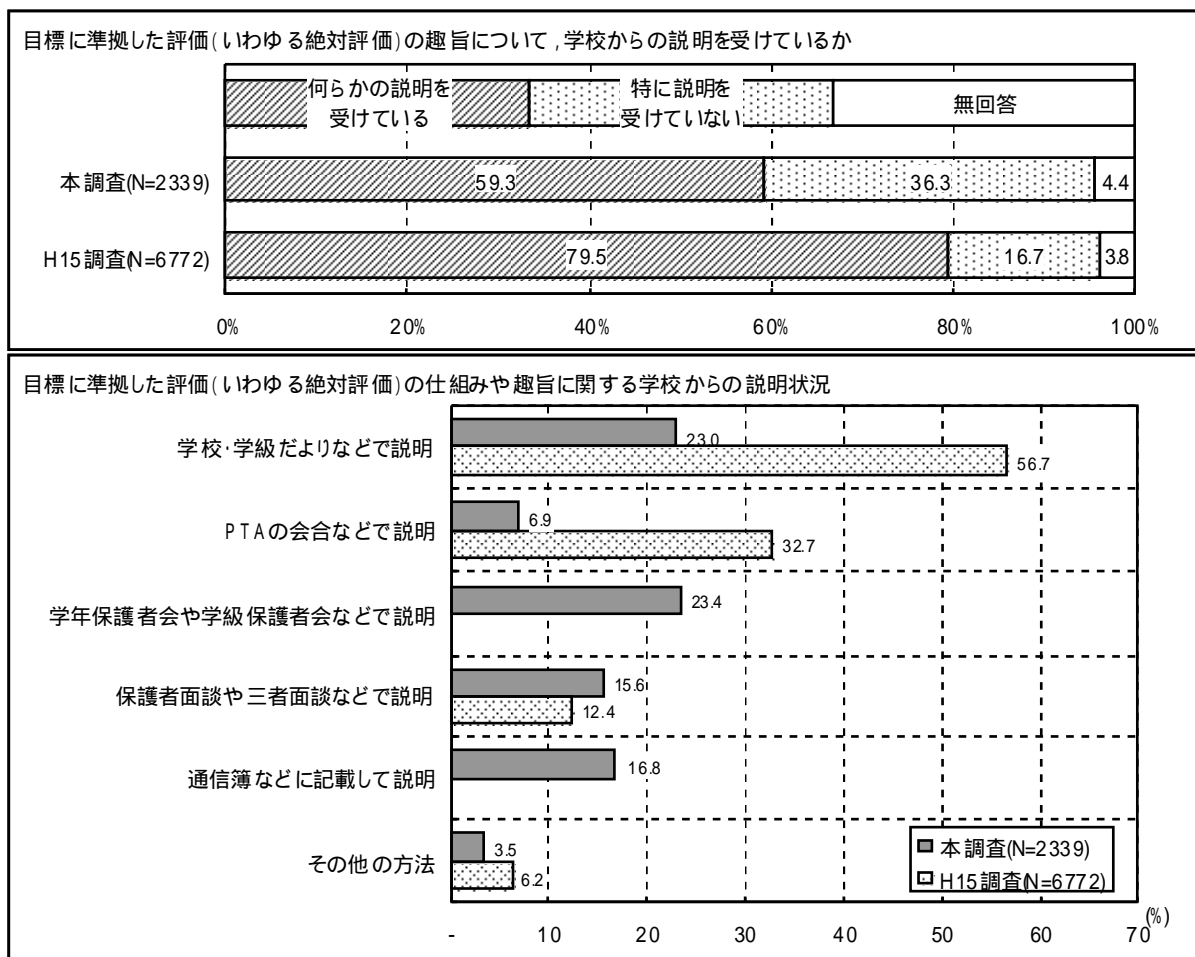
- ❖平成 15 年度調査では、評価に先生の主観が入るのではないかと心配、という声は 43.3% (「そう思う」+「まあそう思う」と、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計(40.3%)よりも高い割合を占めているが、「わからない・無回答」も 16.4%みられる。
- ❖これに対して、本調査をみると、「評価に、先生の主観が入っているのではないかと不安がある」と感じている保護者(「そう思う」+「まあそう思う」)は 39.1%と 4 割を下回り、逆にそう思わない(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)という保護者が 6 割近くに上っており、平成 15 年度調査と逆転した結果がみられている。
- ❖学校段階別に平成 15 年度調査と本調査の結果を比較すると、小学生の保護者では、「あまりそう思わない」の割合が平成 15 年度調査の 27.4%から本調査では 47.6%と約 20 ポイント拡大している。
- ❖また、中学生の保護者でも、小学生の保護者と同様、「あまりそう思わない」の割合が大きく拡大している。



本調査のデータは、小5及び中2の保護者の回答のみから再計算したものである。

- 2 . 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の趣旨等に関する学校からの説明状況の変化

- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の仕組みや趣旨に関する学校からの説明状況について、平成15年度調査と本調査とを比較すると、評定における目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)導入から1年しか経っていなかった平成15年度調査では、何らかの説明を受けているとする保護者の割合は8割近くにのぼっているが、本調査では59.3%と20ポイント近く低下しており、逆に本調査では「特に説明を受けていない」という保護者の割合が36.3%と、平成15年度調査(16.7%)の2倍以上になっている。
- ❖ 具体的な説明方法をみると、平成15年度調査では「学校・学級だよりなどで説明」(56.7%)を受けているケースが多いほか、「PTAの会合などで説明」(32.7%)を受けているケースも比較的みられる。
- ❖ これに対し本調査では、「学年保護者会や学級保護者会などで説明」(23.4%)を受けているケースが最も多くなっているほか、「学校・学級だよりなどで説明」(23.0%)や「通信簿などに記載して説明」(16.8%)なども多くみられる。



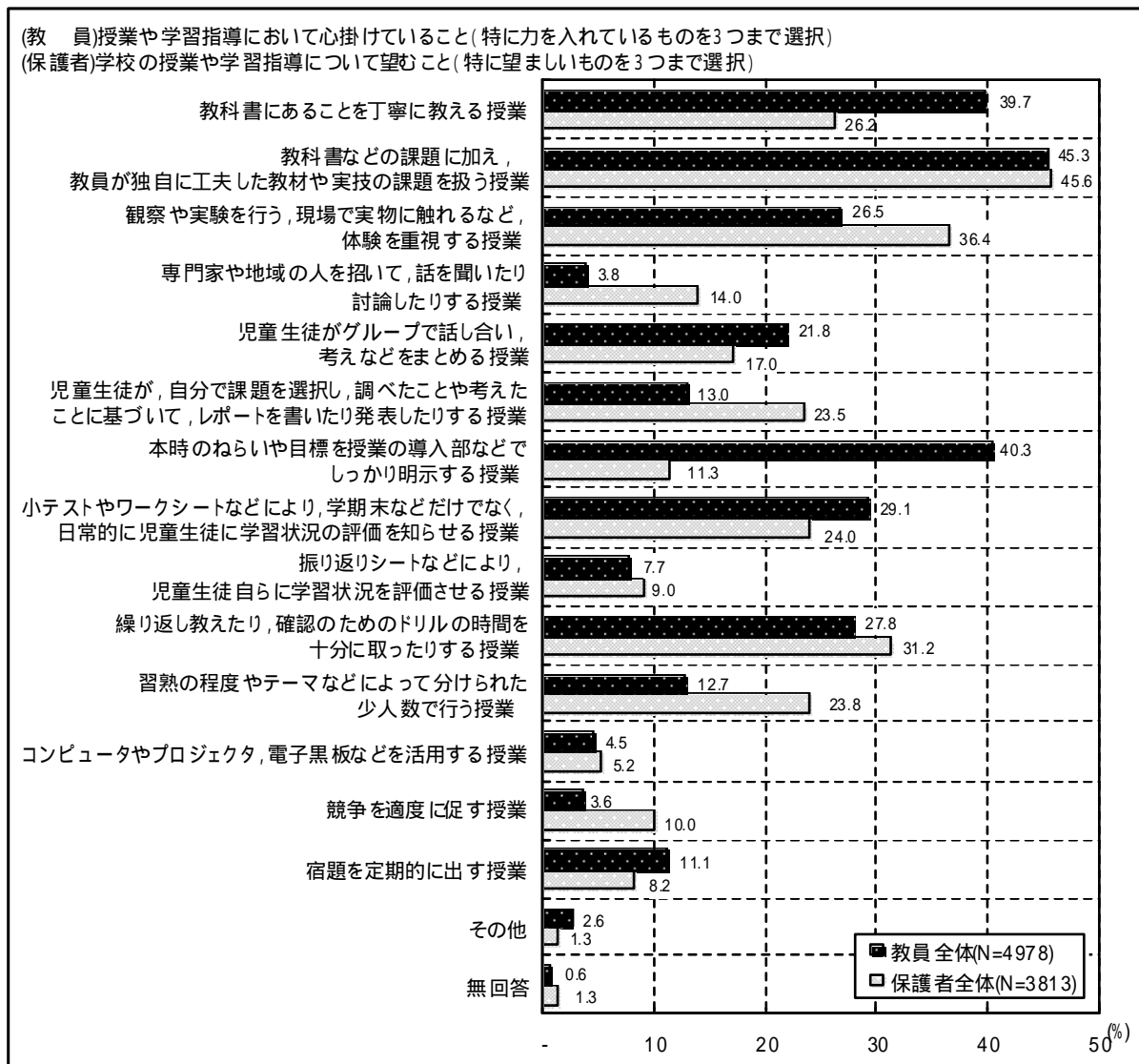
本調査のデータは、小5及び中2の保護者の回答のみから再計算したものである。
 「学年保護者会や学級保護者会などで説明」及び「通信簿などに記載して説明」は、平成15年度調査では選択肢に含まれていないため本調査と比較できるデータがない。

第3章 学習指導と学習評価に関する教員と保護者の意識の比較

授業や学習指導に対する教員の意識と保護者の要望との比較

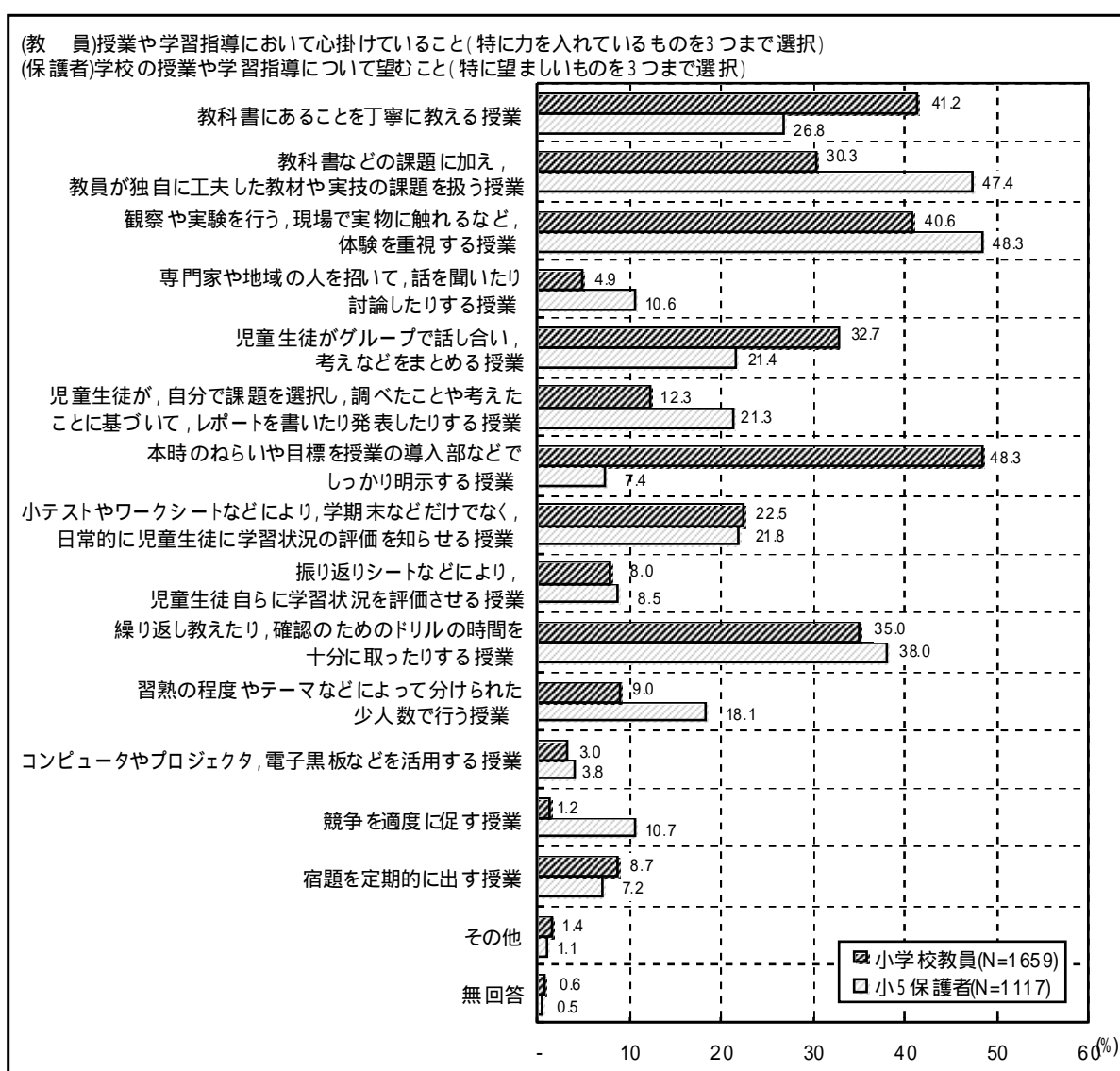
全体

- ❖ 教員が日ごろ授業や学習指導において心掛けていることとして挙げられた項目と、保護者が授業や学習指導に対し望んでいる項目を比較すると、全体では、「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」について、教員（45.3%）、保護者（45.6%）とも最も高い割合となっており、教員の意識と保護者の要望が一致している。
- ❖ 教員と保護者の意識の開きが大きい項目をみると、教員は「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」（40.3%）や「教科書にあることを丁寧に教える授業」（39.7%）を心掛けているという割合が、これらを望む保護者の割合よりも10ポイント以上高くなっている。一方、保護者では、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」（36.4%）や「習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業」（23.8%）、「児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業」（23.5%）を望む声が、これらを心掛けているとする教員の割合よりも高くなっている。



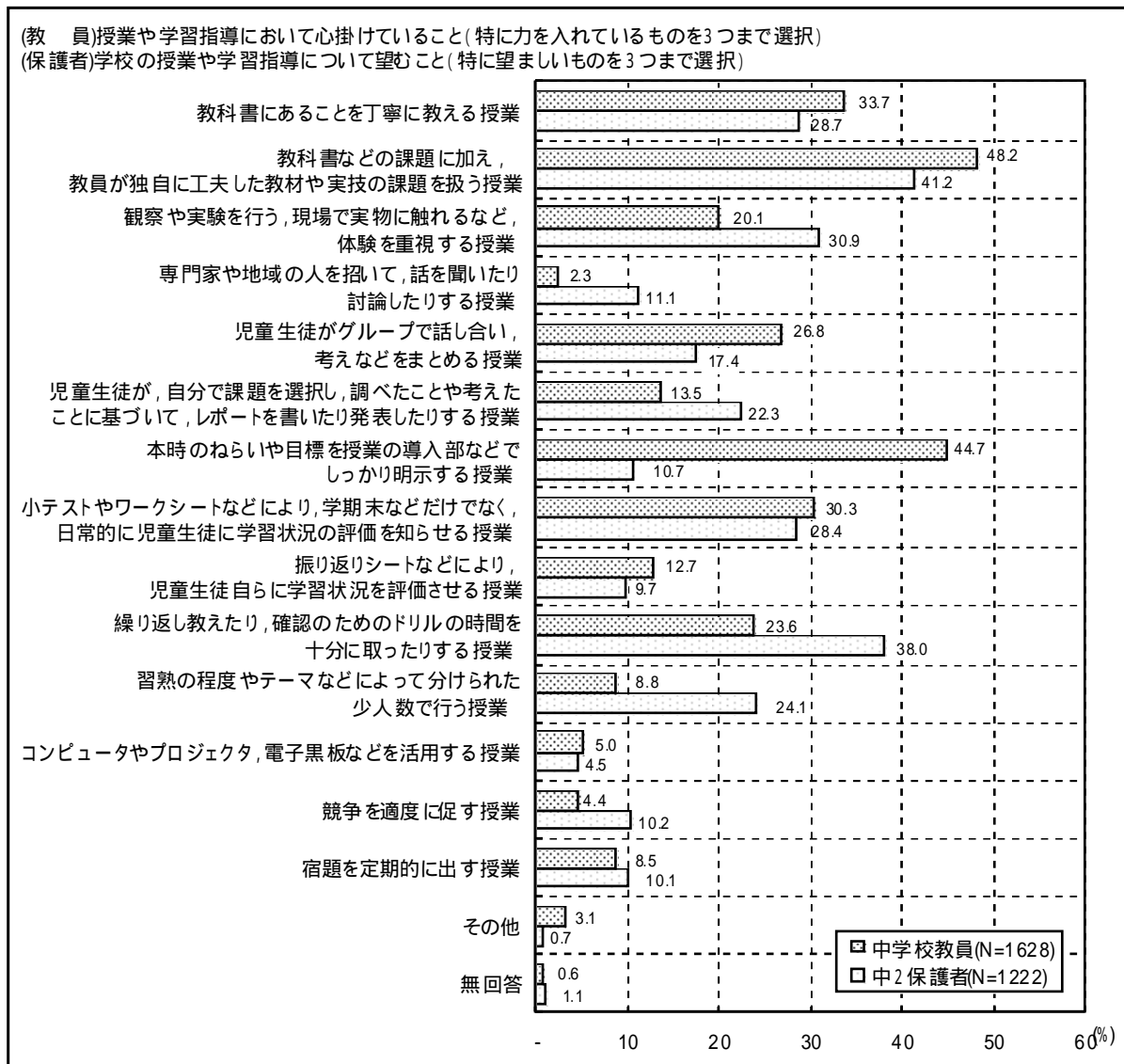
小学校教員と小5の保護者の比較

- ❖ 小学校において教員が授業や学習指導において心掛けていることと保護者が授業や学習指導に対して望んでいることとの間で開きが大きい項目をみると、小学校教員では「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」(48.3%)や「教科書にあることを丁寧に教える授業」(41.2%)、「児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業」(32.7%)を心掛けているという割合が、これらを望む保護者の割合よりも10ポイント以上高くなっている。
- ❖ 一方、小5の保護者の回答で上位に挙げられた項目の中では、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」(48.3%)や「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」(47.4%)、「児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業」(21.3%)などを望む声が、これらを心掛けているとする教員の割合よりも高くなっている。



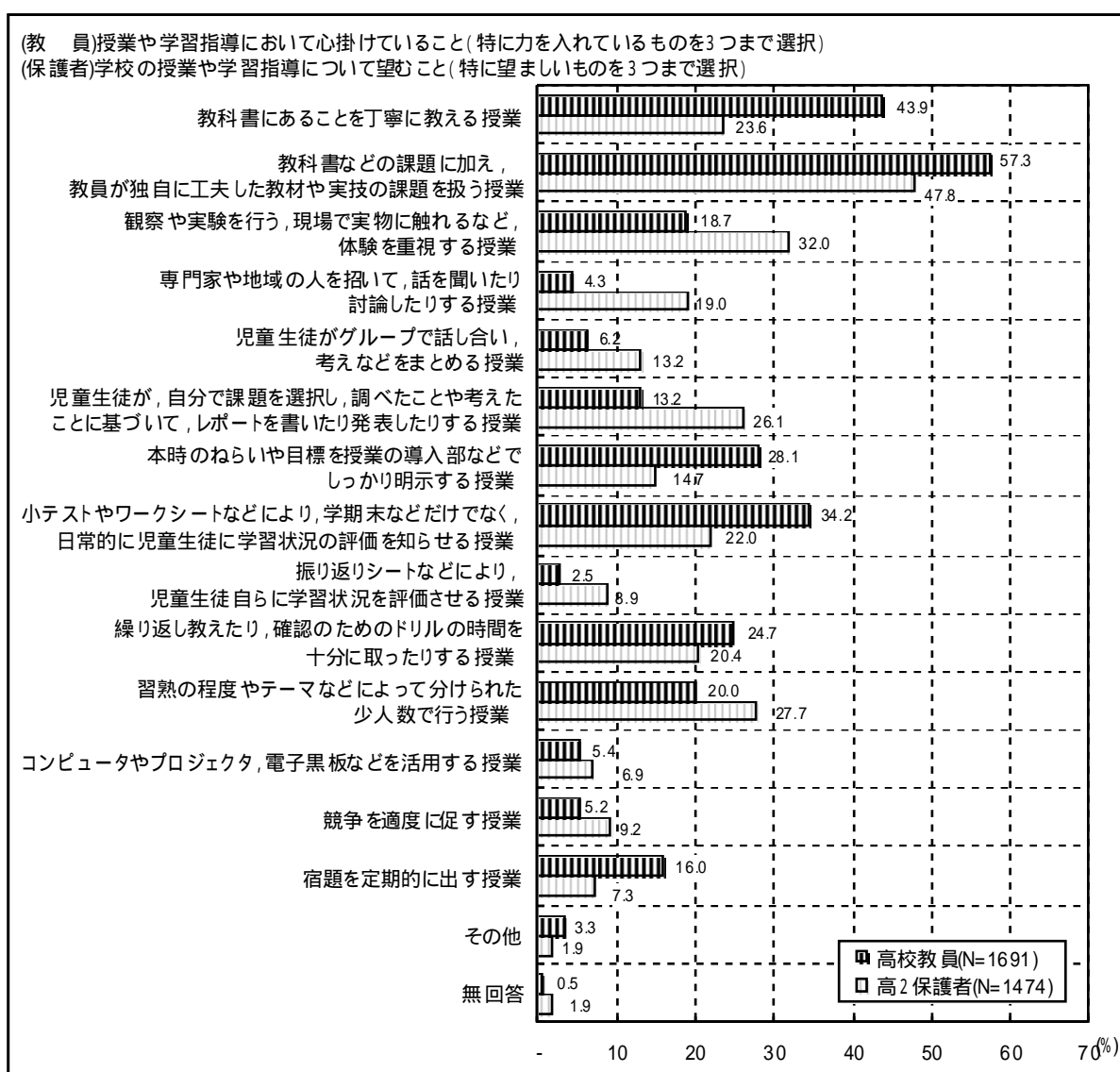
中学校教員と中2の保護者の比較

- ❖ 中学校において教員が授業や学習指導において心掛けていることと保護者が授業や学習指導に対して望んでいることとを比較すると、最も多くの中学校教員が心掛けているとしたのは「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」(48.2%)であり、これについては中2の保護者でも41.2%と最も多くから望まれている。
- ❖ その他の項目のうち、教員と保護者の意識の開きが大きい項目をみると、中学校教員では「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」(44.7%)や「児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業」(26.8%)などを心掛けている割合が比較的高く、これらを望む保護者の割合との開きが大きくなっている。
- ❖ これに対し、中2の保護者の回答で上位に挙げられた項目の中では、「繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業」(38.0%)や「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」(30.9%)、「習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業」(24.1%)を望む声が、これらを心掛けているとする教員の割合よりも10ポイント以上高くなっている。



高校教員と高2の保護者の比較

- ❖ 高校において教員が授業や学習指導において心掛けていることと保護者が授業や学習指導に対して望んでいることとを比較すると、最も多くの高校教員が心掛けているとしたのは「教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業」(57.3%)であり、これについては高2の保護者でも47.8%と最も多くから望まれている。
- ❖ その他の項目のうち、教員と保護者の意識の開きが大きい項目をみると、高校教員では「教科書にあることを丁寧に教える授業」(43.9%)や「小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業」(34.2%)、「本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業」(28.1%)などなどを心掛けている割合が比較的高く、これらを望む保護者の割合との開きが大きくなっている。
- ❖ 一方、高2の保護者の回答をみると、「観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業」(32.0%)や「児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業」(26.1%)、「専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業」(19.0%)を望む声が、これらを心掛けているとする教員の割合よりも10ポイント以上高くなっている。



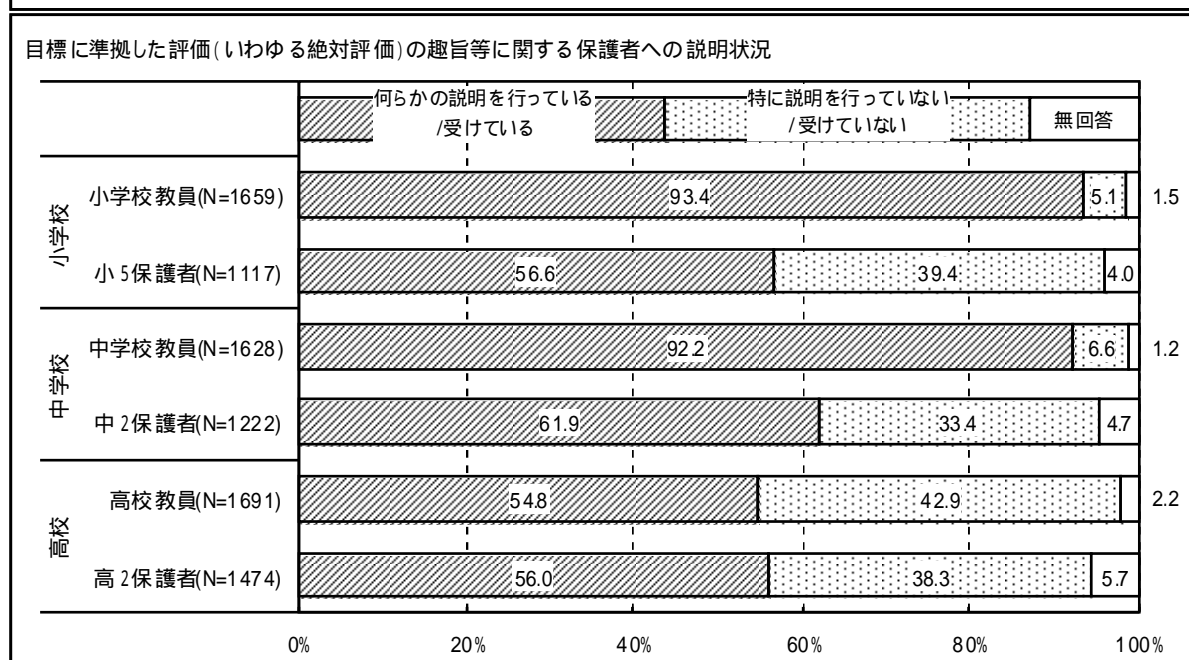
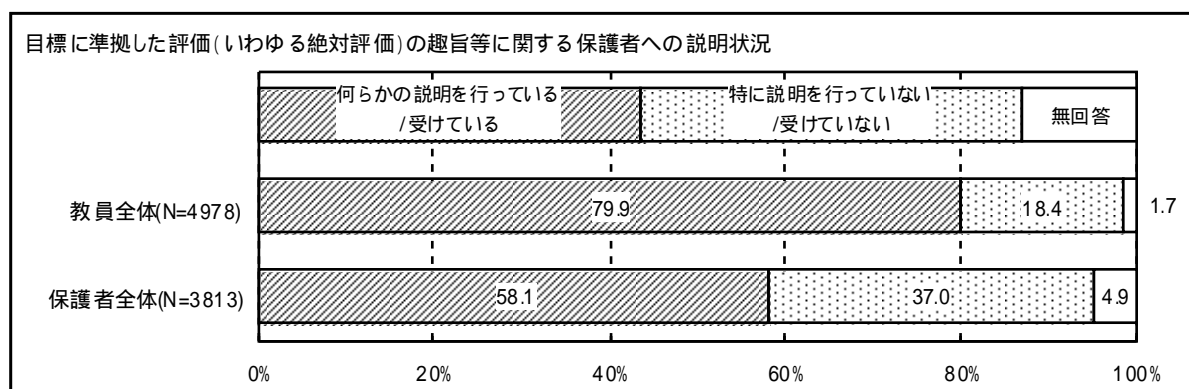
目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の趣旨等に関する保護者への説明状況の比較

(1) 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の趣旨等の説明に関する教員と保護者の意識の比較

目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の趣旨等に関する保護者への説明の有無

全体及び学校段階別

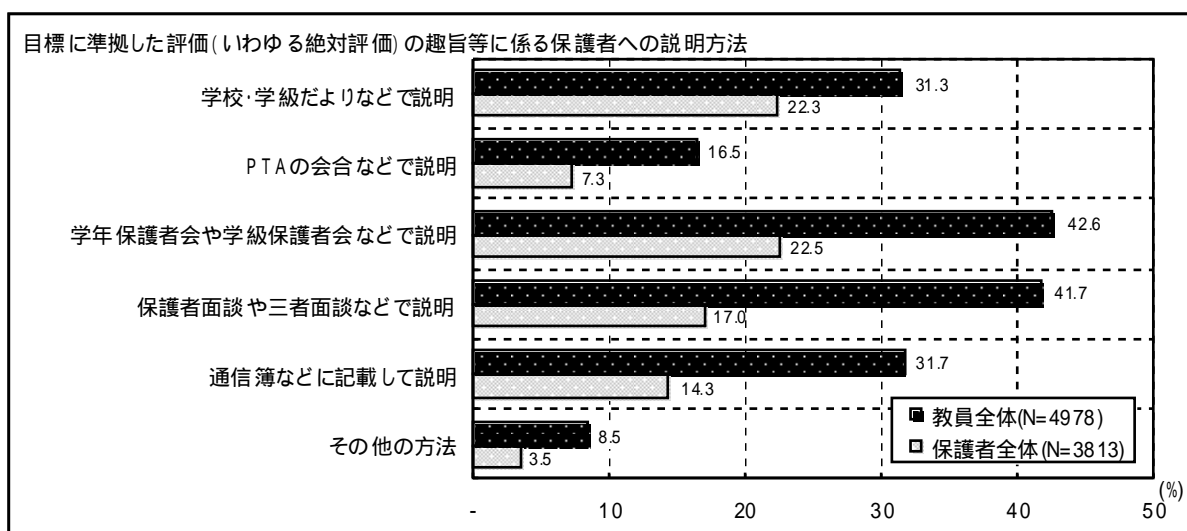
- ❖ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価などの趣旨に係る保護者への説明状況について、教員の回答と保護者の回答を比較すると、教員の約8割は何らかの説明を行っているとしているのに対して、説明を受けているとした保護者は6割に満たず、「特に説明を受けていない」という保護者が37.0%と4割近くにのぼるなど、差がみられる。
- ❖ 各学校段階別にみると、小学校では、9割以上の教員が何らかの説明を行っているとしているが、小5の保護者の約4割は「特に説明を受けていない」としている。
- ❖ 中学校でも小学校と同様の傾向がみられ、9割以上の教員が何らかの説明を行っているとしているが、中2の保護者の約3割は「特に説明を受けていない」としている。
- ❖ 高校では、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の趣旨等に係る保護者への説明状況について、教員と保護者の回答はほぼ一致している。



目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の趣旨等に関する保護者への具体的な説明方法

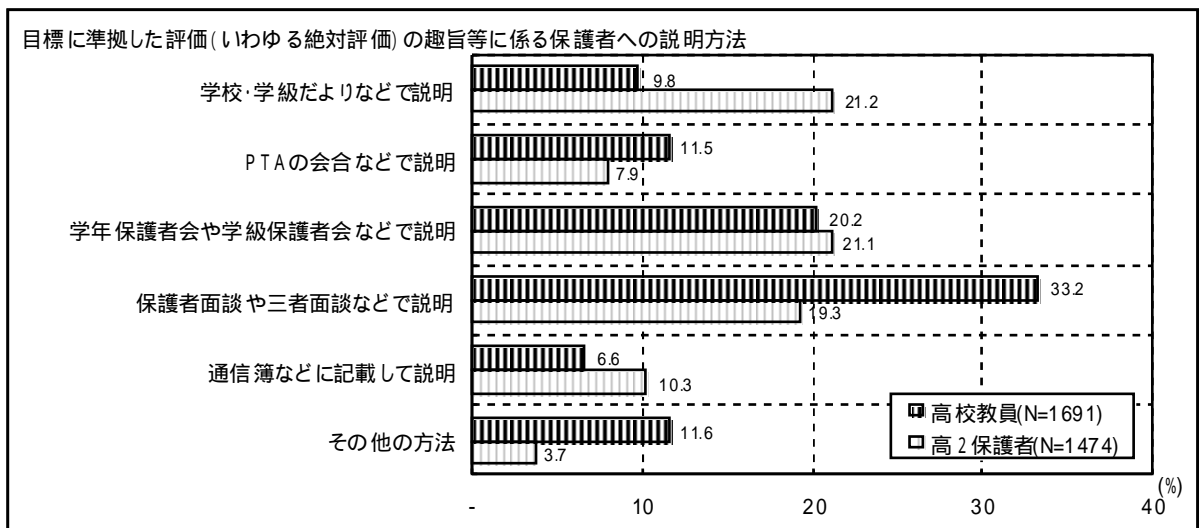
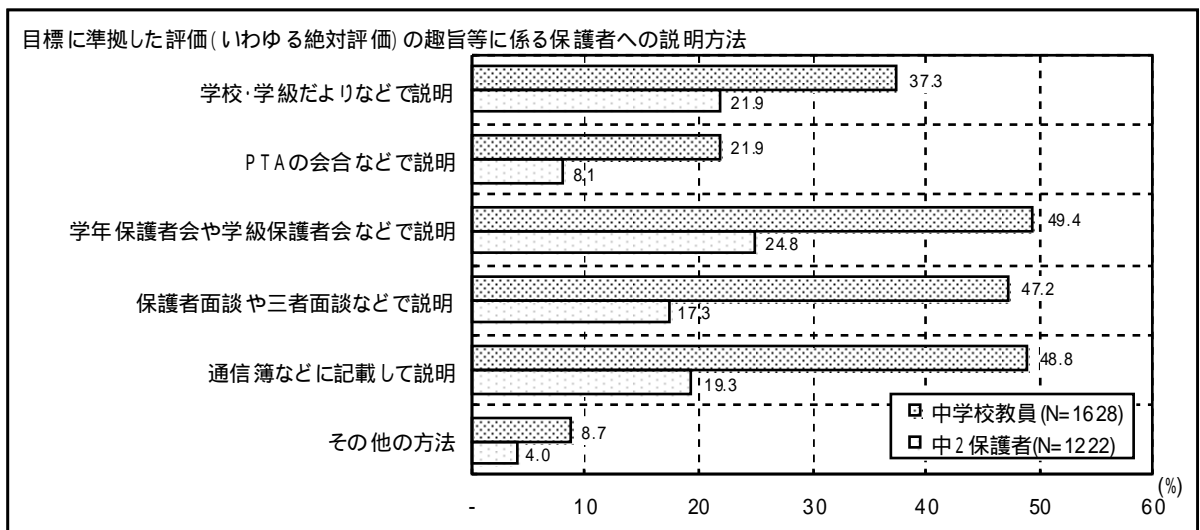
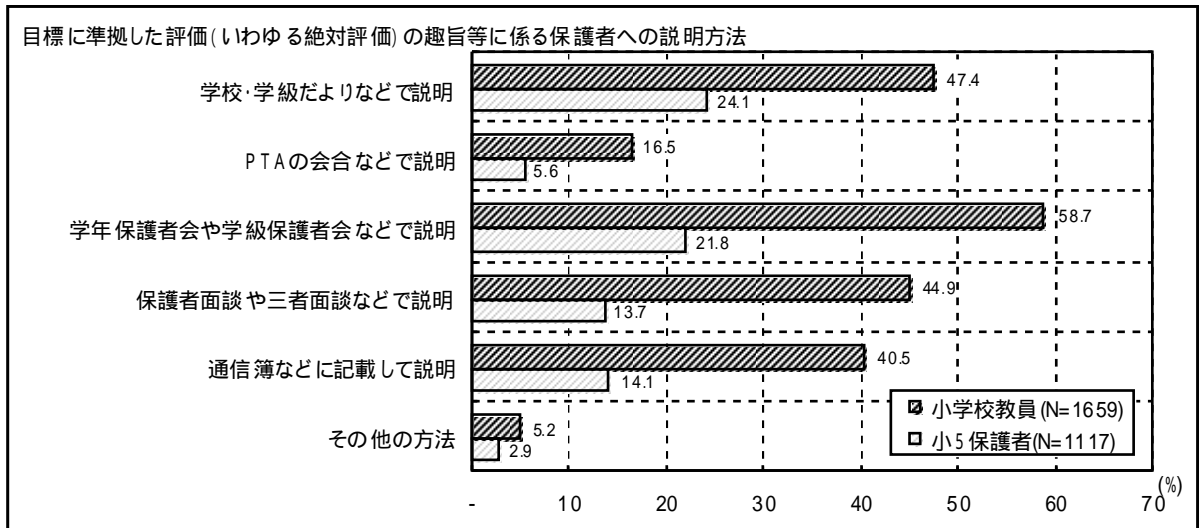
全体

- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の趣旨等に関する保護者への説明方法として教員が挙げた具体的方法と保護者の回答とを比較すると、いずれの説明方法も教員が行っているとしているほど保護者は説明を受けているとは実感していないことがわかる。
- ❖ 特に、4割以上の教員が行っているとしている「保護者面談や三者面談などで説明」については、保護者では説明を受けているとする割合は17.0%と低く、25ポイント近くの違いがみられる。



学校段階別

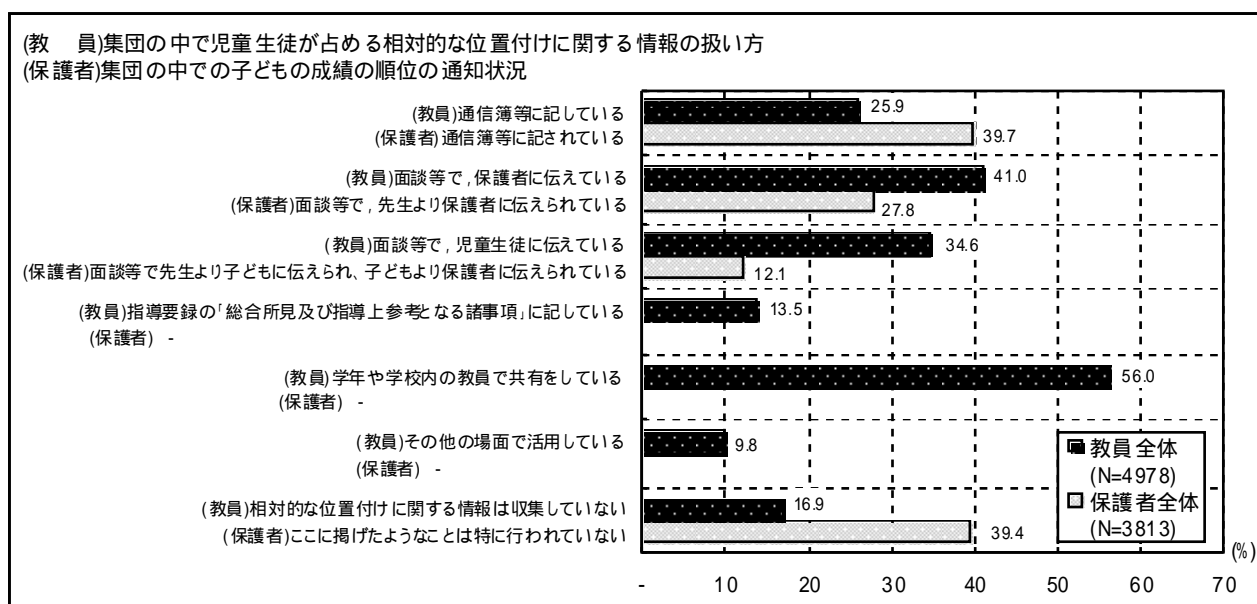
- ❖ 目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)の趣旨等に関する具体的な説明方法について小学校教員と小5の保護者の回答を比較すると、小学校教員の約6割は「学年保護者会や学級保護者会などで説明」していると回答しているものの、説明を受けたという保護者は約2割と、教員と保護者の見解に40ポイント近い開きが見られる。
- ❖ 中学校についてみると、具体的な説明方法のうち最も多くの教員が採っているのは「学年保護者会や学級保護者会などで説明」(49.4%)する方法であり、これは中2の保護者からも24.8%と最も多くから挙げられている。しかし、やはりいずれの方法についても、説明を受けているとする保護者と説明を行っているという教員との間で大きな差がみられている。
- ❖ 評価の趣旨等に係る保護者への説明状況に関し、教員と保護者との間で見解がほぼ一致した高校について、具体的に採られている説明方法を比較すると、高校教員は「保護者面談や三者面談などで説明」しているという割合が最も高いのに対し、高2の保護者からは保護者面談等よりは「学校・学級だよりなどで説明」(21.2%)、「学年保護者会や学級保護者会などで説明」(21.1%)の方がやや高い割合となっているという相違が見られる。



(2) 集団の中での児童生徒の相対的な位置付けに関する情報の伝達状況

全体

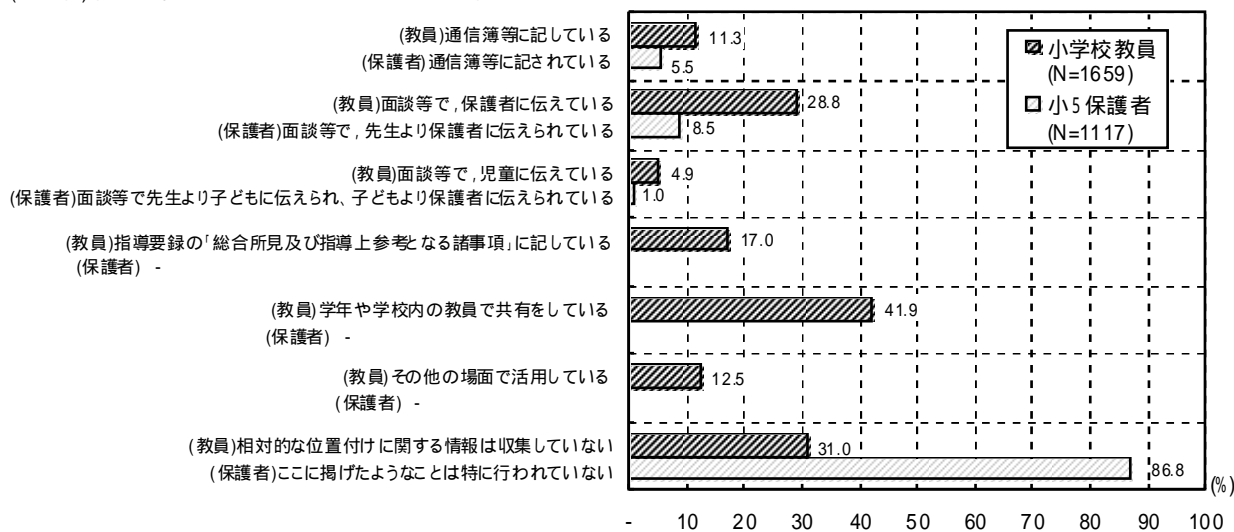
- ❖ 学級や学年など集団の中で児童生徒が占める相対的な位置付けに関する情報について、教員がどのように情報を収集・活用しているか、また保護者はそうした子どもの成績の順位などの情報をどのように学校から伝えられているか、両者の回答を比較した。
- ❖ その結果、8割以上の教員が相対的な位置付けに関する情報を収集・活用していると回答している一方、保護者の約4割は特に情報は伝えられていないとしている。
- ❖ 具体的な説明(通知)方法について比較すると、「面談等で、保護者に伝えている」という教員は41.0%みられるが、「面談等で、先生より保護者に伝えられている」という保護者は27.8%と、教員よりもやや低い割合となっている。また、「面談等で、児童生徒に伝えている」という教員は34.6%みられるが、「面談等で先生より子どもに伝えられ、子どもより保護者に伝えられている」という保護者は12.1%と低い。



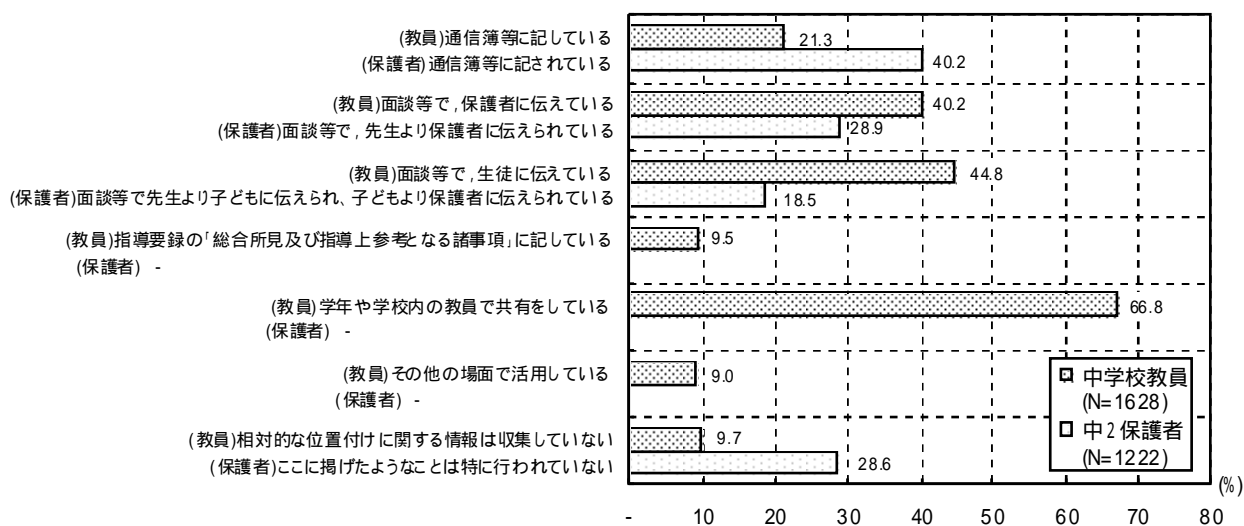
学校段階別

- ❖ 小学校についてみると、集団の中で児童が占める相対的な位置付けに関する情報を収集・活用している小学校教員は約7割であり、その多くは「学年や学校内の教員で共有をしている」など、保護者等への説明に用いるより学校内での活用が中心となっていることから、小5の保護者の回答でも9割近くが「ここに掲げられたようなことは特に行われていない」としている。なお、約3割の小学校教員が「面談等で、保護者に伝えている」としている一方、「面談等で、先生より保護者に伝えられている」という保護者は1割に満たない。
- ❖ 中学校でも小学校と同様、学校内での活用が多いため、「ここに掲げられたようなことは特に行われていない」とする保護者が約3割みられる。その他をみると、保護者や生徒への面談で伝えているとする中学校教員は4割以上と比較的多くみられるが、保護者の回答をみると、こうした面談による伝達よりも「通信簿等に記されている」方が高い割合となっている。
- ❖ 高校についても中学校と同様の傾向がみられ、特に「面談等で、生徒に伝えている」という高校教員が54.1%と半数以上であるのに対して、高2の保護者では「面談等で先生より子どもに伝えられ、子どもより保護者に伝えられている」のは15.2%と、大きな開きがみられている。

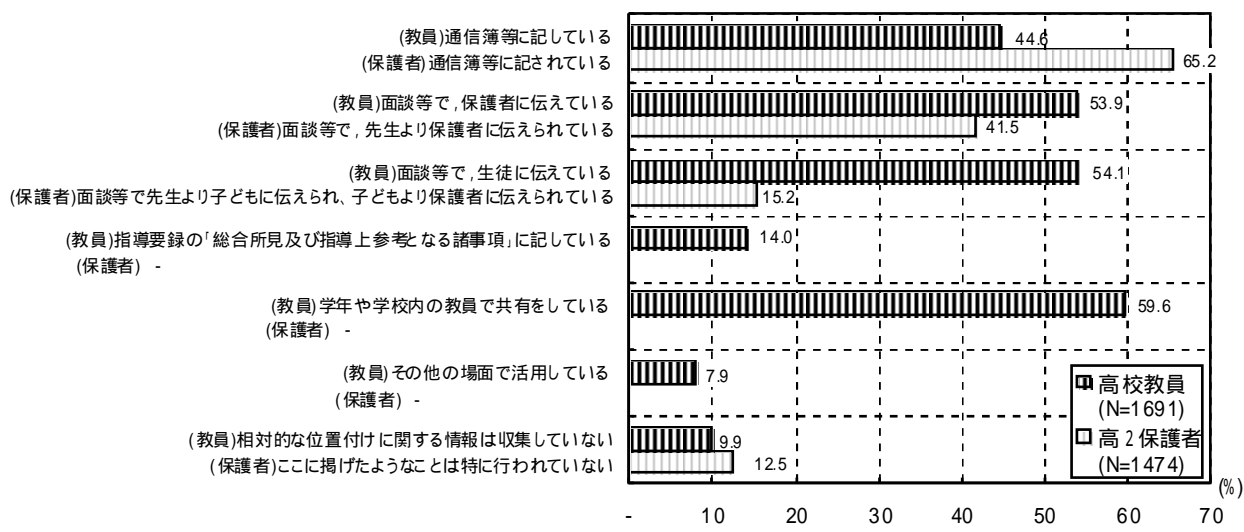
(教員)集団の中で児童が占める相対的な位置付けに関する情報の扱い方
 (保護者)集団の中での子どもの成績の順位の通知状況



(教員)集団の中で生徒が占める相対的な位置付けに関する情報の扱い方
 (保護者)集団の中での子どもの成績の順位の通知状況



(教員)集団の中で生徒が占める相対的な位置付けに関する情報の扱い方
 (保護者)集団の中での子どもの成績の順位の通知状況



目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等の学習評価についての教員・保護者の考えの比較

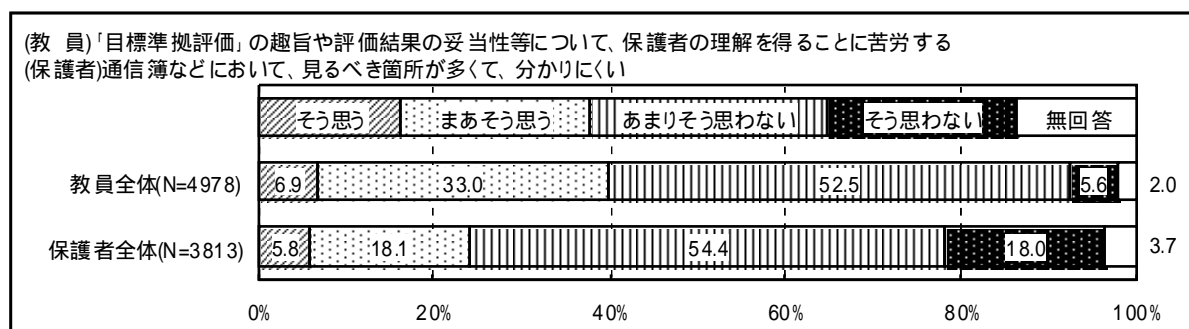
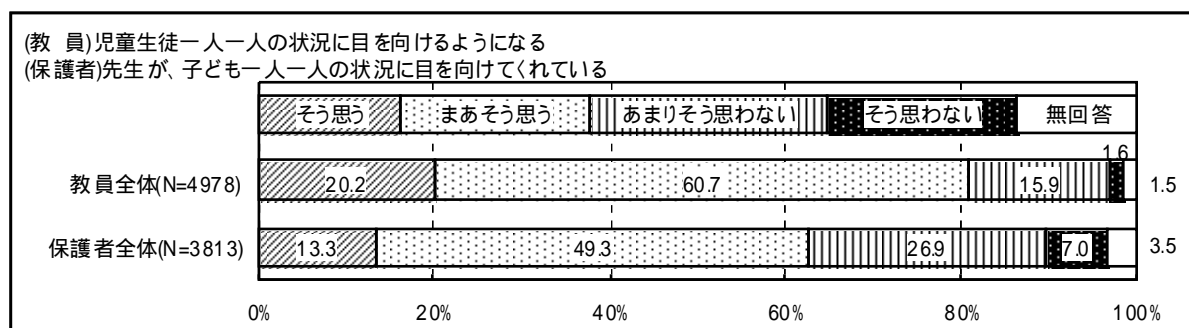
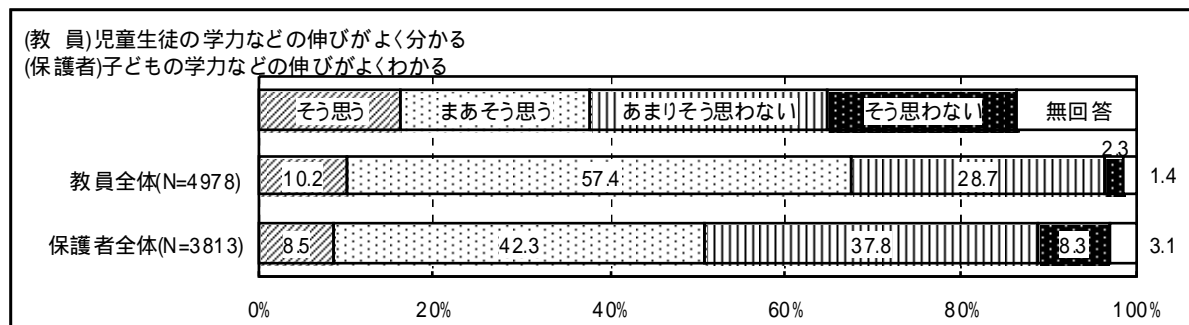
ここでは、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員・保護者それぞれの考えについて、教員調査の項目と保護者調査の項目の中から比較できる項目を抽出し（図表3-1参照）、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）等の学習評価に対する教員と保護者の考えの違いを分析した。

図表3-1 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価に対する教員と保護者の考えの比較項目

教員調査	保護者調査
授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる	通信簿などにおいて、「知識」や「思考」、「関心・意欲・態度」など、子どもの学力の様々な面が示されており、わかりやすい
児童生徒の学力などの伸びがよく分かる	子どもの学力などの伸びがよくわかる
児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる	先生が、子ども一人一人の状況に目を向けてくれている
いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている	
4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている	
学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる	
評価の4観点は、観点どうしの関係性が分かりにくい	
「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について、保護者の理解を得ることに苦労する	通信簿などにおいて、見るべき箇所が多くて、分かりにくい
評価規準や評価結果の妥当性等について担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する	評価に、先生の主観が入っているのではないか不安がある
学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない	学級や学年など集団の中で位置付けが分からず、入学者選抜などに向けて不安がある

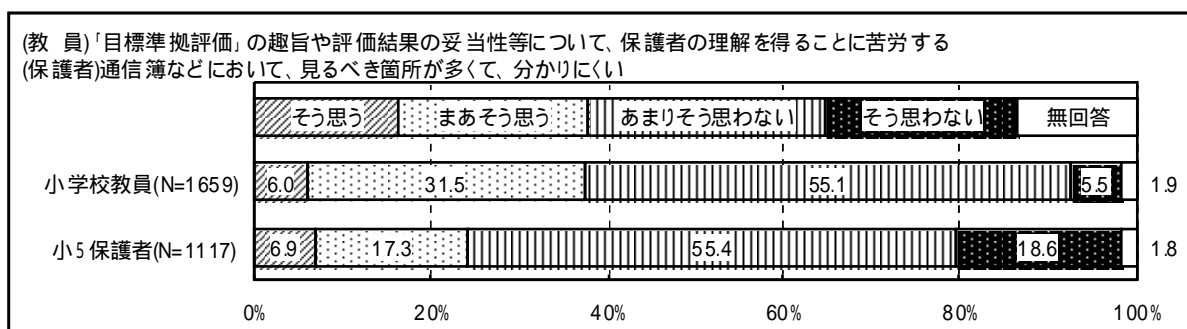
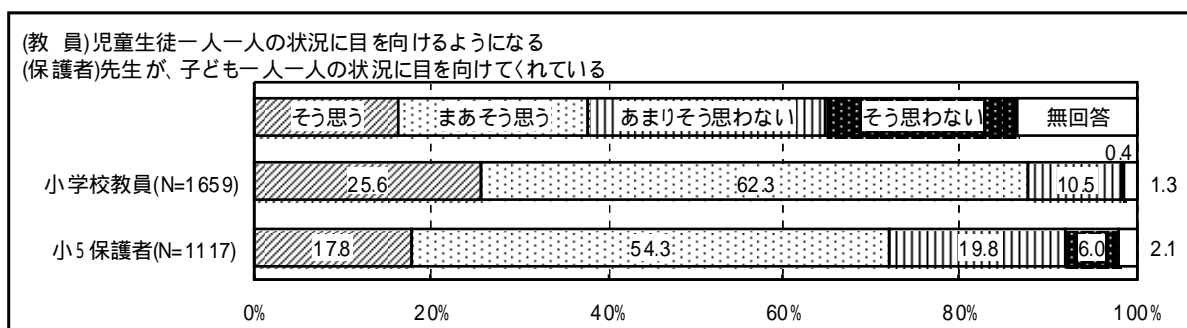
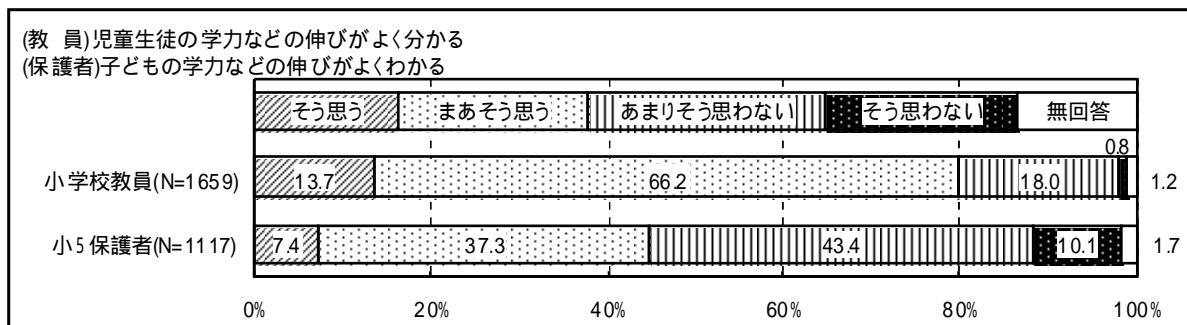
全体（各項目ごとの回答分布による比較分析）

❖比較できる全項目について、そう思うとする割合（「そう思う」+「まあそう思う」）は保護者よりも教員の方が高い割合を占め、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の方向性については肯定的であれ否定的であれ教員の方が保護者より強く実感している。



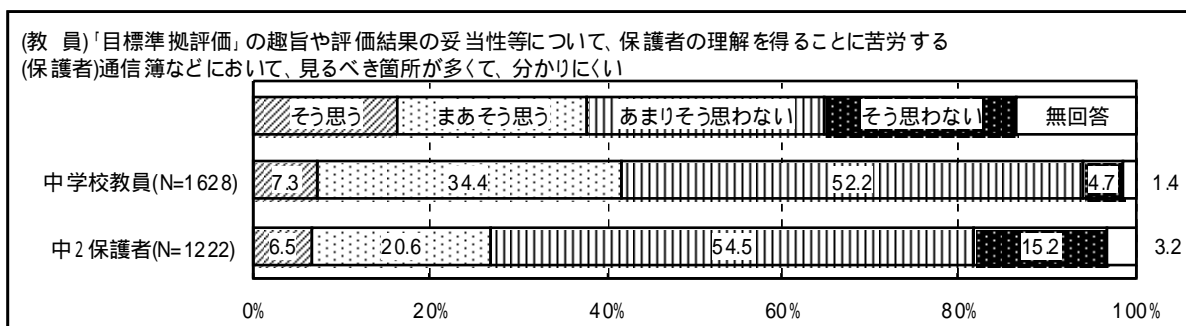
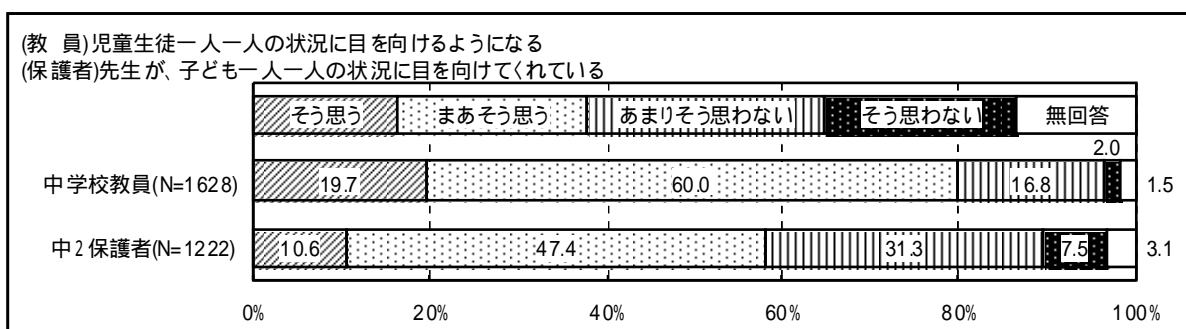
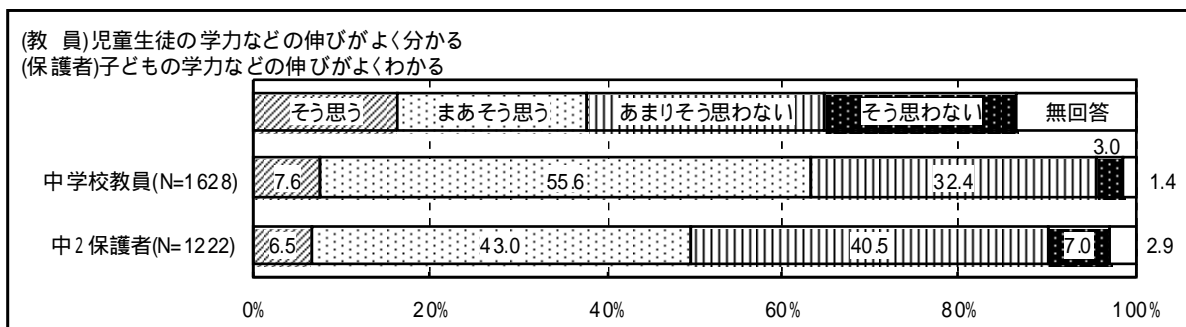
小学校（各項目ごとの回答分布による比較分析）

- ❖ 小学校における教員と保護者の各項目ごとの回答分布をみると、「児童生徒（子ども）の学力などの伸びがよく分かる」については保護者の半数以上がそう思わない（「あまりそう思わない」+「そう思わない」）とするなど、教員との間に感じ方の違いがみられる。



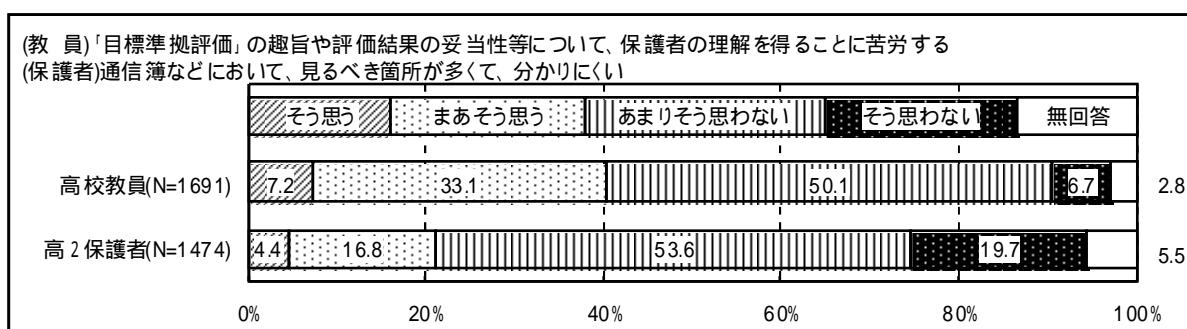
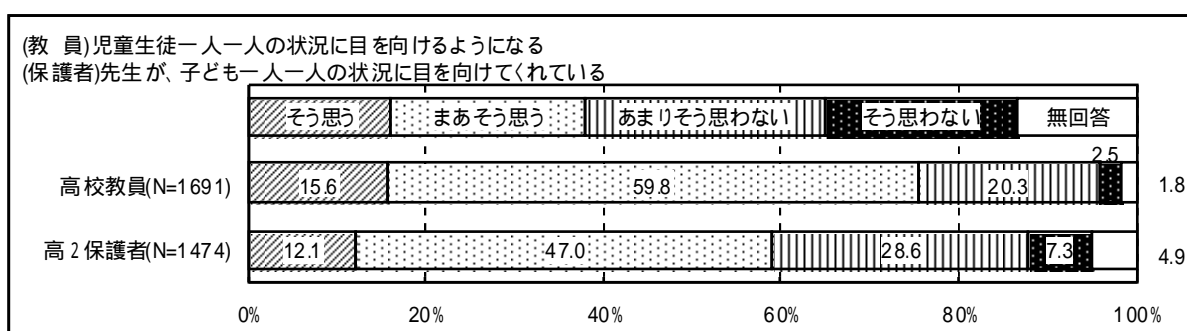
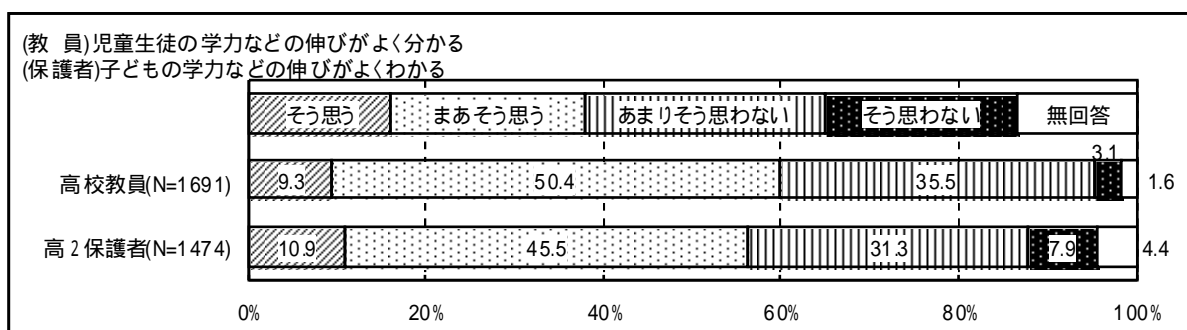
中学校（各項目ごとの回答分布による比較分析）

- ❖ 中学校における教員と保護者の各項目ごとの回答分布をみると、各項目とも、そう思う（「そう思う」 + 「まあそう思う」）の割合は保護者よりも教員の方が高くなっている。



高校（各項目ごとの回答分布による比較分析）

❖ 高校における教員と保護者の各項目ごとの回答分布をみると、各項目とも、「そう思う」（「そう思う」+「まあそう思う」）の割合は保護者よりも教員の方が高くなっている。



第4章 小学校における外国語教育に関する調査

調査の概要

- 1 . 調査の目的

本調査は、平成 23 年度より小学 5・6 年生において外国語活動が導入されることとなっていることをふまえ、小学校における外国語教育に関する実態や教員の意識を把握するため、全国の小・中学校の教員に対しアンケート調査を実施したものである。

- 2 . 調査の対象及び調査方法等

(1) 調査対象

全国から無作為抽出された小・中学校の教員 各 2,000 人 (計 4,000 人)
「学習指導と学習評価に対する意識調査(教員編)」(第 1 章)の対象と同じ

(2) 対象方法・調査時期

「学習指導と学習評価に対する意識調査(教員編)」(第 1 章)と同じ

(3) 調査項目

具体的な設問の流れ及び各設問の内容については以下のとおりである。

図表4-1 小学校における外国語教育に関する調査 調査項目一覧

		設 問	タイプ	小	中
外国語教育	1	外国語教育の実施時期予定	SA		-
	2	小学校における外国語教育の適切な実施時期	SA		-
	3	小学 5・6 年生における外国語教育の実施方法についての考え	SA		-
	4	小学校における外国語教育について感じていること	各 SA		
	5	小学校での外国語教育において実施すべき内容	各 SA		
	6	外国語活動を円滑に実施していく上で、必要だと考えるもの	MA		-

1: 本表は小学校教員・中学校教員それぞれに対するアンケート票から設問を統合整理したものであり、表中の設問番号は実際の調査票とは異なる。

2: 「タイプ」欄の各記号は、それぞれ以下のとおりである。

SA...単一回答(選択肢からあてはまるものをひとつ選んで回答)

MA...複数回答(選択肢からあてはまるものを全て選んで回答)

3: 小・中の各欄に を付した項目は、それぞれの教員に対する調査票に含まれている調査項目である。

- 3 . 回収状況

回収状況は以下のとおりである。

図表4-2 小学校における外国語教育に関する調査 回収状況

	小学校	中学校	合計
対象学校数 (校)	200	200	400
回答学校数 (校)	179	167	346
調査票発送数 (枚)	2,000	2,000	4,000
教員回答数 (人)	1,659	830	2,489
回収率 (%)	83.0%	41.5%	62.2%
1校平均回答数 (人)	9.3	5.0	7.2

「回収率」は文部科学省からの発送数に対する回収数の比率を表している。教員への配付は校長に依頼しており、教員が 10 人に満たない学校もあるため、実際に対象者の手元に渡った数は不明である。

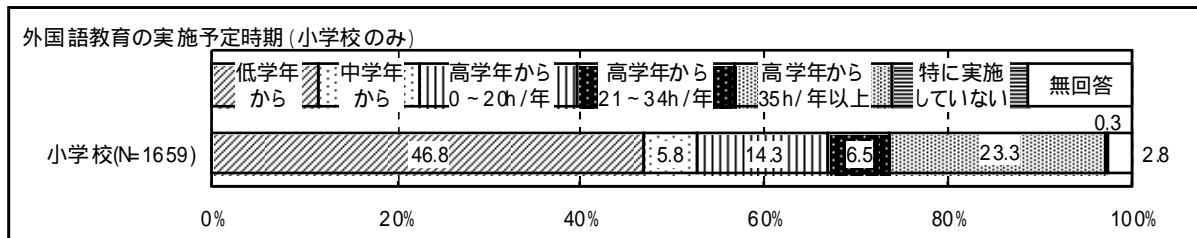
調査の結果

- 1 . 小学校における外国語教育の実施時期

(1) 外国語教育の実施時期予定 (小学校のみ)

全体

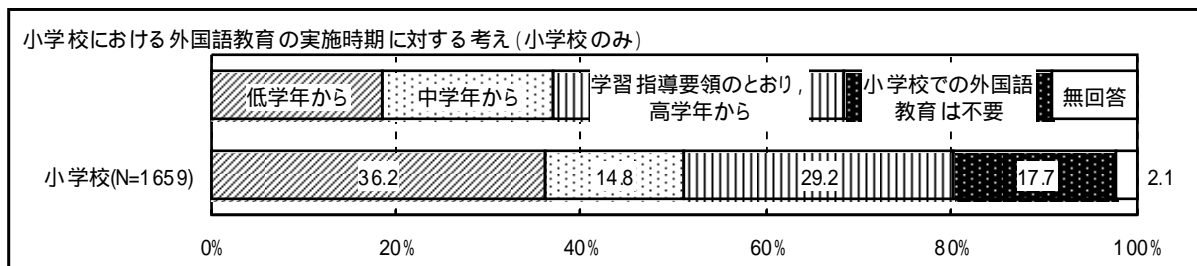
- ❖平成 23 年度より、5 年生及び 6 年生において外国語活動が導入されることとなっており、既に時間割等を工夫して、低・中学年から外国語の教育に取り組んでいる小学校もみられる。このため、本調査の対象となった各学校では、実際に今年度どのような外国語教育の実施計画が立てられているかを調査した。
- ❖その結果、外国語教育を「特に実施していない」のはわずか 0.3% であり、ほとんどの学校で今年度から外国語教育が実施 (計画) されていることが明らかとなった。
- ❖具体的な実施予定時期をみると、「低学年 (1 年生又は 2 年生) から」が 46.8% と最も高く、高学年からとする割合 (年間時間数の各区分別割合の合計 = 44.1%) よりも高くなっている。



(2) 小学校における外国語教育の適切な実施時期 (小学校のみ)

全体

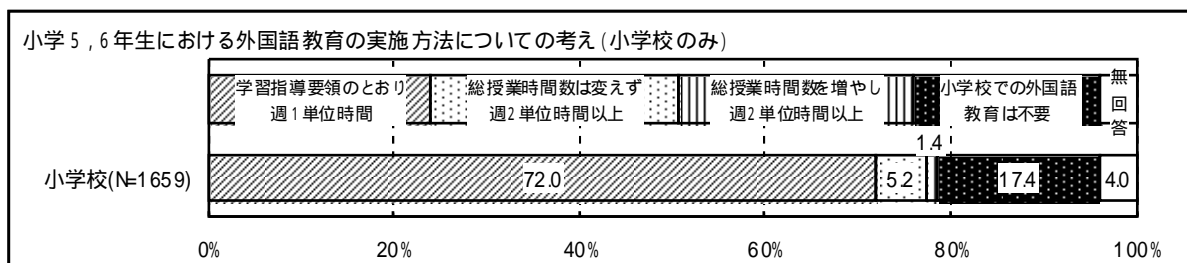
- ❖今後の小学校における外国語教育の実施時期として適切だと思える学年段階としては、「低学年 (1 年生又は 2 年生) から」が 36.2% と最も多くから挙げられており、「新しい学習指導要領のとおり、高学年 (5 年生又は 6 年生) から」(29.2%) よりも高い割合となっている。
- ❖なお、「小学校における外国語の教育は不要である」という意見も 17.7% みられる。



(3) 小学5・6年生における外国語教育の実施方法についての考え(小学校のみ)

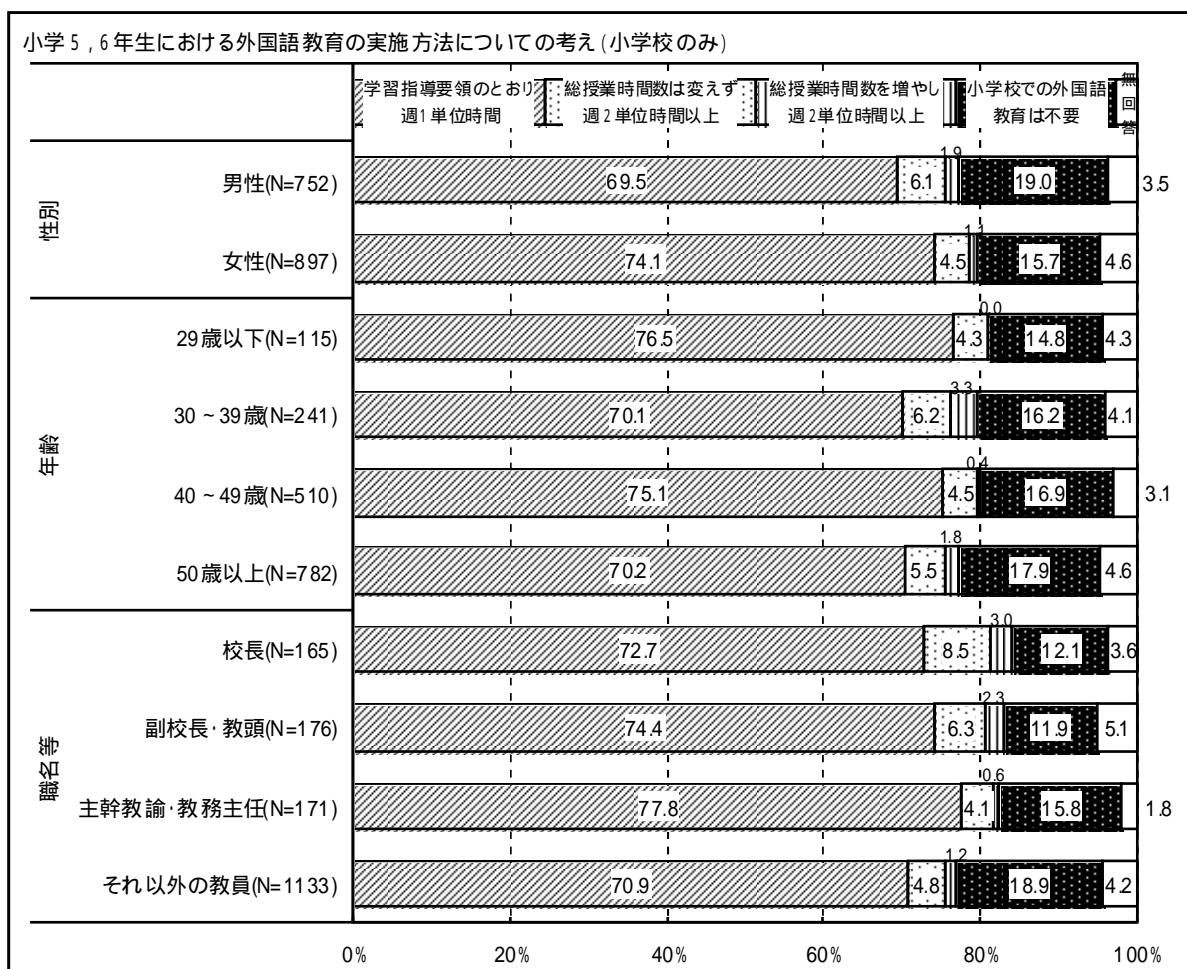
全体

- ◆ 今後の小学校5・6年生における外国語教育の実施方法についての考えをみると、「新しい学習指導要領のとおり、週1単位時間程度実施」するのがよいという意見が最も高く72.0%を占めている。また、「小学校における外国語の教育は不要である」とする教員も17.4%みられる。



性別・年齢別・職名等別

- ◆ 小学校5・6年生における外国語教育の実施方法について、教員の各属性別に考えを比較すると、性別・年齢別・職名等別のいずれにおいても、「新しい学習指導要領のとおり、週1単位時間程度実施」するのがよいという意見が最も高い割合となっており、あまり大きな差はみられない。
- ◆ なお、「小学校における外国語の教育は不要である」という意見は、年齢別では世代が上がるにつれて高くなっており、また職名等別では、校長や副校長・教頭よりも「それ以外の教員」においてより「不要」とする割合が高くなっている。

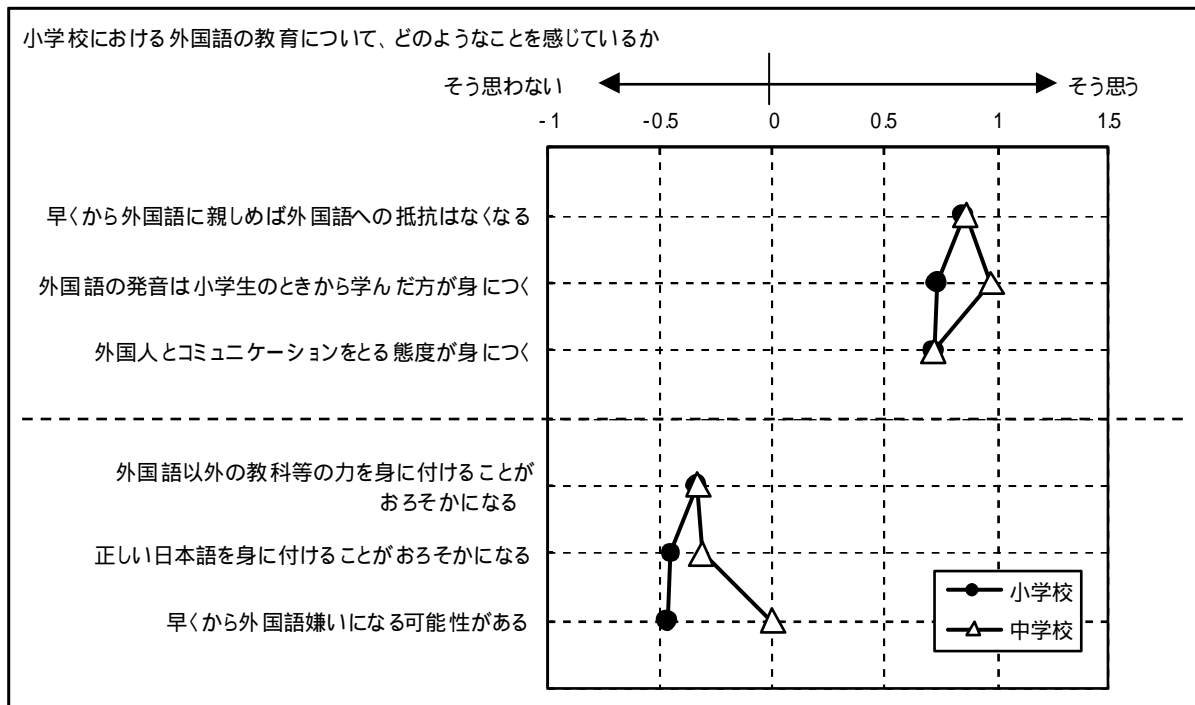


- 2 . 小学校における外国語教育に対する考え

(1) 小学校における外国語教育について感じていること

学校段階別（評点化による比較分析）

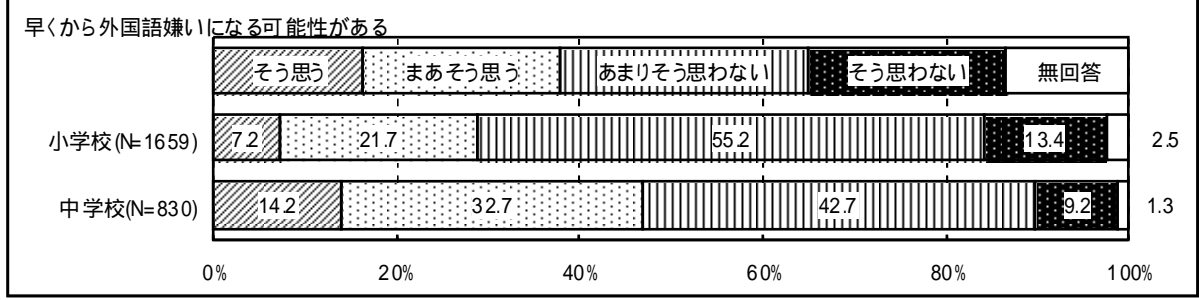
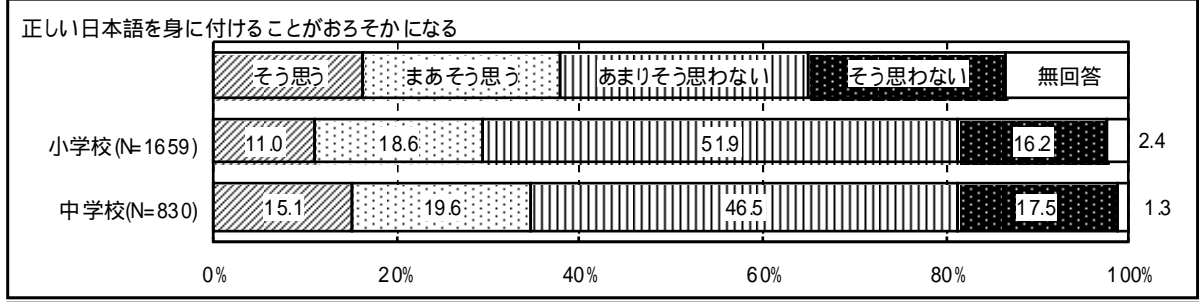
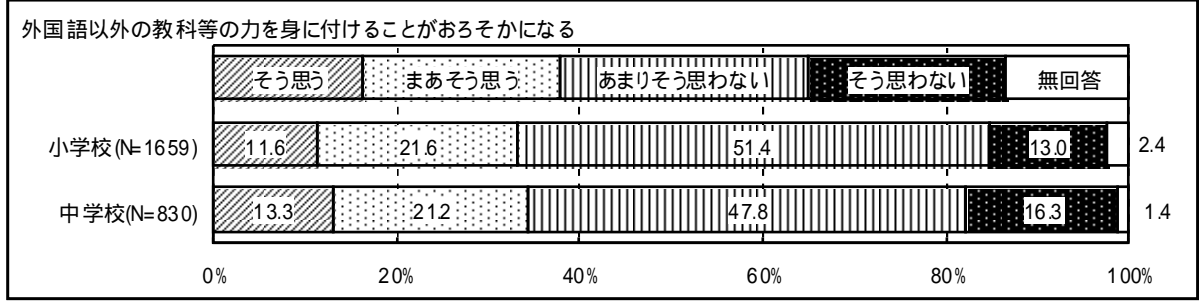
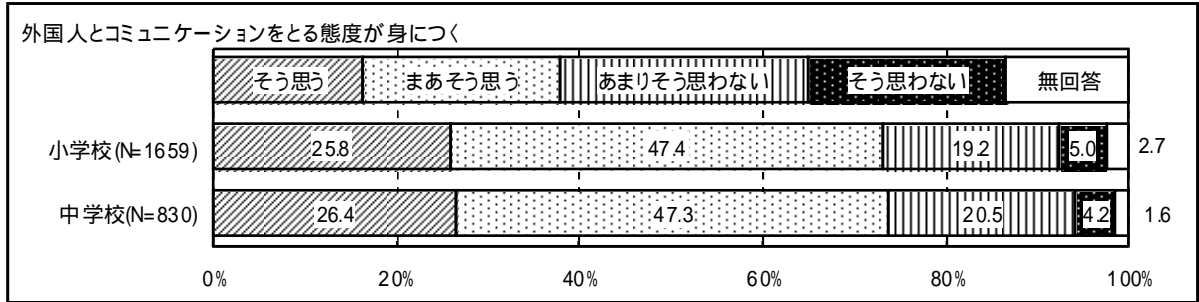
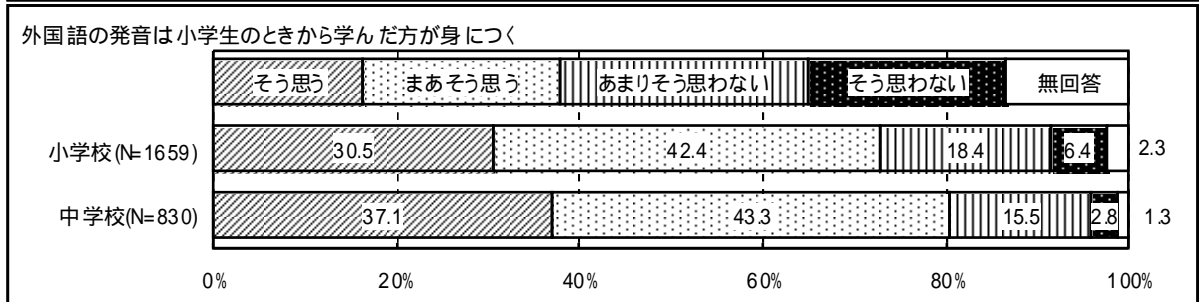
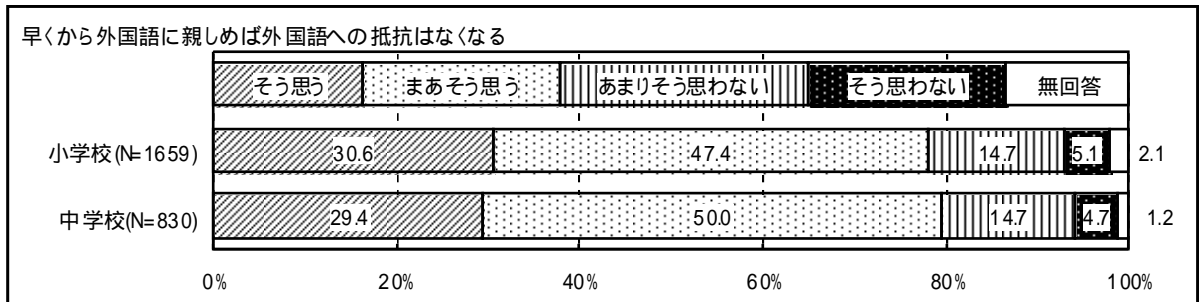
- ❖ 小学校における外国語の教育について、小・中学校の教員がどのような実感を持っているかについて、各項目に対するあてはまりから比較すると、「早くから外国語に親しめば外国語への抵抗はなくなる」、「外国語の発音は小学生のときから学んだ方が身につく」、「外国人とコミュニケーションをとる態度が身につく」など、小学校における外国語の教育をプラスに評価した項目については、小・中学校いずれも評点がプラス値（「そう思う」という実感の方がより強い）となっている。
- ❖ また、「外国語以外の教科等の力を身に付けることがおそれるようになる」、「正しい日本語を身に付けることがおそれるようになる」、「早くから外国語嫌いになる可能性がある」などの否定的項目については、評点は0からマイナス値（「そう思わない」という実感の方がより強い）となっており、全体として小学校における外国語教育について肯定的に捉えられていることがわかる。



各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値（それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均）を算出した。

学校段階別（各項目に対する回答分布による比較分析）

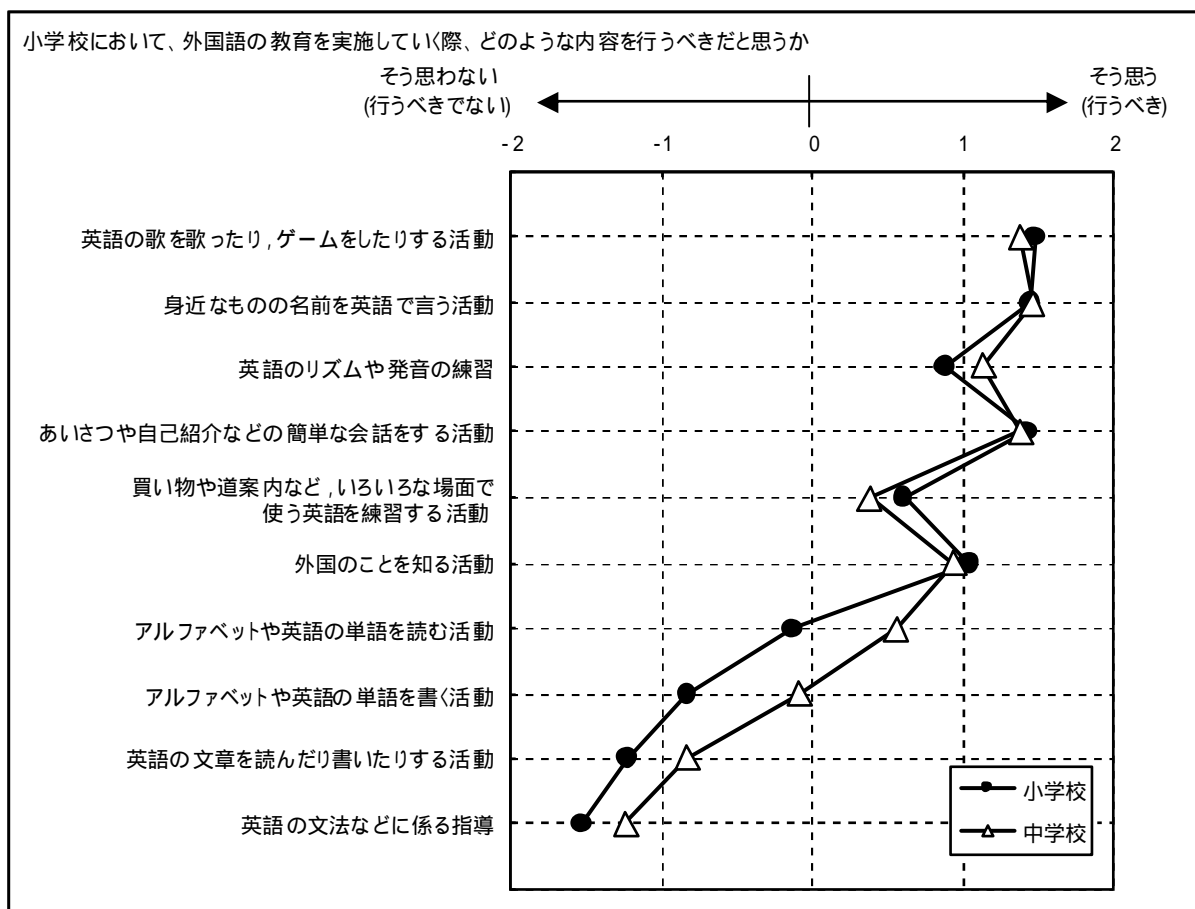
- ❖ 各項目についての回答を詳しくみると、小学校では、「早くから外国語に親しめば外国語への抵抗はなくなる」及び「外国語の発音は小学生のときから学んだ方が身につく」については、約3割の教員が「そう思う」としており、「まあそう思う」と合わせると7割以上の教員が小学校からの外国語教育の効果を実感していることがわかる。
- ❖ また、中学校では、「早くから外国語に親しめば外国語への抵抗はなくなる」、「外国語の発音は小学生のときから学んだ方が身につく」と感じている教員が約8割を占める一方で、5割近くは「早くから外国語嫌いになる可能性がある」とも感じている。



(2) 小学校での外国語教育において実施すべき内容

学校段階別（評点化による比較分析）

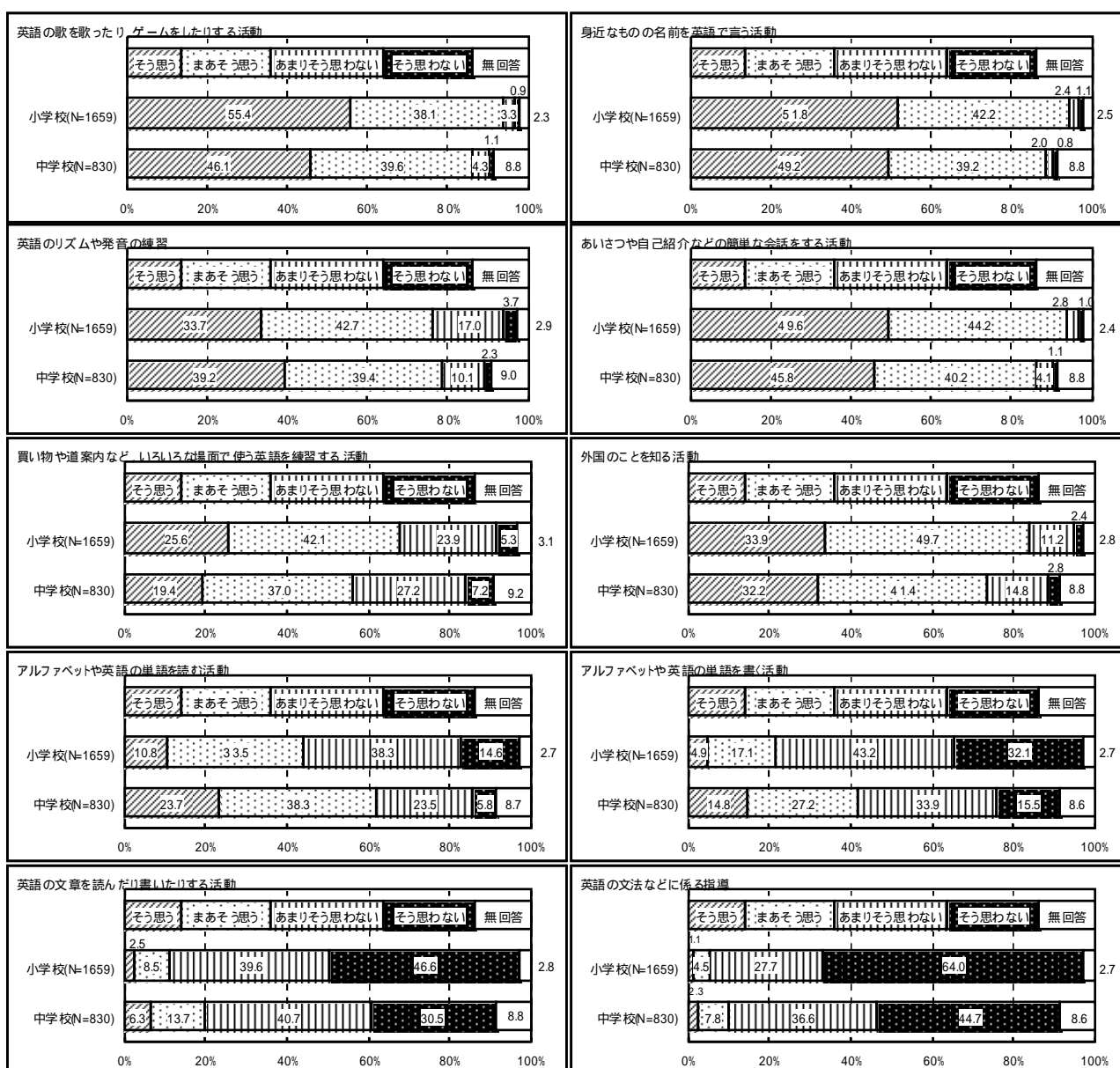
- ❖ 小学校での外国語教育において実施すべきと考える内容についてみると、小・中学校いずれも「英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりする活動」や、「身近なものの名前を英語で言う活動」、「あいさつや自己紹介などの簡単な会話をする活動」などが特に高いプラス値となっており、小学校での外国語教育ではまず外国語に親しむ活動に重点を置くことが有効であると考えられていることが示唆される。
- ❖ 一方、「アルファベットや英語の単語を読む活動」や「アルファベットや英語の単語を書く活動」、「英語の文章を読んだり書いたりする活動」、「英語の文法などに係る指導」についてはマイナス値となっており、小学校での外国語教育の内容としてはあまり適切ではないと考えている教員が多いことがわかる。



各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、各項目ごとに平均値(それぞれ無回答を除く回答者数に対する平均)を算出した。

学校段階別（各項目に対する回答分布による比較分析）

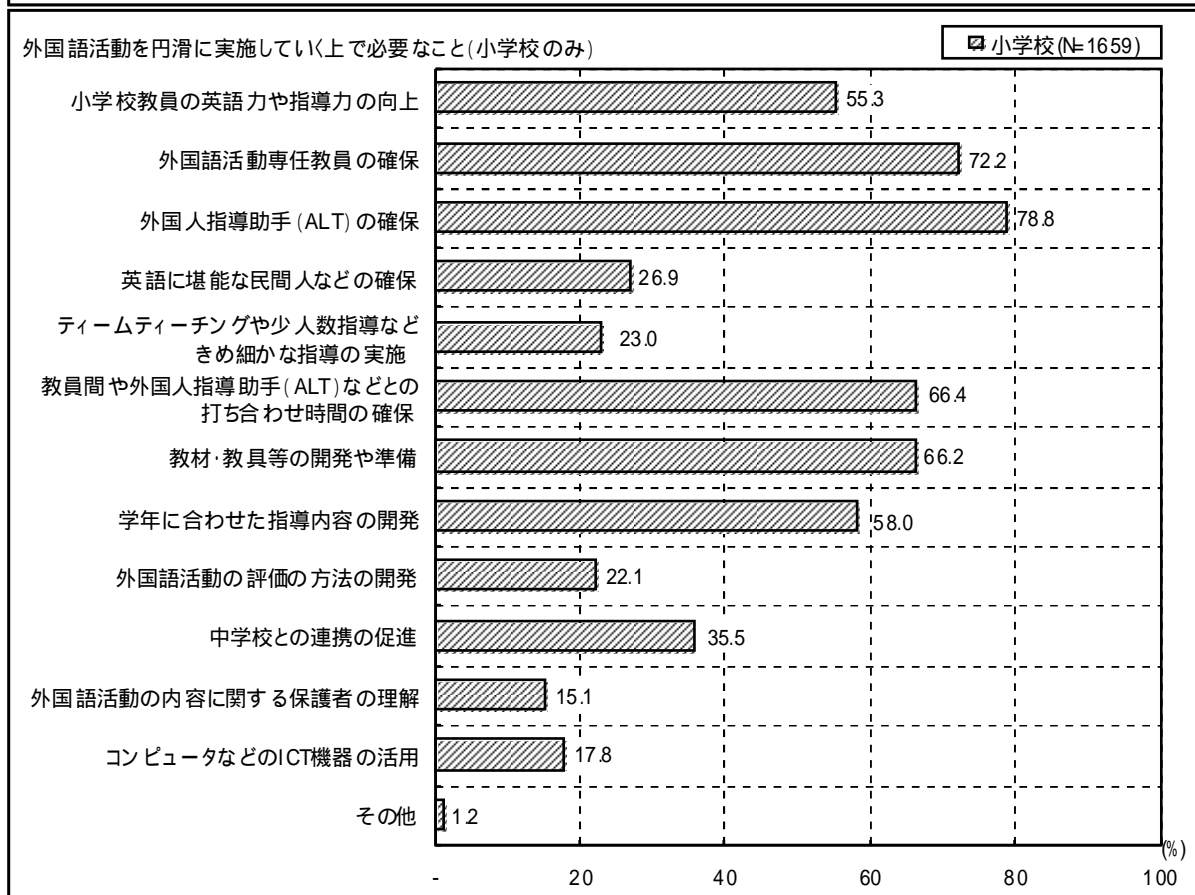
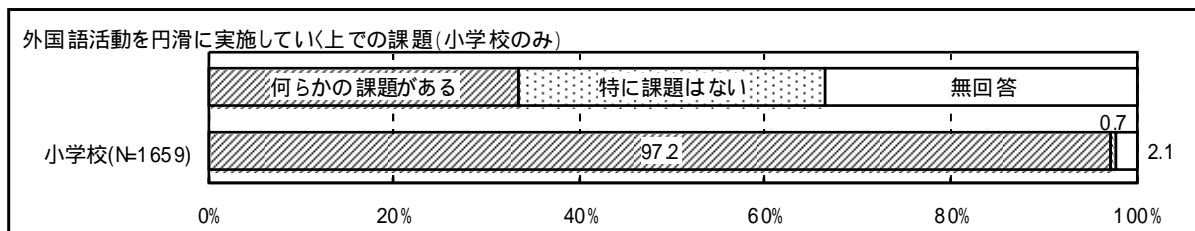
- ◆ 外国語教育に係る様々な活動について、個別に回答分布をみると、「英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりする活動」や「身近なものを英語で言う活動」については、小学校教員の半数以上が「そう思う」（＝行うべき）としており、行うべきではない（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）という教員は5％に満たない。一方で、「英語の文章を読んだり書いたりする活動」や「英語の文法などに係る指導」については、「そう思わない」（＝行うべきでない）とする教員が多く、特に小学校では5割前後にのぼっている。
- ◆ 小学校と中学校とを比較すると、「アルファベットや英語の単語を読む活動」について、小学校では行うべきではない（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）という教員が半数以上を占めているのに対し、中学校では行うべき（「そう思う」＋「まあそう思う」）という教員が6割以上と、小・中学校間で見解の相違がみられる。



(3) 外国語活動を円滑に実施していく上で、必要だと考えるもの(小学校のみ)

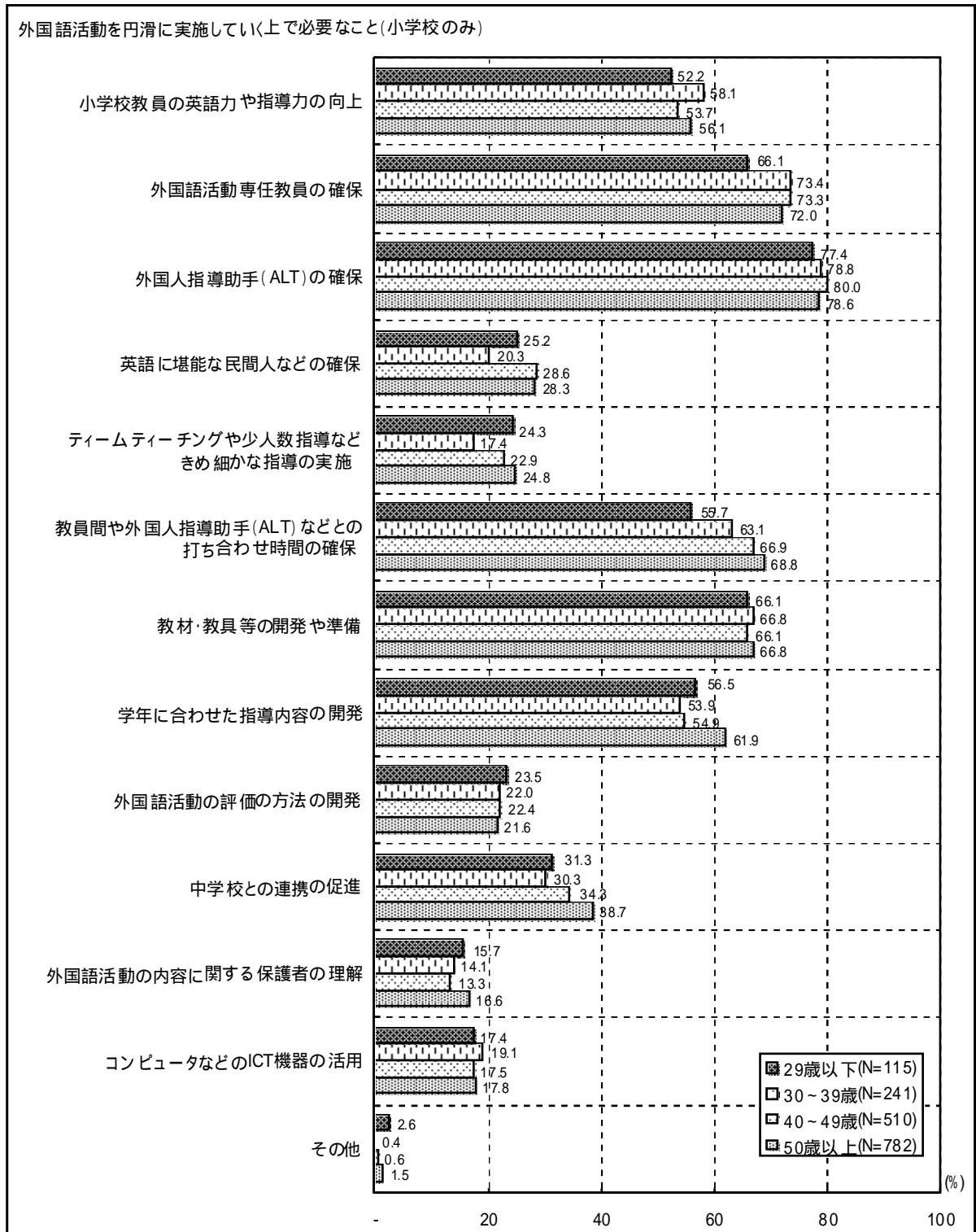
全体

- ❖ 小学校教員が、今後小学校における外国語活動を円滑に実施していく上での課題をどのように捉えているかをみると、「特に課題はない」はわずかに0.7%であり、ほとんどの教員が何らかの課題があると考えていることがわかる。
- ❖ 具体的にどのようなことが必要とされているかをみると、「外国人指導助手(ALT)の確保」が78.8%と最も多くから指摘されているほか、「外国語活動専任教員の確保」も72.2%とこれに次いで高く、指導する人材の確保が最も重要な課題と認識されていることがわかる。
- ❖ また、「教員間や外国人指導助手(ALT)などとの打ち合わせ時間の確保」(66.4%)や「教材・教具等の開発や準備」(66.2%)なども必要とされている。



年齢別

- ❖ 小学校における外国語活動の円滑な実施に向けた課題について、年齢別に考えを比較すると、「外国人指導助手（ALT）の確保」及び「外国語活動専任教員の確保」についてはいずれの世代でも重要な課題として捉えられていることがわかる。
- ❖ これ以外の項目をみると、「教員間や外国人指導助手（ALT）などとの打ち合わせ時間の確保」については、世代が上がるにつれてより多くから課題として指摘されている。



參考資料

小学校教員調査（学習指導と学習評価）

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、()に回答を記入してください。

無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。また、このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。

このアンケートは、小学校、中学校及び高等学校に勤務されている先生を対象としています。学校段階や職務内容によって答えにくい部分があるかも知れませんが、あまり考え込まず、お答えになれる範囲で進んでください。

あなた御自身や御勤務先の学校について伺います

1 あなた御自身のことについて、あてはまる番号に をつけてください。

1) 性別 1. 男性 2. 女性

2) 年齢 1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50歳以上

3) 職名等 1. 校長 2. 副校長, 教頭 3. 主幹教諭, 教務主任
4. それ以外の教員

4-1) 3) で3又は4に をつけた方に伺います。あなたは学級担任をしていますか。

1. している 2. していない

4-2) 4-1) で1に をつけた方に伺います。あなたが学級担任をしている学年は何年生ですか。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

4-3) 4-1) で1に をつけた方に伺います。あなたが担任をしている学級の児童は何人ですか。

1. 10人以下 2. 11人～20人 3. 21人～30人
4. 31人～40人 5. 41人以上 6. 現在は学級担任をしていない

5) あなたが指導している教科等は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 生活
6. 音楽 7. 図画工作 8. 家庭 9. 体育 10. 外国語活動
11. 総合的な学習の時間 12. その他
13. 現在は教科等の指導を担当していない

6) 3) で3又は4に をつけた方に伺います。週当たりに担当している授業時数（単位時間）は何時間ですか（各教科、道徳、総合的な学習の時間及び学級活動の指導を行っている時間とチーム・ティーチングで協力している授業時数を基に計算する。授業時数に組み込まれない朝の時間や給食の時間は除く。）。

() 時間

7) 御勤務先の学校の設置形態は次のうちどれですか。

1. 国立 2. 公立 3. 私立

8) 御勤務先の学校の学級数は全部でどれくらいですか（特別支援学級を除く。）。

1. 5学級以下 2. 6～8学級 3. 9～11学級 4. 12～14学級
5. 15～17学級 6. 18～20学級 7. 21～23学級 8. 24～26学級
9. 27～29学級 10. 30学級以上

・次に学習指導や学習評価の状況について伺います

日ごろ、児童の学習指導をされている先生は、その経験に基づき、そうではない先生は、現在の学校の状況に基づき、お答えください。

2 あなたの学校や学級では、日ごろ、どのような授業や学習指導を心掛けていますか。特に力をいれているものを3つまで選んでください。

1. 教科書にあることを丁寧に教える授業
2. 教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業
3. 観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業
4. 専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業
5. 児童がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業
6. 児童が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業
7. 本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業
8. 小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童に学習状況の評価を知らせる授業
9. 振り返りシートなどにより、児童自らに学習状況の評価させる授業
10. 繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業
11. 習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業
12. コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業
13. 競争を適度に促す授業
14. 宿題を定期的に出す授業
15. その他

3 学習内容の習得が不十分な児童（知識・理解などに課題がある児童）をどのような方法で把握していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

4. 児童が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 児童が記述したノート
7. 児童が記述した振り返りシートや児童に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

4 児童の思考力や判断力、表現力といった力をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください（選択肢は**3**と同じ）。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）
4. 児童が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 児童が記述したノート
7. 児童が記述した振り返りシートや児童に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

5) 児童の関心・意欲・態度をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください(選択肢は3と同じ)。

1. 単元の区切りなどで実施する, 業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
2. 単元の区切りなどで実施する, 教員自作のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
3. 中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)
4. 児童が, 自分で課題を選択し, 調べたことや考えたことに基づいて, レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)
6. 児童が記述したノート
7. 児童が記述した振り返りシートや児童に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数, 宿題提出, 忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル(ポートフォリオ)
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

6) 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)」や観点別学習状況の評価について, これまでの実践を踏まえ, どのように感じていますか。1) ~ 10) のそれぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 授業の目標が明確になり, 学力などを多角的に育成することができる	... 1 2 3 4 ...
2) 児童の学力などの伸びがよく分かる	... 1 2 3 4 ...
3) 児童一人一人の状況に目を向けるようになる	... 1 2 3 4 ...
4) いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり, 定着してきている	... 1 2 3 4 ...
5) 4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている	... 1 2 3 4 ...

6) 学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる	... 1 2 3 4 ...
7) 評価の4観点は, 観点どうしの関係性が分かりにくい	... 1 2 3 4 ...
8) 「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について, 保護者の理解を得ることに苦勞する	... 1 2 3 4 ...
9) 評価規準や評価結果の妥当性等について, 担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する	... 1 2 3 4 ...
10) 学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない	... 1 2 3 4 ...

7) 観点別学習状況の評価について, 評価の資料の収集・分析, 評価の決定を円滑に実施できていますか。4観点それぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「技能・表現」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」に関する評価	... 1 2 3 4 ...

8) 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について, どのように感じていますか。1) ~ 4) のそれぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 「評定」は, 児童の学習の到達の程度を端的に示しものであり, 保護者や児童にとって有用である	... 1 2 3 4 ...
2) 「評定」は, 上級学校への入学者選抜のために有用である	... 1 2 3 4 ...
3) 学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない	... 1 2 3 4 ...

4) 観点別学習状況の評価を評定にどうつなげるかが分かりにくい..... 1... 2... 3... 4...

9 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)」や観点別学習状況の評価などの趣旨について、あなたの学校では、保護者に対し、どのような方法で説明していますか。あてはまるものをすべて選んでください。特に説明を行っていない場合は「7」を選んでください。

1. 学校・学級だよりなどで説明
2. P T Aの会合などで説明
3. 学年保護者会や学級保護者会などで説明
4. 保護者面談や三者面談などで説明
5. 通信簿などに記載して説明
6. その他の方法
7. 特に説明を行っていない

10 学級や学年など集団の中で児童が占める相対的な位置付けに関する情報は、どのように扱っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。そのような情報を収集していない場合は「7」を選んでください。

1. 通信簿等に記している
2. 面談等で、保護者に伝えている
3. 面談等で、児童に伝えている
4. 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記している
5. 学年や学校内の教員で共有をしている
6. その他の場面で活用している
7. 相対的な位置付けに関する情報は収集していない

11 「総合的な学習の時間」について、観点を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」など、「総合的な学習の時間」の目的を踏まえた観点を設定している
2. 「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」など、教科との関連を明確にした観点を設定している
3. 「コミュニケーション能力」「情報活用能力」など、学校ごとに定める目標・内容に基づいた観点を設定している

12 「総合的な学習の時間」について、評価規準を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. すべての単元において、評価規準を設定している
2. 単元によっては、評価規準を設定している
3. 評価規準は設定していない

13 指導要録において、特別活動は、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」のそれぞれについて、十分満足できる場合に「 」を記すことになっています。このことについて、どのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 「活動」ごとに記録するのがよい
2. 「活動」ではなく、「態度」や「資質」を特別活動の目標に照らして評価するのがよい(例えば、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする態度や、自己を生かす能力など)
3. 個別に記録するのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい
4. その他

14 指導要録においては、「行動の記録」として各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる児童の行動に関し、「基本的な生活習慣」「健康・体力の向上」「自主・自律」「責任感」「創意工夫」「思いやり・協力」「生命尊重・自然愛護」「勤労・奉仕」「公正・公平」「公共心・公德心」といった項目について、十分満足できる場合に「」を記すことになっています。このことについて、どのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 「項目」ごとに記録欄があるのがよい
2. 「項目」ごとに記録欄を設けるのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい
3. その他

15 指導要録の「総合所見及び指導所上参考となる諸事項」においては、児童の成長の状況をとらえるため、様々な事柄が記録されています。あなたは、次のような事項を記入していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 各教科や総合的な学習の時間において、児童の優れている点
2. 各教科や総合的な学習の時間において、児童の努力を要する点
3. 特別活動に関する事実及び所見
4. 行動に関する所見
5. 進路指導に関する事項
6. 取得資格
7. 児童の特徴・特技
8. 部活動
9. 学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況
10. 表彰を受けた行為や活動
11. 学力等について標準化された検査の結果
12. 学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報
13. その他

16 学習指導と学習評価の状況について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか。1)～9)のそれぞれについて、1.～4.の中からあてはまるものを1つ選んでください。

- 1) 学級全体の習得状況の確認、補充的又は発展的な指導の実施について
- A：毎時、学級全体の習得状況を確認するとともに、単元中や単元末も習得状況を確認し、それに基づき、補充的又は発展的な指導を行う時間を設けている。
- B：授業においては、新しい内容を着実に指導することを優先し、補充的な指導や発展的な指導は、個別指導で対応している。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 2) 評価方法を検討する際に配慮する事柄について
- A：評価規準などを改めて参照し、「身に付けさせたい力」を確認した上で、具体的な評価を行う。「身に付けさせたい力」の習得の度を測るのであるから、授業で用いていない教材や題材も積極的に用いている。
- B：授業で実際に行った活動を踏まえ、その内容の確認を行うような評価を行う。授業で指導した内容の定着の度を測るものであるから、授業で用いた教材や題材と異なるものはあまり用いていない。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 3) 実際の評価に当たっての、評価の4観点の関係のとらえ方について
- A：学力などを構造的に考え、評価を行っている（例えば、「思考・判断」に良い評価をつける場合は、「知識・理解」や「技能・表現」が十分に満足できる学習状況にあることを前提とするなど。）。
- B：各観点を明確に区別し、それぞれに適した方法を用いて評価を行うので、ある観点の評価を行うときに、別の観点のことを意識することはない。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 4) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について
- A：毎時、観点別学習状況を記録し、総括的な評価（学期末などの成績評価）を行うための材料を詳細に集めている。
- B：毎時、観点到配慮した指導は行うが、総括的な評価を行うための資料は1つ又は複数の単元などを見通して、適宜、集め記録している。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

5) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

A: 「関心・意欲・態度」を総合的な学力として考え、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。

B: 他の観点に係る学習状況は努力を要する水準でも、「関心・意欲・態度」は満足できるものと評価している。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

6) 「評定」の決定の方法について

A: いわゆる4観点を均等に評価して評定を決定している。

B: ある観点到他の観点到より重点を置いて、評定を決定している(例えば、関心・意欲・態度よりも他の観点到に重点を置くなど)。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

7) あなたの学校等における学習指導や学習評価への取組み状況について

A: 校内で指導計画を共有したり授業研究を行ったりして、指導と評価の一体化や教員の力量の向上に、学校全体や教育委員会等で取り組んでいる。

B: 評価規準の改善、評価方法の研究などは、教員個人に任されている。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

8) 新しい学習指導要領で示されている、「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させることについて

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

9) 新しい学習指導要領で示されている、思考力、判断力、表現力等をはぐくむための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」について

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

17 小学校の観点別学習状況の評価について、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できていますか。1)～9)のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。あなたが指導している教科のみ御回答ください。

1) 国語

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「国語への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「話す・聞く能力」	... 1 2 3 4 ...
「書く能力」	... 1 2 3 4 ...
「読む能力」	... 1 2 3 4 ...
「言語についての知識・理解・技能」	... 1 2 3 4 ...

2) 社会

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「社会的事象への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「社会的な思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「観察・資料活用の技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「社会的事象についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

3) 算数

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「算数への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「数学的な考え方」	... 1 2 3 4 ...
「数量や図形についての表現・処理」	... 1 2 3 4 ...
「数量や図形についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

4) 理科

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「自然事象への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「科学的な思考」	... 1 2 3 4 ...
「観察・実験の技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「自然事象についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

5) 生活

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「生活への関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「活動や体験についての思考・表現」	... 1 2 3 4 ...
「身近な環境や自分についての気付き」	... 1 2 3 4 ...

6) 音楽

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「音楽への関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「音楽的な感受や表現の工夫」.....	... 1 2 3 4 ...
「表現の技能」.....	... 1 2 3 4 ...
「鑑賞の能力」.....	... 1 2 3 4 ...

7) 図画工作

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「造形への関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「発想や構想の能力」.....	... 1 2 3 4 ...
「創造的な技能」.....	... 1 2 3 4 ...
「鑑賞の能力」.....	... 1 2 3 4 ...

8) 家庭

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「家庭生活への関心・意欲・態度」...	... 1 2 3 4 ...
「生活を創意工夫する能力」.....	... 1 2 3 4 ...
「生活の技能」.....	... 1 2 3 4 ...
「家庭生活についての知識・理解」...	... 1 2 3 4 ...

9) 体育

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「運動や健康・安全についての思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「運動の技能」.....	... 1 2 3 4 ...
「健康・安全についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

18 その他，学習指導，学習評価の在り方について，御意見がありましたら，御自由に記述ください。

アンケートはここまでです。御協力，ありがとうございました。

中学校教員調査（学習指導と学習評価）

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、()に回答を記入してください。

無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。また、このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。

このアンケートは、小学校、中学校及び高等学校に勤務されている先生を対象としています。学校段階や職務内容によって答えにくい部分があるかも知れませんが、あまり考え込まず、お答えになれる範囲で進んでください。

あなた御自身や御勤務先の学校について伺います

1 あなた御自身のことについて、あてはまる番号に をつけてください。

1) 性別 1. 男性 2. 女性

2) 年齢 1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50歳以上

3) 職名等 1. 校長 2. 副校長, 教頭 3. 主幹教諭, 教務主任
4. それ以外の教員

4-1) 3)で3又は4に をつけた方に伺います。あなたは学級担任をしていますか。

1. している 2. していない

4-2) 4-1)で1に をつけた方に伺います。あなたが学級担任をしている学年は何年生ですか。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

5-1) あなたが指導している教科等は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科 5. 音楽 6. 美術
7. 保健体育 8. 技術・家庭(技術分野) 9. 技術・家庭(家庭分野)
10. 外国語 11. 総合的な学習の時間 12. その他(選択教科等)
13. 現在は教科等の指導を担当していない

5-2) 教科等を指導している方に伺います。あなたが教科等を指導している生徒は何人ですか(複数の学校・学年, 複数の教科・科目等を担当している場合はそのべ合計の人数とする。)

1. 80人以下 2. 81人～120人 3. 121人～160人
4. 161人～200人 5. 201人～240人 6. 241人～280人
7. 281人～320人 8. 321人～360人 9. 361人以上
10. 現在は教科等の指導を担当していない

6) 教科等を指導している方に伺います。週あたりに担当している授業時数(単位時間)は何時間ですか(各教科, 道徳, 総合的な学習の時間及び学級活動の指導を行っている時間とチーム・ティーチングで協力している授業時数を基に計算する。授業時数に組み込まれない朝の時間や給食の時間は除く。)

()時間

7) 御勤務先の学校の設置形態は次のうちどれですか。

1. 国立 2. 公立 3. 私立

8) 御勤務先の校の学級数は全部でどれくらいですか(特別支援学級を除く。)

1. 5学級以下 2. 6～8学級 3. 9～11学級 4. 12～14学級
5. 15～17学級 6. 18～20学級 7. 21～23学級 8. 24～26学級
9. 27～29学級 10. 30学級以上

・次に学習指導や学習評価の状況について伺います

日ごろ、生徒の学習指導をされている先生は、その経験に基づき、そうではない先生は、現在の学校の状況に基づき、お答えください。

2 あなたの学校や学級では、日ごろ、どのような授業や学習指導を心掛けていますか。特に力をいれているものを3つまで選んでください。

1. 教科書にあることを丁寧に教える授業
2. 教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業
3. 観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業
4. 専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業
5. 生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業
6. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業
7. 本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業
8. 小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に生徒に学習状況の評価を知らせる授業
9. 振り返りシートなどにより、生徒自らに学習状況の評価させる授業
10. 繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業
11. 習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業
12. コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業
13. 競争を適度に促す授業
14. 宿題を定期的に出す授業
15. その他

3 学習内容の習得が不十分な生徒（知識・理解などに課題がある生徒）をどのような方法で把握していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

4. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

4 生徒の思考力や判断力、表現力といった力をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください（選択肢は**3**と同じ）。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）
4. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

5) 生徒の関心・意欲・態度をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください(選択肢は3と同じ)。

1. 単元の区切りなどで実施する, 業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
2. 単元の区切りなどで実施する, 教員自作のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
3. 中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)
4. 生徒が, 自分で課題を選択し, 調べたことや考えたことに基づいて, レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数, 宿題提出, 忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル(ポートフォリオ)
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

6) 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)」や観点別学習状況の評価について, これまでの実践を踏まえ, どのように感じていますか。1) ~ 10) のそれぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 授業の目標が明確になり, 学力などを多角的に育成することができる	... 1 2 3 4 ...
2) 生徒の学力などの伸びがよく分かる	... 1 2 3 4 ...
3) 生徒一人一人の状況に目を向けるようになる	... 1 2 3 4 ...
4) いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり, 定着してきている	... 1 2 3 4 ...
5) 4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている	... 1 2 3 4 ...

6) 学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる	... 1 2 3 4 ...
7) 評価の4観点は, 観点どうしの関係性が分かりにくい	... 1 2 3 4 ...
8) 「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について, 保護者の理解を得ることに苦勞する	... 1 2 3 4 ...
9) 評価規準や評価結果の妥当性等について, 担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する	... 1 2 3 4 ...
10) 学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない	... 1 2 3 4 ...

7) 観点別学習状況の評価について, 評価の資料の収集・分析, 評価の決定を円滑に実施できていますか。4観点それぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「技能・表現」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」に関する評価	... 1 2 3 4 ...

8) 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について, どのように感じていますか。1) ~ 4) のそれぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 「評定」は, 生徒の学習の到達の程度を端的に示しものであり, 保護者や生徒にとって有用である	... 1 2 3 4 ...
2) 「評定」は, 上級学校への入学者選抜のために有用である	... 1 2 3 4 ...
3) 学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない	... 1 2 3 4 ...

4) 観点別学習状況の評価を評定にどうつなげるかが分かりにくい..... 1... 2... 3... 4...

9 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)や観点別学習状況の評価などの趣旨について、あなたの学校では、保護者に対し、どのような方法で説明していますか。あてはまるものをすべて選んでください。特に説明を行っていない場合は「7」を選んでください。

1. 学校・学級だよりなどで説明
2. P T Aの会合などで説明
3. 学年保護者会や学級保護者会などで説明
4. 保護者面談や三者面談などで説明
5. 通信簿などに記載して説明
6. その他の方法
7. 特に説明を行っていない

10 学級や学年など集団の中で生徒が占める相対的な位置付けに関する情報は、どのように扱っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。そのような情報を収集していない場合は「7」を選んでください。

1. 通信簿等に記している
2. 面談等で、保護者に伝えている
3. 面談等で、生徒に伝えている
4. 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記している
5. 学年や学校内の教員で共有をしている
6. その他の場面で活用している
7. 相対的な位置付けに関する情報は収集していない

11 「総合的な学習の時間」について、観点を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」など、「総合的な学習の時間」の目的を踏まえた観点を設定している
2. 「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」など、教科との関連を明確にした観点を設定している
3. 「コミュニケーション能力」「情報活用能力」など、学校ごとに定める目標・内容に基づいた観点を設定している

12 「総合的な学習の時間」について、評価規準を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. すべての単元において、評価規準を設定している
2. 単元によっては、評価規準を設定している
3. 評価規準は設定していない

13 指導要録において、特別活動は、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」のそれぞれについて、十分満足できる場合に「 」を記すことになっています。このことについて、どのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 「活動」ごとに記録するのがよい
2. 「活動」ではなく、「態度」や「資質」を特別活動の目標に照らして評価するのがよい(例えば、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする態度や、自己を生かす能力など)
3. 個別に記録するのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい
4. その他

14 指導要録においては、「行動の記録」として各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動に関し、「基本的な生活習慣」「健康・体力の向上」「自主・自律」「責任感」「創意工夫」「思いやり・協力」「生命尊重・自然愛護」「勤労・奉仕」「公正・公平」「公共心・公德心」といった項目について、十分満足できる場合に「」を記すことになっています。このことについて、どのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 「項目」ごとに記録欄があるのがよい
2. 「項目」ごとに記録欄を設けるのではなく、主な事実や所見を文章で記述するのがよい
3. その他

15 指導要録の「総合所見及び指導所上参考となる諸事項」においては、生徒の成長の状況をとらえるため、様々な事柄が記録されています。あなたは、次のような事項を記入していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 各教科や総合的な学習の時間において、生徒の優れている点
2. 各教科や総合的な学習の時間において、生徒の努力を要する点
3. 特別活動に関する事実及び所見
4. 行動に関する所見
5. 進路指導に関する事項
6. 取得資格
7. 生徒の特徴・特技
8. 部活動
9. 学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況
10. 表彰を受けた行為や活動
11. 学力等について標準化された検査の結果
12. 学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報
13. その他

16 学習指導と学習評価の状況について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか。1)～9)のそれぞれについて、1.～4.の中からあてはまるものを1つ選んでください。

- 1) 学級全体の習得状況の確認、補充的又は発展的な指導の実施について
- A：毎時、学級全体の習得状況を確認するとともに、単元中や単元末も習得状況を確認し、それに基づき、補充的又は発展的な指導を行う時間を設けている。
- B：授業においては、新しい内容を着実に指導することを優先し、補充的な指導や発展的な指導は、個別指導で対応している。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 2) 評価方法を検討する際に配慮する事柄について
- A：評価規準などを改めて参照し、「身に付けさせたい力」を確認した上で、具体的な評価を行う。「身に付けさせたい力」の習得の度を測るのであるから、授業で用いていない教材や題材も積極的に用いている。
- B：授業で実際に行った活動を踏まえ、その内容の確認を行うような評価を行う。授業で指導した内容の定着の度を測るものであるから、授業で用いた教材や題材と異なるものはあまり用いていない。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 3) 実際の評価に当たっての、評価の4観点の関係のとらえ方について
- A：学力などを構造的に考え、評価を行っている（例えば、「思考・判断」に良い評価をつける場合は、「知識・理解」や「技能・表現」が十分に満足できる学習状況にあることを前提とするなど。）。
- B：各観点を明確に区別し、それぞれに適した方法を用いて評価を行うので、ある観点の評価を行うときに、別の観点のことを意識することはない。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

- 4) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について
- A：毎時、観点別学習状況を記録し、総括的な評価（学期末などの成績評価）を行うための材料を詳細に集めている。
- B：毎時、観点到配慮した指導は行うが、総括的な評価を行うための資料は1つ又は複数の単元などを見通して、適宜、集め記録している。

1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

5) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

A: 「関心・意欲・態度」を総合的な学力として考え、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。

B: 他の観点に係る学習状況は努力を要する水準でも、「関心・意欲・態度」は満足できるものと評価している。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

6) 「評定」の決定の方法について

A: いわゆる4観点を均等に評価して評定を決定している。

B: ある観点到他の観点到より重点を置いて、評定を決定している(例えば、関心・意欲・態度よりも他の観点到に重点を置くなど)。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

7) あなたの学校等における学習指導や学習評価への取組み状況について

A: 校内で指導計画を共有したり授業研究を行ったりして、指導と評価の一体化や教員の力量の向上に、学校全体や教育委員会等で取り組んでいる。

B: 評価規準の改善、評価方法の研究などは、教員個人に任されている。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

8) 新しい学習指導要領で示されている、「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させることについて

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

9) 新しい学習指導要領で示されている、思考力、判断力、表現力等をはぐくむための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」について

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

17) 中学校の観点別学習状況の評価について、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できていますか。1)～9)のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。あなたが指導している教科のみ御回答ください。

1) 国語

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「国語への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「話す・聞く能力」	... 1 2 3 4 ...
「書く能力」	... 1 2 3 4 ...
「読む能力」	... 1 2 3 4 ...
「言語についての知識・理解・技能」	... 1 2 3 4 ...

2) 社会

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「社会的事象への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「社会的な思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「資料活用の技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「社会的事象についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

3) 数学

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「数学への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「数学的な見方や考え方」	... 1 2 3 4 ...
「数学的な表現・処理」	... 1 2 3 4 ...
「数量、図形などについての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

4) 理科

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「自然事象への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「科学的な思考」	... 1 2 3 4 ...
「観察・実験の技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「自然事象についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

5) 音楽

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「音楽への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「音楽的な感受や表現の工夫」	... 1 2 3 4 ...
「表現の技能」	... 1 2 3 4 ...
「鑑賞の能力」	... 1 2 3 4 ...

6) 美術

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「美術への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「発想や構想の能力」	... 1 2 3 4 ...
「創造的な技能」	... 1 2 3 4 ...
「鑑賞の能力」	... 1 2 3 4 ...

7) 保健体育

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「運動や健康・安全についての思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「運動の技能」	... 1 2 3 4 ...
「運動や健康・安全についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

8) 技術・家庭

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「生活や技術への関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「生活を工夫し創造する能力」	... 1 2 3 4 ...
「生活の技能」	... 1 2 3 4 ...
「生活や技術についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

9) 外国語

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「表現の能力」	... 1 2 3 4 ...
「理解の能力」	... 1 2 3 4 ...
「言語や文化についての知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

18 その他、学習指導、学習評価の在り方について、御意見がありましたら、御自由に記述ください。

アンケートはここまでです。御協力、ありがとうございました。

高等学校教員調査

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、()に回答を記入してください。

無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。また、このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。

このアンケートは、小学校、中学校及び高等学校に勤務されている先生を対象としています。学校段階や職務内容によって答えにくい部分があるかも知れませんが、あまり考え込まず、お答えになれる範囲で進んでください。

あなた御自身や御勤務先の学校について伺います

1 あなた御自身のことについて、あてはまる番号に をつけてください。

1) 性別 1. 男性 2. 女性

2) 年齢 1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50歳以上

3) 職名等 1. 校長 2. 副校長, 教頭 3. 主幹教諭, 教務主任
4. それ以外の教員

4-1) 3)で3又は4に をつけた方に伺います。あなたは学級担任をしていますか。

1. している 2. していない

4-2) 4-1)で1に をつけた方に伺います。あなたが学級担任をしている学年は何年生ですか。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

5-1) あなたが指導している教科等は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 国語 2. 地理歴史 3. 公民 4. 数学 5. 理科
6. 保健体育 7. 芸術 8. 外国語 9. 家庭 10. 情報
11. 専門教育に関する各教科 12. 総合的な学習の時間
13. その他(学校設定科目・教科等)
14. 現在は教科等の指導を担当していない

5-2) 教科等を指導している方に伺います。あなたが担当している生徒は何人で
すか(複数の学校・学年, 複数の教科・科目等を担当している場合はそのべ合計の人数とする。)。

1. 80人以下 2. 81人～120人 3. 121人～160人
4. 161人～200人 5. 201人～240人 6. 241人～280人
7. 281人～320人 8. 321人～360人 9. 361人以上
10. 現在は教科指導を担当していない

6) 教科等を指導している方に伺います。週当たり担当している授業時数(単位
時間)は何時間ですか(各教科, 道徳, 総合的な学習の時間及び学級活動の指導
を行っている時間とティーム・ティーチングで協力している授業時数を基に計算
する。授業時数に組み込まれない朝の時間や給食の時間は除く。)。

()時間

7) 御勤務先の学校の設置形態は次のうちどれですか。

1. 国立 2. 公立 3. 私立

8) 御勤務先の校の学級数は全部でどれくらいですか(特別支援学級を除く。)。

1. 5学級以下 2. 6～8学級 3. 9～11学級 4. 12～14学級
5. 15～17学級 6. 18～20学級 7. 21～23学級 8. 24～26学級
9. 27～29学級 10. 30学級以上

・次に学習指導や学習評価の状況について伺います

日ごろ、生徒の学習指導をされている先生は、その経験に基づき、そうではない先生は、現在の学校の状況に基づき、お答えください。

2 あなたの学校や学級では、日ごろ、どのような授業や学習指導を心掛けていますか。特に力をいれているものを3つまで選んでください。

1. 教科書にあることを丁寧に教える授業
2. 教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業
3. 観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業
4. 専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業
5. 生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業
6. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業
7. 本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業
8. 小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に生徒に学習状況の評価を知らせる授業
9. 振り返りシートなどにより、生徒自らに学習状況の評価させる授業
10. 繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業
11. 習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業
12. コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業
13. 競争を適度に促す授業
14. 宿題を定期的に出す授業
15. その他

3 学習内容の習得が不十分な生徒（知識・理解などに課題がある生徒）をどのような方法で把握していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）

4. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

4 生徒の思考力や判断力、表現力といった力をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください（選択肢は**3**と同じ）。

1. 単元の区切りなどで実施する、業者作成のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
2. 単元の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）
3. 中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）
4. 生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察）
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル（ポートフォリオ）
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

5) 生徒の関心・意欲・態度をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください(選択肢は3と同じ)。

1. 単元の区切りなどで実施する, 業者作成のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
2. 単元の区切りなどで実施する, 教員自作のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)
3. 中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)
4. 生徒が, 自分で課題を選択し, 調べたことや考えたことに基づいて, レポートを書いたり発表したりする課題
5. 授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取組状況等の観察)
6. 生徒が記述したノート
7. 生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート
8. 挙手や発言の回数, 宿題提出, 忘れ物の頻度など
9. ワークシートや集めた資料などを長期的に蓄積した学習ファイル(ポートフォリオ)
10. 教員自らの経験や見識に基づく総合的な判断
11. その他の方法
12. 特段のことは行っていない

6) 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)」や観点別学習状況の評価について, これまでの実践を踏まえ, どのように感じていますか。1) ~ 10) のそれぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 授業の目標が明確になり, 学力などを多角的に育成することができる	... 1 2 3 4 ...
2) 生徒の学力などの伸びがよく分かる	... 1 2 3 4 ...
3) 生徒一人一人の状況に目を向けるようになる	... 1 2 3 4 ...
4) いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり, 定着してきている	... 1 2 3 4 ...
5) 4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている	... 1 2 3 4 ...

6) 学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる	... 1 2 3 4 ...
7) 評価の4観点は, 観点どうしの関係性が分かりにくい	... 1 2 3 4 ...
8) 「目標準拠評価」の趣旨や評価結果の妥当性等について, 保護者の理解を得ることに苦労する	... 1 2 3 4 ...
9) 評価規準や評価結果の妥当性等について, 担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦労する	... 1 2 3 4 ...
10) 学校における学習状況の評価が上級学校への入学者選抜の結果にそぐわない	... 1 2 3 4 ...

7) 観点別学習状況の評価について, あなたの学校では, どのように実施していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 指導要録に観点別学習状況を記録している
2. 通信簿に観点別学習状況を記録している
3. 定期テストなどにおいて, 観点到配慮した問題を課している
4. 定期テストなどに加え, 平常点を加味して, 評価を行っている
5. 指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている
6. その他

8) 観点別学習状況の評価について, 評価の資料の収集・分析, 評価の決定を円滑に実施できていますか。4観点それぞれについて, 「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「技能・表現」に関する評価	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」に関する評価	... 1 2 3 4 ...

9 観点別評価を踏まえて決定する「評定」について、どのように感じていますか。1)～4)のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 「評定」は、生徒の学習の到達の程度を端的に示しものであり、保護者や生徒にとって有用である.....	... 1 2 3 4 ...
2) 「評定」は、上級学校への入学者選抜のために有用である.....	... 1 2 3 4 ...
3) 学期末や年度末の「評定」を授業改善等に結び付けられていない.....	... 1 2 3 4 ...
4) 観点別学習状況の評価を評定にどうつなげるかが分かりにくい.....	... 1 2 3 4 ...

10 「目標に準拠した評価(いわゆる「絶対評価」)」や観点別学習状況の評価などの趣旨について、あなたの学校では、保護者に対し、どのような方法で説明していますか。あてはまるものをすべて選んでください。特に説明を行っていない場合は「7」を選んでください。

1. 学校・学級だよりなどで説明
2. P T Aの会合などで説明
3. 学年保護者会や学級保護者会などで説明
4. 保護者面談や三者面談などで説明
5. 通信簿などに記載して説明
6. その他の方法
7. 特に説明を行っていない

11 学級や学年など集団の中で生徒が占める相対的な位置付けに関する情報は、どのように扱っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。そのような情報を収集していない場合は「7」を選んでください。

1. 通信簿等に記している
2. 面談等で、保護者に伝えている
3. 面談等で、生徒に伝えている
4. 指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記している
5. 学年や学校内の教員で共有をしている
6. その他の場面で活用している
7. 相対的な位置付けに関する情報は収集していない

12 「総合的な学習の時間」について、観点を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」など、「総合的な学習の時間」の目的を踏まえた観点を設定している
2. 「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」など、教科との関連を明確にした観点を設定している
3. 「コミュニケーション能力」「情報活用能力」など、学校ごとに定める目標・内容に基づいた観点を設定している

13 「総合的な学習の時間」について、評価規準を学校等でどのように定め、評価を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. すべての単元において、評価規準を設定している
2. 単元によっては、評価規準を設定している
3. 評価規準は設定していない

14 指導要録の「総合所見及び指導所上参考となる諸事項」においては、生徒の成長の状況をとらえるため、様々な事柄が記録されています。あなたは、次のような事項を記入していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 各教科や総合的な学習の時間において、生徒の優れている点
2. 各教科や総合的な学習の時間において、生徒の努力を要する点
3. 特別活動に関する事実及び所見
4. 行動に関する所見
5. 進路指導に関する事項
6. 取得資格
7. 生徒の特徴・特技
8. 部活動
9. 学校内外における奉仕活動やボランティア活動の状況
10. 表彰を受けた行為や活動
11. 学力等について標準化された検査の結果
12. 学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報
13. その他

15 学習指導と学習評価の状況について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか。1)～9)のそれぞれについて、1.～4.の中からあてはまるものを1つ選んでください。

- 1) 学級全体の習得状況の確認、補充的又は発展的な指導の実施について
A：毎時、学級全体の習得状況を確認するとともに、単元中や単元末も習得状況を確認し、それに基づき、補充的又は発展的な指導を行う時間を設けている。
B：授業においては、新しい内容を着実に指導することを優先し、補充的な指導や発展的な指導は、個別指導で対応している。
1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B
- 2) 評価方法を検討する際に配慮する事柄について
A：評価規準などを改めて参照し、「身に付けさせたい力」を確認した上で、具体的な評価を行う。「身に付けさせたい力」の習得の度を測るのであるから、授業で用いていない教材や題材も積極的に用いている。
B：授業で実際に行った活動を踏まえ、その内容の確認を行うような評価を行う。授業で指導した内容の定着の度を測るものであるから、授業で用いた教材や題材と異なるものはあまり用いていない。
1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B
- 3) 実際の評価に当たっての、評価の4観点の関係のとらえ方について
A：学力などを構造的に考え、評価を行っている（例えば、「思考・判断」に良い評価をつける場合は、「知識・理解」や「技能・表現」が十分に満足できる学習状況にあることを前提とするなど。）。
B：各観点を明確に区別し、それぞれに適した方法を用いて評価を行うので、ある観点の評価を行うときに、別の観点のことを意識することはない。
1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B
- 4) 観点別学習状況の評価の記録を行う頻度について
A：毎時、観点別学習状況を記録し、総括的な評価（学期末などの成績評価）を行うための材料を詳細に集めている。
B：毎時、観点到配慮した指導は行うが、総括的な評価を行うための資料は1つ又は複数の単元などを見通して、適宜、集め記録している。
1. A 2. どちらかと言うと、A 3. どちらかと言うと、B 4. B

5) 「関心・意欲・態度」に関する評価について

A: 「関心・意欲・態度」を総合的な学力として考え、他の観点に係る学習状況の評価を踏まえ、評価している。

B: 他の観点に係る学習状況は努力を要する水準でも、「関心・意欲・態度」は満足できるものと評価している。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

6) 「評定」の決定の方法について

A: いわゆる4観点を均等に評価して評定を決定している。

B: ある観点到他の観点到より重点を置いて、評定を決定している(例えば、関心・意欲・態度よりも他の観点到に重点を置くなど)。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

7) あなたの学校等における学習指導や学習評価への取組み状況について

A: 校内で指導計画を共有したり授業研究を行ったりして、指導と評価の一体化や教員の力量の向上に、学校全体や教育委員会等で取り組んでいる。

B: 評価規準の改善、評価方法の研究などは、教員個人に任されている。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

8) 新しい学習指導要領で示されている、「基礎的・基本的な知識及び技能」を確実に習得させることについて

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

9) 新しい学習指導要領で示されている、思考力、判断力、表現力等をはぐくむための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」について

A: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできる。

B: 授業内容や指導の方法などが具体的にイメージできない。

1. A 2. どちらかと言うと, A 3. どちらかと言うと, B 4. B

16 高等学校の観点別学習状況の評価について、評価の資料の収集・分析、評価の決定を円滑に実施できていますか。1)～10)のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。あなたが指導している教科のみ御回答ください。

1) 国語

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「話す・聞く能力」.....	... 1 2 3 4 ...
「書く能力」.....	... 1 2 3 4 ...
「読む能力」.....	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」.....	... 1 2 3 4 ...

2) 地理歴史

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」.....	... 1 2 3 4 ...
「資料活用の技能・表現」.....	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」.....	... 1 2 3 4 ...

3) 公民

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」.....	... 1 2 3 4 ...
「資料活用の技能・表現」.....	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」.....	... 1 2 3 4 ...

4) 数学

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」.....	... 1 2 3 4 ...
「数学的な見方や考え方」.....	... 1 2 3 4 ...
「表現・処理」.....	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」.....	... 1 2 3 4 ...

5) 理科

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「観察・実験の技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

6) 保健体育

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「運動の技能」	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

7) 芸術

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「芸術的な感受や表現の工夫」	... 1 2 3 4 ...
「創造的な表現の技能」	... 1 2 3 4 ...
「鑑賞の能力」	... 1 2 3 4 ...

8) 外国語

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「表現の能力」	... 1 2 3 4 ...
「理解の能力」	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

9) 家庭

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

10) 情報

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
「関心・意欲・態度」	... 1 2 3 4 ...
「思考・判断」	... 1 2 3 4 ...
「技能・表現」	... 1 2 3 4 ...
「知識・理解」	... 1 2 3 4 ...

17 その他，学習指導，学習評価の在り方について，御意見がありましたら，御自由に記述ください。

アンケートはここまでです。御協力，ありがとうございました。

保護者調査

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、() に回答を記入してください。

無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。

このアンケートは、小学校から高等学校のお子様のいらっしゃる保護者の方を対象としています。年齢幅が広いので、答えにくい部分があるかも知れませんが、あまり考え込まず、お答えになれる範囲で進んでください。

御家庭に複数のお子様がいいらっしゃる場合、このアンケートを持ち帰ったお子様について、御回答ください。

お子様やあなた御自身について伺います

1 あてはまる番号に をつけてください。

1) お子様の性別

1. 男性 2. 女性

2) お子様の学年

1. 小5 2. 中2 3. 高2

3) お子様とあなたの関係

1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. 祖母 5. その他

4) お子様の学校の設置形態は次のうちどれですか。

1. 国立 2. 公立 3. 私立

次に学校の状況について伺います

2 学校において、どのような授業や学習指導を望みますか。特に望ましいものを3つまで選んでください。

1. 教科書にあることを丁寧に教える授業
2. 教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業
3. 観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業
4. 専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業
5. 子どもがグループで話し合ったりして考えなどをまとめる授業
6. 子どもが、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業
7. 本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業
8. 小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に子どもに学習状況の評価を知らせる授業
9. 振り返りシートなどにより、子ども自らに学習状況の評価させる授業
10. 繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業
11. 習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業
12. コンピュータやプロジェクト、電子黒板などを活用する授業
13. 競争を適度に促す授業
14. 宿題を定期的に出す授業
15. その他

3 現在，学校では，学級や学年など集団の中でのお客様の成績の順位（「相対評価」）ではなく，ある課題ができたかできないかなど，一人一人の子ども達の達成度（「目標に準拠した評価（いわゆる「絶対評価」）」）を評価しています。このことについて，知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 . 知っている 2 . 知らない

4 3で示したとおり，現在，学校では，「相対評価」ではなく，「目標に準拠した評価（いわゆる「絶対評価」）」を行っています。このような評価の仕組み，趣旨などについて，お客様の学校から，どのような方法で説明を受けていますか。あてはまるものをすべて選んでください。特に説明を受けていない場合は「7」を選んでください。

- 1 . 学校・学級だよりなどで説明
 2 . P T Aの会合などで説明
 3 . 学年保護者会や学級保護者会などで説明
 4 . 保護者面談や三者面談などで説明
 5 . 通信簿などに記載して説明
 6 . その他の方法
 7 . 特に説明を受けていない

5 3で示したとおり，現在，学校では，「相対評価」ではなく，「目標に準拠した評価（いわゆる「絶対評価」）」を行っています。このことについて，どのように感じていますか。1）～6）のそれぞれについて，「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中からあてはまるものを1つ選んでください。

そう
思う まあ
そう思う あまり
そう思わない そう
思わない

- 1) 通信簿などにおいて，「知識」や「思考」，「関心・意欲・態度」など，子どもの学力の様々な面が示されており，分かりやすい..... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...
- 2) 子どもの学力などの伸びがよく分かる..... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...
- 3) 先生が，子ども一人一人の状況に目を向けてくれている..... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...
- 4) 通信簿などにおいて，見るべき箇所が多くて，分かりにくい ... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...
- 5) 評価に，先生の主観が入っているのではないかと不安がある... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...
- 6) 学級や学年など集団の中で位置付けが分からず，入学者選抜などに向けて不安がある..... 1 ... 2 ... 3 ... 4 ...

() 1) と 4) については，お客様の通われている学校の通信簿などでは，あてはまらない場合があります。

6 お子様の授業の理解の程度を何を通して把握していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1．通信簿などにおいて、教科ごとに3～5項目程度にわたって示されている各観点ごとの評価（高等学校では示されていないことも多い）
- 2．通信簿などにおいて、教科ごとに5段階程度で示される全体的な評価（小学校では示されていないことも多い）
- 3．小テストやワークシートの結果
- 4．定期テストの結果
- 5．その他の子どもの作品
- 6．先生との面談
- 7．授業参観での様子
- 8．子どもとの日常の会話
- 9．家庭での宿題などの指導
- 10．その他

7 学級や学年など集団の中でのお子様の成績の順位を、学校から知らされていますか。あてはまるものをすべて選んでください。ここに掲げたようなことを特に行われていない場合は「4」を選んでください。

- 1．通信簿等に記されている
- 2．面談等で、先生より保護者に伝えられている
- 3．面談等で、先生より子どもに伝えられ、子どもより保護者に伝えられている
- 4．ここに掲げたようなことは特に行われていない

アンケートはここまでです。御協力、ありがとうございました。

小学校教員調査（小学校における外国語教育）

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、() に回答を記入してください。
無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。また、このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。

1 小学校における外国語教育について伺います。

1) 平成23年度より、5年生及び6年生において外国語活動が導入されます。また、時間割等を工夫して、低・中学年からの外国語の教育に取り組んでいる学校もあります。今年度においては、あなたの学校は、外国語教育を何年生から実施する計画ですか。1. ~ 6. の中から あてはまるものを1つ 選んでください。

1. 低学年（1年生又は2年生）から
2. 中学年（3年生又は4年生）から
3. 高学年（5年生又は6年生）から，年間0～20時間程度
4. 高学年（5年生又は6年生）から，年間21～34時間程度
5. 高学年（5年生又は6年生）から，年間35時間以上
6. 特に実施していない

2) 今後、小学校における外国語の教育は何年生から実施していくのがよいと思いますか。 あてはまるものを1つ 選んでください。

1. 低学年（1年生又は2年生）から
2. 中学年（3年生又は4年生）から
3. 新しい学習指導要領のとおり，高学年（5年生又は6年生）から
4. 小学校における外国語の教育は不要である

3) 今後、小学校5年生及び6年生における外国語の教育はどのように実施していくのがよいと思いますか。 あてはまるものを1つ 選んでください。

1. 新しい学習指導要領のとおり，週1単位時間程度実施
2. 総授業時数は変えず，他教科等の時間を縮減し，週2単位時間以上実施
3. 総授業時数を増やし，他教科等の時間は縮減せず，週2単位時間以上実施
4. 小学校における外国語の教育は不要である

4) 現在、あなたが所属している学校の実践を踏まえ、小学校における外国語の教育について、どのようなことを感じますか。1) ~ 6) のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中から あてはまるものを1つ 選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 早くから外国語に親しめば外国語への抵抗はなくなる.....	... 1 2 3 4 ...
2) 外国語の発音は小学生のときから学んだ方が身につく.....	... 1 2 3 4 ...
3) 外国人とコミュニケーションをとる態度が身につく.....	... 1 2 3 4 ...
4) 外国語以外の教科等の力を身に付けることがおろそかになる.....	... 1 2 3 4 ...
5) 正しい日本語を身に付けることがおろそかになる.....	... 1 2 3 4 ...
6) 早くから外国語嫌いになる可能性がある.....	... 1 2 3 4 ...

5) 小学校において、外国語の教育を実施していく際、どのような内容を行うべきだと思いますか。1) ~ 10) のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中から あてはまるものを1つ 選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 英語の歌を歌ったり，ゲームをしたりする活動.....	... 1 2 3 4 ...
2) 身近なものの名前を英語で言う活動.....	... 1 2 3 4 ...

- 3) 英語のリズムや発音の練習..... ... 1 2 3 4 ...
- 4) あいさつや自己紹介などの簡単な会話を
する活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 5) 買い物や道案内など、いろいろな
場面で使う英語を練習する活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 6) 外国のことを知る活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 7) アルファベットや英語の単語を
読む活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 8) アルファベットや英語の単語を
書く活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 9) 英語の文章を読んだり書いたり
する活動..... ... 1 2 3 4 ...
- 10) 英語の文法などに係る指導..... ... 1 2 3 4 ...

6) 今後、小学校における外国語活動を円滑に実施していく上で、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。特に課題がない場合は「14」を選んでください。

- 1. 小学校教員の英語力や指導力の向上
- 2. 外国語活動専任教員の確保
- 3. 外国人指導助手（ALT）の確保
- 4. 英語に堪能な民間人などの確保
- 5. ティームティーチングや少人数指導などきめ細かな指導の実施
- 6. 教員間や外国人指導助手（ALT）などとの打ち合わせ時間の確保
- 7. 教材・教具等の開発や準備
- 8. 学年に合わせた指導内容の開発
- 9. 外国語活動の評価の方法の開発
- 10. 中学校との連携の促進
- 11. 外国語活動の内容に関する保護者の理解
- 12. コンピュータなどのICT機器の活用
- 13. その他
- 14. 特に課題はない

アンケートはここまでです。御協力，ありがとうございました。

中学校教員調査（小学校における外国語教育）

アンケート御記入に当たってのお願い

あてはまる番号に をつけるか、() に回答を記入してください。
無記名アンケートですので、住所及び氏名の記入の必要はありません。また、このアンケートの結果に基づき、学校評価や教員評価を行うことはありません。

1 小学校における外国語教育について伺います。

1) 小学校における外国語の教育について、どのようなことを感じますか。1) ~ 6) のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中から あてはまるものを1つ 選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 早くから外国語に親しめば外国語への抵抗はなくなる.....	... 1 2 3 4 ...
2) 外国語の発音は小学生のときから学んだ方が身につく.....	... 1 2 3 4 ...
3) 外国人とコミュニケーションをとる態度が身につく.....	... 1 2 3 4 ...
4) 外国語以外の教科等の力を身に付けることがおろそかになる.....	... 1 2 3 4 ...
5) 正しい日本語を身に付けることがおろそかになる.....	... 1 2 3 4 ...
6) 早くから外国語嫌いになる可能性がある.....	... 1 2 3 4 ...

2) 小学校において、外国語の教育を実施していく際、どのような内容を行うべきだと思いますか。1) ~ 10) のそれぞれについて、「そう思う」から「そう思わない」までの4つの回答の中から あてはまるものを1つ 選んでください。

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
1) 英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりする活動.....	... 1 2 3 4 ...
2) 身近なものの名前を英語で言う活動.....	... 1 2 3 4 ...
3) 英語のリズムや発音の練習.....	... 1 2 3 4 ...
4) あいさつや自己紹介などの簡単な会話をする活動.....	... 1 2 3 4 ...
5) 買い物や道案内など、いろいろな場面で使う英語を練習する活動.....	... 1 2 3 4 ...
6) 外国のことを知る活動.....	... 1 2 3 4 ...
7) アルファベットや英語の単語を読む活動.....	... 1 2 3 4 ...
8) アルファベットや英語の単語を書く活動.....	... 1 2 3 4 ...
9) 英語の文章を読んだり書いたりする活動.....	... 1 2 3 4 ...
10) 英語の文法などに係る指導.....	... 1 2 3 4 ...

アンケートはここまでです。御協力、ありがとうございました。

平成21年度文部科学省委託調査報告書

学習指導と学習評価に対する意識調査 報告書

平成22年1月

財団法人 日本システム開発研究所

〒162-0067 東京都新宿区富久町16番5号

本件担当 TEL:03-5379-5914 FAX:03-5379-5924